論　説

# 習近平の原点と「紅色基因（あかいＤＮＡ）」
## ――毛沢東・鄧小平への継承と超越（2）

夏　　剛

### 旋回――「政治的気候」の変動・循環と左・右２極間の揺れ動き

中国では近年**「鄙視鏈」（蔑視の連鎖）という名の優劣順位**が現れ，**様々な消費行動や生活様式等に於ける経済力や趣味等で序列が付けられる。視聴する電視劇（テレビドラマ）の産地**は，上位から英国・米国・日本・韓国・香港（ホンコン）・台湾・中国大陸・泰（タイ）の順と為る。**人気の旅行先**は下位の香港（ホンコン）・澳門（マカオ）より東南亜細亜（アジア）・日本・欧（東→中→西→北）米・阿弗利加（アフリカ）へと上がり，最も費用・稀少価値の高い南極が頂点に在る。亜細亜（アジア）の旅先は印度（インド）＞日本＞台湾＞新嘉坡（シンガポール）＞韓国＞香港（ホンコン）・澳門（マカオ）という説が有るが，**番外の北朝鮮は心理的にはその最下位よりも低い**であろう。

『南方週末』2013年新年号の「開年十大猜」（年頭10大予想）は検閲の結果，「（独（ひと）り子政策で規制される）２人目の出産は全国で解禁されるか」「資産公開制度の小範囲実験に対する他省の追随は有るか」「労働教育制度の緩和は有るか」「中国の旅券（パスポート）所持者に対する査証（ビザ）免除国は増えるか」が没と為ったが，最後の問いは**中国人の海外行きの願望の強さと障碍の多さ**を思わせる。北朝鮮は隣の同盟国にも免除措置を取らないから2010年代に人気を博して来たのは訝れるが，行きたい人々は**毛沢東時代を追体験する「時光旅行（タイム・トラベル）」**の心算（つもり）も有る。

多くの観光客は北朝鮮の厳しい管制と貧しい生活を目（ま）の当りにして，**数十年前の自国の暗い歴史，自分の苦い体験と重ねて今の幸せを味わう**が，**中国は毛沢東時代に逆戻りする事が有り得ないという幸福感の大前提は，「習近平新時代」の内政・外交の「左」旋回に由って揺らぎ始めた。**劉進の「文革」謝罪の総括に有る「如何なる個人と団体も憲法を超越しては行けない」は，**『南方週末』新年献辞の憲政提唱と同工異曲の良識で為政者を牽制する意図が有ろう**が，**当局の答えは権勢で抑圧し「7不講」に徹底し憲法を弄（いじ）る強硬措置**である。

習近平は「19大」政治報告で「党政軍民学，東西南北中，党是領導一切的。」（党・政・軍・民・学，東・西・南・北・中，党は一切を指導するのだ）と述べ，**全領域・地域に対する統**

**治権を示す命題は党規約に追加された**。毛沢東が1962年「7千人大会」で説く「党是領導一切的」と，73年12月14日に一部の政治局成員に語る「政治局是管全部的」（政治局は全てを管理するのだ）に続く「党政軍民学，東西南北中。」は，『人民日報』74年「7.1」社説「党是領導一切的」で合成されたが，**「文革」末期の「天声」は43年後に唐突に甦（よみがえ）った**。

**党の最高の「喉舌」（代弁・発信装置）を為す中央機関紙**の建党53周年記念社説は，「中国共産党は全中国人民の指導核心である。この様な核心が無ければ，社会主義事業は勝利できない」という**毛沢東語録**（中国新民主主義青年団第3回全国代表大会出席の全代表を接見した時の講話，1957.5.25）をも引いた。**「反右派闘争」を決意した10日後と発動の7日前の論断**は，『毛主席語録』（中国人民解放軍総政治部編，1965）の「一　共産党」の第4節として，**「文革」中「億万軍民」が学習・暗唱に由って脳裏に深く刷り込まれた**名言である。

総政治部の「前言（まえがき）」（建軍38周年の「8.1」）が付く初版は，翌年に林彪の「前言（まえがき）」（1966.12.16）を掲げて再版した。**軍から社会に広がる学習熱（ブーム）は領袖への崇拝を高め，「文革」はこの意味でも「先軍」の性質を帯びる。総政治部機関紙『解放軍報』は「文革」中『人民日報』『紅旗』との2紙1誌共同社説・論述に名を連ねたが，新年共同社説で指導部の号令を伝える北朝鮮の3紙も，労働党中央機関紙『労働新聞』に人民武装力省機関紙『朝鮮人民軍』，金日成青年社会主義同盟**（前身創立50周年の1996.1.17に改称）**機関紙『青年前衛』**と続く。

『人民日報』『紅旗』『解放軍報』の**「両報一刊」発信**は，建国17周年の前日（1966.9.30）の編集部論説**「無産階級専政（プロレタリアどくさい）下の文化大革命の勝利万歳」に始まった**。毛沢東・江青の独り娘李訥は同年に北京大学歴史学部を卒業後『解放軍報』編集者と為り，翌年1月の造反で総編領導小組組長（編集長相当）の座に就き，中央文革辦事組（事務局）責任者を兼務した。林彪・葉群の独り娘立衡も「文革」中『空軍報』（空軍政治部機関紙）副編集長を担当し，**正・副統帥2人組（コンビ）の各々の意向に由る特別人事は銃・筆の同時掌握への重視**を思わせる。

李訥は1967年1月13日に「革命造反突撃隊」を組織し，大字報で『解放軍報』編集長代理・新華通訊社（国家通信社）社長代理の胡痴（1917～2001）を批判し，17日の林彪の支持表明を得て総責任者の権力を奪った。**林の「文革」点火は毛沢東が仕掛けた『海瑞罷官』批判・中央辦公庁主任更迭の時期にも有り**，彼は1965年11月18日に次年度の全軍工作に関する指示で，毛主席の著作は我々全軍の各項工作に於ける最高指示であると語ったが，**「最高指示」は「文革」中に毛の著書・講話・書面訓示の代名詞として広く盛んに使われた**。

1966年8月4日に中央は毛沢東の意思に従って通達を出し，今後「最高指示」の類の表現は使わないよう提起したが，**大衆の感情や当面の闘争の必要性を考慮すれば突然の全面禁止は宜しくない**とも記した。**毛が過度の個人崇拝に警戒・嫌悪を吐露したにも関らず，林彪事変後の1972年1月13日になって**，新華社・人民日報社・中央放送事業局の通達に由り，**「最高指示」等の用語は漸く廃止するに至った。党・国家の両主席の訣別や李訥の解**

**放軍報社内での造反の5年後の清算は，個人崇拝の熱狂・暴走の減速・停止の困難を現した。**

党・軍2紙1誌の共同言説も遂に終焉を迎え，1978年3月31日の社説「神州九億争って飛躍――全国科学大会の勝利（円満）閉幕に歓呼する」が最後と為った。**軍人の比率が代表・新中央で突出した「9大」の開会9周年の前日に「先軍」統治の表徴は1つ消え，意識形態（イデオロギー）先導の要の理論誌『紅旗』も10年後の6月16日号を以て廃刊した。初代編集長陳伯達は同誌創刊8周年の1966年6月1日に，『人民日報』社説「全ての妖怪変化を一掃せよ」の起草・発表を主導したが，「中央文革」組長の煽動は2紙1誌の連合発信の起点**とも言える。

最後の2紙1誌社説の題と為る全国科学大会（3.18～31）は，党中央・国務院が主催し5586人が参加した盛会である。**世紀末までの実現を目標とする「4つの現代化」の内，農業・工業・国防に次ぐ科学技術の発展はこれを発条（ばね）に加速した。中共史観で中国現代史の起点を為す1919年の「5.4運動」**（北京で学生示威行進（デモ）隊と軍警の衝突が発端で起った民衆の反帝・反封建運動）**でも，科学は民主と共に社会進歩の実現手段として唱えられたが，改革・開放時代の科学の目覚（ざ）ましい進化と逆に，民主は「5.4運動」の100年後に寧ろ後退した。**

大会の初日に鄧小平が基調講演を行い，7日目に華国鋒が講話を行い，閉会式で中国科学院院長郭沫若（まつ）（1892～1978）が書面談話を発表した。郭の「英明な領袖華主席と敬愛なる鄧副主席」の呼称の様に，**党首は序列No.3の鄧を凌ぐ別格の存在**であるが，**鄧は長年の実績と内外の支持に由って声望が華を上回り**，「現代化の鍵は科学技術の現代化」，「知識人は労働者階級の一部分」の主張も熱烈に歓迎された。鄧が「知識人は世界観を改造する必要が有る」という汪東興提案の文言を却下（きゃっ）した事に，**守旧派に対する改革派の優位**が現れた。

作家・詩人・歴史学者・考古学者・古文字学者・社会活動家の郭沫若は，**「文革」中の当局迎合の軟弱・無節操で汚名を遺したが，代筆・代読に由る閉会式の書面講話（スピーチ）の美文調の結語は語り継がれて来た。**「春分剛剛過去，清明即将到来。」（春分は過ぎ去ったばかりで，清明は間も無く到来する）に続いて，白居易の詞（うた）「憶江南」の「日出江花紅勝火，春来江水緑如藍」（日出（い）づれば江花紅（あか）きこと火に勝り，春来（こ）らば江水緑（あお）きこと藍（あい）に如（し）く）を引き，我々は両手を挙げて革命の春・人民の春・科学の春を熱烈に抱擁（ほう）しようと**情熱を迸（ほとばし）らせている。**

華国鋒は前年の「11大」（8.12～18）政治報告で，「文革」は「4人組」粉砕を以て終了したと宣言する一方，第1次「文革」が成功裡に終った事は階級闘争・無産階級専政（プロレタリアどくさい）下の継続革命の終結ではなく，今後も無産階級（プロレタリア）対資産階級（ブルジョア）の闘争・社会主義の道対資本主義の道の闘争を綱領と為し続けると強調した。**11年前の8期11中全会閉会・毛沢東の第1次紅衛兵観閲と重なる開会・閉会日**や，秋の気配が感じられる立秋（8.7）と暑さが収まる処暑（8.23）の間の時期は，**猶（なお）消えぬ「文革」の陰影の徴（しるし）や酷暑が過ぎた後の残暑の兆し**の様に思える。

政治報告では新時期の党の基本任務として，今世紀に於ける社会主義現代化強国の建設完成が改めて打ち出された。**経済発展を最優先する鄧小平は先取りして**4～8日に科学・教

育工作座談会を主催し，**大学推薦入試に変る一般募集の復活を決断し**教育部に従来通りの予定を変更させた。教育部主催の大学入試募集工作会議（8.13～9.25）を経て国務院は10月12日に正式に決定し，21日の公表後11月から各地で入試が始まった。570万人の志願者の内27.3万人（4.8%）が合格し，**変則の春季入学の時機は「科学の春」に巡り合せた。**

**「文革」中の教育の「厳冬」時代は発動の前夜の毛沢東「5.7指示」に遡れ**，彼は軍隊の農業・副業生産の促進に関する林彪宛の手紙で学制の短縮と教育の革命を唱えた。「8.8」16条決定も古い教育制度・方針の改革を「文革」の極めて重要な任務の1つとしたが，教育の高度化・専門化や教師の権威化・知識人の特権化を否定し，徳育・智育・体育とも優れた革命的な青少年の養成を追求する毛は，**「文革」専念の為の学業停止や教学の平易・簡素化を支持し卒業生の農村定住を促す**等，**10年に亘る学級崩壊・教育荒廃と知の断層**を齎（もたら）した。

毛沢東は清華大学「100日戦争」制圧の1週間前の1968年7月21日に，「上海工作機械工場から技術者養成の道を考える」と題した調査報告に訓示を書き，大学（主に理工系）を再開し，実践経験が有る労働者・農民から学生を選抜し，学校で何年か学ばせた後に生産現場に戻らせるよう命じた。**1970年に限定的に再開した大学募集は，推薦受験の「工農兵学員」（労働者・農民・兵士出身者の学生）に限定された。「教育革命」の一環として大学を含む全国の学校は労・農・兵に管理され，教学の秩序・水準は建国後の最悪に落ち込んだ。**

1971年の全国教育工作会議（4.15～7.31）「紀要」（議事録）で，①建国後の教育部門では指導権は無産階級（プロレタリア）の手中には無く，反革命修正主義路線を取って来た，②大多数の教員の世界観は基本的に資産階級（ブルジョア）のもので，彼等は資産階級（ブルジョア）の知識人だ，という「2つの評価」が下された。遅群（1932～99，元中央警衛団政治部宣伝科副科長，清華大学党委副書記兼革委会副主任・国務院科教組主要成員）が起草し，**姚文元・張春橋の潤色・審査を経て毛沢東の承認を得た文書は，79年3月に中央が無効にするまで教育事業・工作車の足枷と為った。**

**大学入試正常化の最大の障害は故領袖が同意した「文革」前の教育への全面否定**であるが，**鄧小平は極左派主導の「紀要」形成の内幕を暴く事で顧慮を消し，教育に於ける「文革」の破壊への是正と健全な制度の復帰に成功した。社会の公平・公正・良識を取り戻し人材の空白を埋める事に役立つ選抜入試の再開は，1本の鍵で10個の錠を開ける様な妙手**である。「開鎖」（解錠）の字面に有る**閉鎖への解禁は鄧に由って色々敢行され**，入試の問題・解答用紙の不足を解消する為，『毛沢東選集』第5巻の印刷用紙で充（あ）てる**「禁じ手」が使われた。**

**鄧小平の1976年初めの失脚の動因は，「文革」肯定の決議の起草を仕切る任を拒んだ事**である。彼を指名した毛沢東は1975年11月13日に，古参幹部に「文革」擁護の必要性を認識させるよう，周栄鑫（きん）（1917～76，教育相）・李昌（1914～2010，元国務院対外連絡委員会副主任・北京第2外国語学院院長）・胡耀邦・胡喬木（倶に免官中）・劉氷（1921～2017，清華大学党委副書記）・李井泉（時の中央委員・全人代副委員長）等の数十人に声を掛ける

必要が有ると指示したが，上の5人は**教育や中国科学院の整頓を指導する者ばかり**である。

1975年1月から中央の日常業務を主宰した鄧小平は**左傾の弊害を除去する**為に，「工業の発展の加速に関する若干の問題」「科学院工作の報告要綱」「全党全国の各種工作の総綱を論ず」を用意した。3文書に有る中国科学院の整頓は胡耀邦・胡喬木・李昌に特命を与えた重要事項で，**近代化に不可欠の科学技術に掛ける意気込み**が窺われる。**新内閣**（1975.1.17全人代任命）**の組成を巡る「4人組」との暗闘で，周恩来は国の命運に関る重要閣僚として教育相を譲らず側近に委ねた**が，周栄鑫と共に格下の劉氷の名が出たのは深い事情が有る。

劉氷は清華大学の幹部3人と連名で8月・10月に毛沢東に手紙を書き，党委書記遅群・副書記謝静宜（1935～2017）の**仕事・思想の欠点を告発**した。遅・謝は清華「100日戦争」平定に出動した解放軍毛沢東思想宣伝隊の責任者で，謝は1959年から毛の機密要務係を務め73年に中央委員・北京市委書記兼市革委副主任と為った。江青が其々教育相と全人代副委員長に推した遅と謝は**毛の寵臣**で，毛は鄧小平経由で送られて来た劉等の糾弾に就いて10月19日に李先念・汪東興等に対し，動機が不純で**矛先が自分に向けている**と断じた。

23日の政治局会議の決定に由り清華党委は11月3日に拡大会議を開き，毛沢東の指示を伝達し劉氷等の「誤り」に就いて討論した。参加者は53人から7日の約600人，12日の支部書記以上の1700人余りに膨（ふく）らんだ。18日の全学教師・学生大会で，劉等の「教育革命を否定し“文革”に対し巻き返しを図る反動的な言論」が摘発・批判され，当日に2千枚以上の大字報が貼り出された。北京大学の幹部が参会した事で**「教育革命辯論」は文系の最高学府にも波及し，9年半前の北大発の「文革」の狂風は毛の煽動で再び両校を席巻した。**

「文革」への古参組の不満の解消を期す毛沢東は周栄鑫等の事前心得を求める訓示で，東晋（317～420）の詩人陶淵明（365か72或いは76～427）の散文「桃花源記」に因んで，社会から疎外された彼等は「桃花源中人，不知有漢，何論魏晋。」と書き，主流派との隔絶に理解が有る姿勢を示した。20日の政治局会議で鄧小平はその苦心を逆手に取って，自分は「桃花源の中の人，漢有ることを知らず，魏・晋を論（あげつら）うこと無し」だから，決議の起草責任者には適しないと言ったが，**婉曲に嘱託を断るこの一言で彼の失墜は決定的と為った。**

漁夫が道に迷って入り込む桃林の奥の村里での見聞の記述中，「不知有漢，無論魏晋。」の前に「先世避秦時乱，率妻子邑人来此絶境，不復出焉，遂與外人間隔。」（先の世秦の時の乱を避け，妻子邑（ゆう）人を率いて此の絶境に来たり復出（またい）でず，遂に外人と間隔せり）と有る。**古典の名文を用いた切り返しは「文革」を秦の乱に譬える嫌味も帯びたが，2年前に「復出」（復帰）を果した鄧小平は数ヵ月後「與外人間隔」の軟禁下に置かれ，この日に還暦を迎えた胡耀邦も共倒れしたが，鄧は後に晩年の毛沢東と似て自分の意に沿わない彼の首を切った。**

周栄鑫は国務院秘書長（習仲勳失脚後1963.3～代理，65.1～75.1）として総理の信頼が厚いが，翌年の「右からの巻き返しの風」批判で激しい糾弾に倒れ4月13日に逝った。**毛沢**

**東が 2 番目に目を付けた李昌は 1978 年末の中央工作会議で「天安門事件」の名誉回復を首唱し，次の胡耀邦も「文革」清算の主力を為したので毛の警戒は理に適う。**胡は 1971 年の全国教育会議の結論に対する否定を導いたが，開会の 18 年後の**死の引金**と為る 4 月 8 日の政治局会議での心臓発作は，**懸念の教育問題**に就いて発言しようとした瞬間の事である。

遅群は第 10 期中央入りを逃した為，委員に当選した相棒の謝静宜と反目したが，共に「4 人組」と同時に逮捕・解任された。江青集団特別裁判の 2 年後（1983）の「党羽」（徒党）に対する裁判で，遅は反革命集団参加・反革命宣伝煽動・誣告陥害罪で懲役 18 年に処され，謝は素直に自白し罪を認めたとして不起訴と為った。政治局会議への列席等で重用された謝は毛沢東の愛人と見られるが，両者の**処遇・結末の大差**との関連はともかく**「文革」末期で果した役割が大きく，遅・謝の清華・北大支配は毛の「先軍」・側近統治の典型**と言える。

「11 大」直前の**科学・教育工作座談会に臨む鄧小平の軍服姿も「先軍」色**が有り，彼の**改革・開放は政権を生んだ鉄砲が盾と為る開発独裁**に他ならぬ。**1970 年代以降の「東亜細亜の奇跡」と呼ばれる広域の雁行型高度成長では，先頭を飛ぶ「昇龍」日本に次ぐ「4 小龍」（4 頭の小さい龍）の韓国・台湾・香港・新嘉坡，「4 小虎」のインドネシア・泰・馬来西亜・比律賓の内に，民主主義国家の日本と英国領の香港を除いて全て独裁開発の道を歩み，中国の特色有る社会主義建設も亜細亜の専制政治の伝統を継ぐ独裁の下で進められている。**

**鄧小平は「文革」後に再起した当初，「5.4 運動」と同じ民主発揚・科学発展を唱えた。**その会合で両領域の後方勤務部長として支援する姿勢を示し，懇切に意見・要求を聴いた。30 人余りの科学者・教育工作者は**彼を強く待望しつつも，「極左」思潮の束縛で口を噤んだ。**年功序列で最初に発言した楊石先（1897～1985，化学者，［天津］南開大学学長）は開口一番，自分の世界観の改造が出来ておらず，工場・農村で再教育を受けねばならぬと言った。この様に**旧い時代の「解凍」（雪融け）は時間が掛り**，3 日目の午後に漸く転機が訪れた。

最高指導部成員はこの種の座談会では開会や閉会の時に顔を出すのが精々であるが，鄧小平は 5 日間に外賓会見の為の半日休会を除く全過程に参加した。**全員の発言に一言も漏らさず耳を傾け本音を引き出そうとする真摯さが実って**，6 日午後に清華大学党委副書記何東昌（1923～2014）から苦情が訴えられた。**同校の新入生は文化的な素質が劣り過ぎて，多くの人は小学生の水準しか無く中学の科目の補習をしなければ行けない，と聞いて鄧小平は憮然として，何が大学か，いっその事「清華中学」「清華小学」と呼べば可いと斬った。**

武漢大学副教授査全性（1925～　，電気化学者）はその酷評に鼓舞されて，新入生の質の問題は**中・小学の教学の水準の低さと入試制度に原因が在り**，大学の品質担保の第 1 関門と為る入試制度には今 **4 つの弊害**が有り，即ち**人材の埋没，労・農・兵の子女の受験難，不正の悪風への助長，中・小学の学生・教師の意欲への深刻な影響**だと指摘した。次期の裏口入学の為の接待攻勢がもう始まっており，**大学に入るには知識の勉強は要らず好い父**

**親が居れば可い**，というのが小学生でさえ分る常識に為っている，と**大衆の憤懣**を代弁した。

毛沢東が1968年に指示した大学の部分再開は72年に全国で展開し，北京・清華両大学での試行の経験に由り入試を実施せず，「志願報名，群衆推薦，領導批准，学校復審」（自主的に出願し，群衆が推薦し，責任者が許可し，学校が再審査する）が選抜の手順と為った。中央は**裏口入学が頭を擡げる状況**に対し同年5月1日の19号文書で**根絶を厳命したが，贈賄・不正受験行為が横行した古代の科挙（官僚登用試験）の伝統や特権階級の形成，客観的・公正な基準が無い故に，腐敗の温床が黙認された環境の中で酷くなる一方**であった。

習近平の下放先の梁家河村でも1972年に入学募集の1名枠が有ったが，北京の教育部門の責任者が**我が子の為に振った「子弟指定席」**で群衆推薦は無かった。翌年の清華大学への志願も**父親の影響で遅群・謝静宜に却下されたが**，1975年の再要請で3志願とも清華に絞り延川県の同校枠（2名）を取った。**遅・謝不在の時期に劉冰が許可し**，洛陽鉱山機械工場も政治審査用の証明書で在籍の習仲勳の問題を「人民内部矛盾」としたので，**劉失脚の直前の10月入学は幾重の幸運の結果**であるが，**当時の最高の進路は2年後に価値が暴落した。**

1/3世紀後の**改革・開放成熟期の価値尺度に基づく学歴の「蔑視の連鎖」**では，**「工農兵学員」は高が正規採用の大学生以下の準高学歴者**に過ぎない。**理工科最高学府の「金字招牌」（金看板）もその数年の「激安売り」に由って，「含金量」（黄金［価値］含有量）が大幅に減り，寧ろ鄧小平の「清華小学」の酷評で訳有りの不良品と見られ易い。玉石混淆の中で習近平は後の党・軍・国の首領に相応しい抜群の水準に在ったとしても，毛沢東の「烏托邦」実験で出来た集団的な畸形は否めず，当初から有った負の形象は何時までも付いて回る。**

1974年1月18日の『人民日報』第1面に，南京大学政治学部哲学専攻2回生**鐘志民**（1952～　）の退学申請書が載った。彼は1968年10月に南昌第2中学を卒業後に瑞金県沙洲壩公社に赴いたが，**「中華蘇維埃共和国中央政府」所在地での再教育・定住は3ヵ月しか続かず，人気の兵隊募集で縁故を使って他公社の合格者（農民）の枠を横取りした。**更に**父親の福建軍区政治部副主任鐘学林**（1916～91，大佐）**に頼んで**，所在の26軍76師の2つしか無い**推薦枠で入学したが**，縁故採用を後悔して73年9月29日に退学届けを出した。

同期の30人中**7～8割を占めた軍人出身者の3割は幹部の子女**で，非軍人も革命委員会成員が多い。**特権層の鐘志民の意識が変化した契機は，福建省莆田県の小学校教師李慶霖**（1929～2004）**の上申書**（72.12.20）**と毛沢東の返信**（73.4.25）である。李は農村に出向いた3人の子の困難と自分の負担を訴え，頼りに為る親戚・知人が居ない窮状を嘆いた。毛は聊かの「米の無い炊事」の足しに為るよう300元を同封し，全国の類似の境遇は統一的に計画して解決す可きだと書き，21号中央文書（6.10）で遣り取りを公表し善処を促した。

「呼天不応，叫地不霊」（天に呼べども天は応じず，地に叫べとも地にその霊験無し），と言う**絶望に駆られた「告御状」（［皇帝に］直訴する）は，毛沢東の涙を誘い「知識青年」**

**と親の苦難を認識させ，毛が認めた「無米之炊」は「“五七一工程”紀要」が言う農民の衣食不足を認めた表現に為った。**「当今社会走後門成風，任人唯親」（目下の社会では裏口を利用する風習が蔓延り，任用は唯縁故に由る）という李の喝破も，伝達の際に**人々の共鳴を呼んだ。**鐘志民は慚愧に堪えず退学を決意し，裏口で入隊した軍にも行かず瑞金の村に戻った。

中央機関紙の宣揚の同日に**林彪・孔子批判を旨とする中央１号文書**が発布され，**北大・清華両校「大批判組」が纏めた資料**「林彪と孔孟の道」が添付された。7日後に江青が勝手に中央直属機関・国家機関の１万人以上を集めて「批林批孔」動員大会を開き，不意打ちの形で周恩来を引っ張って参加させた。江・姚文元は演説で国務院・軍委の指導者を扱き下ろし，郭沫若を立たせてその秦の始皇帝・孔子観は林と一緒だと糾した。遅群・謝静宜は古参幹部を攻撃する為に裏口採用を槍玉に上げ，マルクス＝レーニン主義への裏切りだと責めた。

**要人の顔に泥を塗る「1.25大会」は毛沢東の不興を買い，７年後の同日に「4人組」裁判の判決が下ったのも因果応報**である。彼等が突いた縁故採用は葉剣英の３男（第５子）選廉（1952～　）が空軍の操縦士と為り，３女（第６子）文珊（1961～　）が北京外国語学院で英語を習う事を指す。葉は30日に毛への手紙で自己批判を装って江の虐めを暴き，警備参謀に託して毛の警備参謀経由で送った。**反省の形で直訴するのは一大発明**だと張春橋は毛・康生の『劉志丹』批判に擬えて言ったが，**裏口を使う上申も已むを得ぬ裏技**である。

毛沢東は２月15日の返信で縁故採用者にも好い人が居り，この問題の追及は林彪・孔子批判を薄める恐れが有るとし，謝静宜・遅群演説の拡散に待ったを掛けた。**不正を糾さないのは自ら襟を正していない所為でもあり**，彼は縁故採用の王海容と側近の英語通訳者唐聞生（1943～　）に対し，追及すれば数百万人が引っ掛り，自分も数人の女性を北京大学に入れ，謝は受け入れざるを得なかったと語った。毛の意思を受けて20日の中央通達は縁故採用の問題は調査・研究が必要で，政策を制定した上で「文革」の後期に善処すると決めた。

葉剣英は他の古参幹部等の家族にも類似の便宜を図り，例えば陳毅死去（1972.1.6）後に軍事科学院院長宋時輪（1907～91，上将）を通じて，夫人張茜（1922～74）・長男陳昊蘇（1942～　）の同院への転職と優遇を手配した。**古参幹部の失脚・不遇を伴う家族の不利益への損失補填として同情の余地も有るが，工場・軍隊・大学に行く権利を奪われた無数の庶民に対する救済の制度は無かった。中央から末端までの実権派が権力を利用して特定の関係者に利益を与える行為は，恣意な人治で特権階層の増大に繋がる弊害が否定できない。**

陳毅は「2月逆流」で延安整風の非を突いて毛沢東の逆鱗に触れたが，「文革」前は同じ詩歌創作の趣味で党内稀有の毛との親交を持ち，毛邸を訪れる時も彭徳懐と同じく他の高官の様な緊張が無く礼節に拘らなかった。新４軍軍長・第３（華東）野戦軍司令を歴任した彼は建国後に上海の党・政首長と副総理を務め，中央人民政府軍委副主席・国家国防委員会副主席を兼ねつつ軍から退いた。党・政に専念する鄧小平・譚震林・李先念等の軍階級不

授与と対照的に元帥と為ったので，**周恩来の推薦と毛の首肯の結果で私情の要素も囁（ささや）かれる。**

建国後の毛沢東は**中南海内の周恩来を含めて党内同志と殆ど私的な往来をせず**，弔事の出席も「文革」前は任弼時の告別式（1950.10.28）と羅栄桓の追悼会（63.12.19）しか無い。「文革」中は**周の追悼会**（1976.1.15）**も病弱を理由に素通りし不義理の悪評を招いた**が，**陳毅の追悼会**（1.10）**には予定に無い参加**を1時間半前に突然言い出し，寝衣（ねまき）に防寒用の外套（オーバー・コート）を着た儘で八宝山革命公墓礼堂（講堂）に直行した。遺族に弔問する挙動の報道で**古参幹部の打倒を謝る様な姿勢（ポーズ）**が伝わり，彼の**計算通り人々に政治的な圧迫の緩和の予感を与えた。**

大腸癌末期で昏睡に陥った陳毅は1月4日の午後に力を振り絞って，「一直向前……戦勝敵人……」（真っ直ぐ前へ……敵に打ち勝とう）と家人に遺言を残した。2日後の16時20分に葉剣英が駆け付けて，「2月逆流」は林彪・陳伯達・王力・関鋒・戚本禹に対する闘争だと言う毛沢東の再評価（前年11月14日）を伝えた処，彼は聞いた事の意思表示として目を1回瞬（またた）いたが，再度の読み上げには反応せず23時55分に逝った。**毛は「文革」中唯一の追悼会出席で最高の礼遇を示したが，遅過ぎた悔（くや）みは故人の怨みの解消には為らない。**

毛沢東と共に井岡山（せいこうざん）根拠地を作った陳毅は党・国家の指導者から外された為，追悼会は軍委が主催し，李徳生総政治部主任が司会し，同じ軍委副主席の葉剣英が弔詞を述べる事に為った。**元勲への冷遇**を表す様に600字の弔詞は経歴が半分を占め，弔詞の原案に褒貶（ほうへん）半々の「有功有過」（功労が有り過誤も有る）が入っていた。**「人死為大」（人が死ねば尊ばれる）の伝統に背く**表現は毛に削られたが，500名以下の人数制限で宋慶齢等の出席を断り，政治局委員は参加しなくて可（よ）いと通達する等，当初の措置は**不人情を超えて悪意も感じられる。**

要人哀悼の為に新華門・天安門広場・外交部で半旗を下ろす毛沢東時代の例は，任弼時・羅栄桓と1972年の謝富治・何香凝（ぎょう）（1878年生，中華婦女連合会［49.3.24成立］名誉主席・中国国民党革命委員会［48.1.1成立］中央主席・全人代副委員長）・鄧子恢（3.26，9.1，12.10歿），75年の李富春・董必武・康生，76年の周恩来・朱徳・毛の11回が有った。同年末の鄧は1962年に失脚し83年3月9日に中央辮公庁通達で名誉回復と為ったが，元副総理と雖も中央委員に過ぎぬ彼の待遇が陳毅に無いのは，**不条理の時代らしい倒錯**である。

華国鋒時代の郭沫若（1978.6.10歿）・羅瑞卿（中央軍委秘書長，同8.3）・蘇振華（1912～79.2.7，政治局委員・海軍第1政治委員・上将）と宋慶齢（全人代副委員長・国家名誉主席，81.5.29歿）の間に，**劉少奇（69.11.12歿）の追悼大会（「文革」勃発14周年の翌日の80.5.17）**に合せた1回が有る。**同じ「文革」で逝った彭徳懐の追悼大会（11期3中全会閉会の翌々日の1978.12.24）**の日は半旗下ろしが無かったが，**元帥迫害死第1号の賀龍**は毛沢東の承認で名誉回復と為り（74.9.29），**6周年忌（75.6.9）に遺骨安置儀式が行われた。**

葉剣英は陳毅の追悼会で毛沢東の参加を見て弔詞の朗読を周恩来に譲り，同じ軍委主催の賀龍遺骨安置儀式で司会を鄧小平に変えた。弔詞を読む周は会場に着くと先ず薛（せつ）明夫人

（1916～2011）に対し，自分は彼を守れなかったと叫んで詫びた。参会者を率いて遺影に御辞儀をする時3回の慣習を破って7回もし，**監禁・虐待を防げなかった事に対する贖罪の心理**が窺われる。毛も急遽赴いた陳の追悼会の大広間に少量の電気暖炉しか無い所為で体調を崩し，**冤罪犠牲者の遺恨の祟りに遭ったかの如く**2月12日に心肺が一時停止した。

陳毅・鄧子恢に対する破格の弔意や李慶霖に対する破天荒の援助の様に，林彪事変後の毛沢東は**失政の穴埋めに躍起と為った**。古参幹部や「知識青年」はその発信から事態の好転を感じ，相応の政策に由って待遇の改善も出来たが，「文革」が終らない限り**個別の「負債償還」は弥縫策に過ぎない**。賀龍の名誉回復は1982年10月16日の中央決定まで不十分の儘であったし，幾ら鄭重な追悼儀式を行っても生き返れない。**就業配属難の緩和を兼ねた「知識青年」の農村定住の諸問題も，聊かの生活の足しでは抜本的な解決が出来ない。**

江青の「批林・批孔・反“走後門”」の「三箭斉発」（3本の矢の一斉発射）は，裏口採用の**不正への追及を政争の具にする下心が有って質が悪いが，葉剣英への配慮と自分の反則が絡んで対処を止める毛沢東の決定も後味が良くなく，一時凌ぎの糊塗で招く恒常的な弊害の増幅の代償が大きい**。葉の子女の縁故入隊・入学を問題視しない事は穿った見方をすれば，**古参幹部（特に軍権を握る実力者）を懐柔する権謀の匂い**もした。「政治後台」（政治的な後ろ盾）が無い事に苦しんだ李慶霖等の民衆は，所詮その様な恩恵に与る身分ではない。

**毛沢東は張春橋を殊に評価し次の次の後継者と目したが，論説「資産階級的法権（権利）の思想を破棄しよう」（1958.9）が賞賛の発端**である。己の裏口入学斡旋を側近に認めた時「資産階級法権」は自分にも有ると言ったが，**革命的な理想で人々を要求し自身が実行しない二重基準**の1例は，**1964年7月と66年6月から「革命化」の改革で印税と原稿料の制度を廃止し，同時に独りだけ莫大の印税を貰い続けた**事である。資産階級**政治・経済の諸条件に由り存在しない状況下の利権は，「封建的な社会主義の合法的な特権」**と名付け得る。

## 内争――「第1夫人」の越権参政が誘発した摩擦と大難

**毛沢東と劉少奇は1964年末に社会主義教育運動の力点を巡って対立した**が，運動の発端は毛が63年5月2～12日に杭州で主宰した中央文書審議会である。彭真・陳伯達・各中央局第1書記・団中央第1書記胡耀邦・浙江省委第1書記江華（1907～99）が参加する討論で，**農村の「4清」（帳簿・倉庫・労働点数・財務の清廉度）点検が焦点**と為ったが，毛は翌年12月20日の政治局常委拡大会議で王任重の意見を採用して，「4清」を**政治・経済・思想・組織を清める事に変更し，「4清」対「4不清」を主要な矛盾とする劉と衝突した。**

「当面の農村工作に於ける若干の問題に関する中共中央の決定」起案中の7日，毛沢東は会食で杯を挙げて「4清・5反・修正主義の根っ子の摘除の勝利の為に乾杯！」と気勢を

上げた。「5反」は都市で行う①汚職・窃盗②投機取引③贅沢・浪費④（党の集中・統一の指導に従わぬ）分散主義⑤官僚主義に反対する運動で，**資本家を標的とする建国初期の取締の名称を踏襲した**のである。**修正主義を防ぐ為の整風の指針**は5月18日の政治局常委拡大会議で採択され，20日の発布を以て**「整風・反右」以来の大規模な政治運動**が始まった。

建国直後の**政権基盤を強化する為の「反革命鎮圧・粛清」運動**（1950.10.10～51.10.23）に次いで，中央の「早急に“3反”闘争を確実に推進する」指示（52.1.4），「先ず大・中都市で“5反”運動を展開する」指示（1.26）に由って，**2本の矢を相継いで放つ形で党主導の大衆運動が起った**。『人民日報』「6.15」社説「成功裡に“5反”運動を終結する」まで続いた**両「反」は，「鎮反・粛反」の大規模処刑・撲殺（推計100万人弱）こそ無いものの，暴力的な追及で10万人以上の自殺者が出て後の「4清」「文革」の有り形へと影を落した。**

「5反」開始早々の2月8日に重慶の民生公司で動員大会が開かれ，社主盧作孚（ふ）（1893年生）が吊し上げに耐えず当夜に自殺した。全国政協委員・西南軍政委員会委員である**愛国「河川輸送王」の死も当局の反省を引き起せず**，商人の自殺が続発する上海では陳毅市長は毎晩，冗談めく口調で当日の「落下傘部隊」（跳び下り自殺者）の数を訊いた。盧は毛沢東に忘れられぬ中国の4人の実業家の内に算えられたが，**葬式（2.12）の20年後の毛の危篤や「3反」開始の15年後の陶鋳打倒は，冤罪の量産に由る人命の負債の因縁を感じさせる。**

**「鎮反」は土地改革**（1950.6.30～53年春）**・「抗美援朝」と共に建国初頭の「3大運動」を為し**，数百万の派遣幹部が指導・参与した**「4清」は「第2の土改運動」の観が有る。建国前後の中共治下の土地改革は四半世紀前の湖南農民運動以上の激烈な暴虐を発揮し，土地・財産の公平分配の名に由る略奪と人民裁判に由る虐殺で百万人以上の死者を出した。**10年後の社教運動での殴打厳禁に関する中央通達（1963.1.14）の添付報告書に拠ると，湖北の麻城県で多数の闘争対象が殴られ，同省の実験的な第1陣実施で2千人余りが死んだ。

中央は**偏向を糾す**為に工作会議（9.6～27）で具体的な政策を作成し，各地への文書通達（11.14）の直後に王光美が工作隊（チーム）を率いて，夫**劉少奇が名誉社員**である河北省撫寧県盧王荘公社の桃園大隊で「4清」を進めた。5ヵ月の運動に由って地元幹部の**不正・不徳**が暴かれ，県の「先進支部」と為る大隊党支部の正・副書記は除籍され，楡（ゆ）関区副区長は懲役6年に処された。王の「桃園経験」は劉の推薦と毛沢東の許可に由って1964年9月1日の中央文書で紹介されたが，**劉夫妻の出燥（はしゃ）ぎは党内の反撥を招き翌々年の失脚の禍根にも為った。**

建軍35周年（1962.8.1）の『人民日報』『紅旗』に劉少奇の「共産党員の修養を論ず」（中央機関誌『解放』週刊，39.8～9）修訂版が発表され，翌月の人民出版社刊単行本は全党員が持つ程で部数が『毛沢東選集』（4巻，同社，51～60）を超えた。**権勢上昇中**の彼は1964年8月1日の報告会で中央各部門等の責任者に対し，**妻の社教運動の成功談を得意げに吹聴し顰蹙（ひんしゅく）を買った**。翌年1月3日に**国家主席に当選した直後の政治局常委会で夫婦揃って**

**毛の「桃園経験」批判を受け，「文革」初年の「8.1」に始まる8期11中全会で降ろされた。**

**劉少奇は毛沢東が8期10中全会で鼓吹した階級闘争の強化に拍車を掛け**，1963年2月11～28日の中央工作会議で**反修正主義は党・国の存亡に関ると逸早く力説した**。彼の主導に由り翌年の中央工作会議（5.15～6.17）で全国展開の戦略を立て，8月5日に彼を頭とする中央「4清・5反」指揮部が設置された。開会の**「5.15」は毛が「反右派闘争」の発動を決断した7周年**に当るが，**延安整風から領袖を追随し続けて来た劉は今回毛よりも左傾的に為った**のに，**2年後の「8.5」に毛から「党内の資産階級の司令部」の首領と断罪された。**

**法家大成者の韓非**（前280頃～前233）及びその後学が著した『韓非子』の「功名」に，「人主之患，在莫之応。故曰：“一手独拍，雖疾無声。”」（人主之患は，之に応ずるもの莫きに在り。故に曰く，「一手独り拍つは，疾しと雖も声無し。」）と有る。**片手だけで手を拍こうとすれば如何に強く振った処で音が出ないのと同様に，何か行り掛けても誰も応じてくれない事は君主の最大の憂慮**である，という戦国時代の韓（前403～前230）の貴族で哲学者の**「韓流哲理・法理」**（造語）の比喩から，成語の**「孤掌難鳴」（孤掌鳴り難し）**が生れた。

この4字は**単独の力が薄弱で事を成し遂げ難い**意と**孤立無援で助かり難い**意が有るが，**延安整風や「文革」で毛沢東が振るった猛威は正に劉少奇や林彪等の助力に頼る物**である。**個人崇拝の形成・定着・膨脹を齎し政争の急所で毛に加勢した劉・林**は，**「為虎傅翼」（虎の為に翼を傅く）**と言う様に**元々強暴なものに更に力を付けた**。周（前1046～前256）の王の言行・制度等を記した『（逸）周書』（著者不明，先秦時代［上古～前221］成立）の「寤儆解」に見えるこの成語は，**「虎」の気質の持主と自称した毛に翼を添えた**彼等に相応しい。

春秋時代の魯（前11世紀～前256）の歴史家左丘明（生歿年不詳）著『春秋左氏伝』の「昭公11年」に，「**末大必折，尾大不掉**，君所知也。」（末大なれば必ず折れ，尾大なれば掉わざるは，君も知る所也）という**君主の心得**が書いてある。**尾が大き過ぎるとそれを自由に振るい動かす事が出来ない**意の4字熟語は，**その年（前531）の2 500年後（1969）の「9大」で激増した軍人集団に適用する。末が大き過ぎるとその本が必ず折れる**原理とも通じるが，**権勢が職位以上に膨らみ帝王の脅威を為した劉少奇は同年に存在まで抹殺された。**

熟語の**「一個巴掌拍不響」（掌1つでは手を拍き音を出す事が出来ない）**は，**喧嘩は対手が居ないと起れないから必ず双方に責任が有る**事を表す。8期11中全会からの**毛沢東の攻撃と劉少奇の失脚は加害と被害の関係に在るが，劉が当初積極的に推進した「文革」の発動は彼にも起因の一端が有る**。1963年「5.18」採択の修正主義防止の整風方針は，40・50年代の延安整風・「反右闘争」に次ぐ大粛清を始めたが，**劉の「4清」急進は毛の集権加速を誘発し，3年後の同日の同じ政治局常委拡大会議での林彪講話は彼の失墜を仄めかした。**

劉少奇は中央文書（1944.6.23，9.1，10.24）で**3つの成功方程式を推奨し**，甘粛省委・冶金工業部党組が総括した白銀市白銀有色金属公司の経験，王光美が河北桃園大隊で創出し

た経験，陳伯達が天津南郊区小站（たん）で作った経験は，悪質分子からの指導権奪還や「反革命集団」の摘発等に力点が置かれた。北京大学の社会主義教育運動と並ぶ**「4清4大経験」は非情な粛清が共通点**で，同じ北大に始まった**「文革」の闘争も「奪権」（権力奪取）が本質**と為り，**「4清」流を踏襲した劉は逆に毛沢東からの権力奪取を疑われ権力を剥奪された。**

**レーニンの妻クルブスカヤ**（1869～1939，革命家・教育家）は22年から，**病気静養中の夫の要請で政治局との連絡役を務めた。**彼女を嫌うスターリンは同年12月にレーニンに政治活動をさせないよう電話で怒鳴り付け，翌年の3月5日にレーニンは書簡で彼（か）の粗野な男にその侮辱を糾し，**妻に対する不作法は自分に対するもの**で，暴言の撤回・謝罪と彼我の関係の断絶の二者択一を迫った。**妻を愛し守るのは夫の常識・義務で革命政党の領袖も例外ではないが，平時の彼女が精々教育人民委員会の委員を担当した事は夫妻の節度を物語る。**

**レーニンは直後に意思疎通の能力を失った程に甚だしく激怒し，スターリンは先代党首の亡霊の呪いに掛るかの様に30年後の同じ日に急死した。**スターリンの**最初の妻スワニーゼ**（1885～1907）**は腸窒扶斯（チフス）で早逝し**（他界の日は38～42年にソ連に療養した林彪が生れた日），**再婚相手のアリルーエワ**（1901～32）**は大粛清・大飢饉に就いて彼に抗議し，その異性交遊で喧嘩した後に拳銃で自殺した。**円満な婚姻に恵まれない彼は後に1度結婚し愛人も複数作ったと見られるが，**妻を表舞台に出さない事はソ共党首の伝統に則っている。**

フルシチョフは「22大」の秘密報告の第2部「レーニン，スターリンを語る」第2節「スターリン，レーニンの妻を侮辱する」で，上記の手紙を全文公表し**最初の場内騒然**を引き起した。次の**衝撃の反応**は第6部「事件の捏造」第2節「中央委員会の7割が銃殺される」の件に見え，「17大」で選ばれた中央委員・同候補139名の内98名が殆ど1937～38年に掛けて逮捕・銃殺された事を聞いて，記録に有る**「場内，憤激の叫び声」**が起きた。演説中の**驚愕・憤慨の騒ぎは21回**も記されているが，**初代党首の妻への侮辱はそれ程に許し難い。**

**個人崇拝を戒め集団指導を唱えたフルシチョフ**は，28年後に党首と為った**胡耀邦と似て率直過ぎて軽率さが目立つが良識の持主**である。**初婚**（1914）**相手**エフロシーニャ（生年未詳）は**内戦中21年に飢餓・衰弱・腸窒扶斯（チフス）の3重苦で歿し**，翌年の**マルシア（17）との再婚は直ぐ破綻し**，2年後に迎えた**3度目の妻ニーナ**（1900～84）は**失脚後の60年代後半に正式な届けを出した。**前任の超短命党首**マレンコフは結婚歴が報じられておらず**，彼の**在任11年中に初訪米**（1959.9.15～27）**帯同等を除いて事実婚の相手を前面に出さなかった。**

**1980年代後期の中共総書記の連続更迭に先立って，前・中期には3人のソ共総書記が立て続けに死去した。**フルシチョフの後任**ブレジネフ**（1906～82，元帥）はスターリン型の守旧派で，**妻ピクトリア**（1927～82）**を国賓接待以外の公の場に余りに出さなかった。**次の**アンドロポフ**（1914～84）**は西側で鰊夫（やもお）と誤認され**，75年歿とされた**妻タチアナ**（1917～91）**の葬儀参列で漸く事実確認が出来た。**次の**チェルネンコ**（1911～85）**の妻帯も長年**

隠匿され，葬儀で亡夫に接吻(せっぷん)し続ける未亡人アンナ（1913～2010）の姿が初公開と為った。

歴代のソ共党首の妻の日蔭者(ひかげもの)的な有り形は私生活を明かさぬ秘密主義に由る事と共に，党首夫人の公務を外交儀礼上の同伴等に限定し主体的な参政を許さない制度にも基づくか。第8代のゴルバチョフは「改革(ペレストロイカ)」「情報公開(グラスノスチ)」の掛け声(ごえ)を自ら実践する様に，妻ライサ（1932～99）を積極的に公務・外遊に随行させた。党首就任時にソ連文化基金会副議長だった彼女は知性と洗練さで西側の好印象を得たが，元首夫妻の人間らしさの訴求で「悪の帝国」の形象を変えた後，ソ共・ソ連はレーニン以来の慣わしを破ったこの代で解体した。

1党独裁の世界最長記録を遺したソ連の崩壊後に新1位を目指す北朝鮮では，金日成の最初の妻金正淑(スク)（1917～49）は朝鮮社会主義女性同盟（45.11.18結成）初代委員長を務め，次の「国母」金聖愛(ソンエ)（1924～2014?）は党中央女性同盟委員長就任（69.1）から上層部入りし，翌年の「5大」（11.2～13）で中央委員に当選し，71年に民主女性同盟委員長に就任したが，自分の子供を次期領袖にする為に前妻が生れた正日等と対立した末，権力拡張や中央女性同盟に由る越権・不正で73年に失脚し，94年6月16日に漸く公の場に出られた。

同年6月14日の北朝鮮の国際原子力機関(IAEA)（1957.7.29設立）脱退・核開発査察拒否を受けて，元米大統領カーター（1924～　，第39代［77.1.20より1期］）が政府特使として訪朝し（6.15～18），難局克服の為の会談（16～17）で金日成の傍に妻が中央女性同盟委員長として登場し，実態の無い肩書で突然復活した事は後継者争奪の激化と転変を感じさせた。金正日が後継者に推戴された（1974.2.14）後に公文書から氏名不記載の「夫人」と為る彼女は，翌月8日の夫君急逝後に葬儀委員会に名を連ねたものの葬儀には参列できなった。

長男として順当に世襲した金正日の最初の妻洪一茜(ホンイルチョン)（1947～　）は，金日正の紹介で66年に結婚した後69年に離婚し，（元）夫の威光を借りずに最高人民会議成員（77～91）と為り，金亨稷(ヒョンジク)（1894～1926，金日成の父）師範大学（75年創設）学長（91～2012）を務めた。離縁直後に結んだ内縁の妻成蕙琳(ヘリム)（1937～2002）は夫も子供も居る5歳年長の映画女優で，金日成が既婚・職業・南朝鮮生れを挙げて反対した故に外出も難しい秘密同棲を強いられ，正日に新妻(にいづま)が出来た事で精神を病み74年から莫斯科(モスクワ)に長期滞在し客死に至った。

1974年に結婚した金英淑（1947～　）は金聖愛と同じく夫の元専属印字機打鍵者(タイピスト)であるが，2女を儲けた事以外は公に知られず存在で法的な手続(てつづき)や文書も無い。次の高容姫(コヨン)（1952～2004）は元万寿台芸術団(マンスデ)（69.9.27編成）の舞踏家(ダンサー)で，同棲（77頃～）から最も寵愛され後に元首夫人(ファースト・レディー)の待遇も受けたが政治の舞台とは縁遠い。最後の金玉(オク)（1964～　）は金正日の秘書を経て2001年に国防委員会書記室課長に昇進し，06年に胡錦涛との会談（1.17，北京）や地方視察にも同行したが，同居・結婚（06頃・09頃）後は表立った重要な政務は少ない。

人妻も映画女優も政治家の妻には相応しくないと金日成は言うが，毛沢東は党首張聞天の反対に反撥して既婚女優江青と結婚した。又2番目の妻楊開慧(けい)（1901～30，20年冬結婚）

**の存命中に賀子珍**（1910～84）**と重婚し**（28，**官製年譜不記載**），賀のソ連行き後**江と重婚した**。賀が**夫の生活・機密要務秘書**を務めた経歴は**金玉と似て**，**莫斯科滞在中**（38～47）死産に由る**情緒不安定で精神病院に入った**事は**成蕙琳と重なる**。毛は1959年7月9日に廬山で賀と密会したが，その**病態に失望しなかったなら金聖愛の様な復帰も有ったろうか**。

**毛沢東の初婚相手羅一秀**（1889～1910，08年結婚）は**劉少奇の最初の妻周某**（1901～?，16年結婚）と一緒で，**親同士が決めた結合を相手に拒まれた**。**劉の次の妻何宝珍**（1902～34，23年4月中旬結婚）は全国互済総会の責任者として上海潜伏中に逮捕され，翌年に南京で**毛の同じ実質的な1番目の妻の革命家楊開慧と同じく国民党に銃殺された**。次の**謝飛**（1913～2013，35.10結婚）**は賀子珍と似て長征に参加し夫の秘書を務めた**事が有り，**毛が賀を棄てた年に天津に潜伏中の劉と離れて延安で学習に励み2年後の離縁の遠因を作った**。

劉少奇は皖南事変後に新4軍軍部から晋中へ赴く際，敵占領区の関所を通る為に看護婦**王前**（1923～　）と夫婦を装って同行した。劉は**死生を共にする縁**で彼の**同軍有数の美人**を娶った（1941.3.30）が，王の2人の兄は国民党の将軍で抗日戦争後の両党衝突で反共を表明した為，**政治的な立場を慮って**2児を儲けた2人は離婚した。朱徳の紹介でその係員の**王健**（経歴未詳）と結ばれた（**官製年譜では全ての離縁時期と共に不記載**）が，直後に**心身の疾患**が発覚したので短期間で別れ，1947年に王光美と知り合い翌年に結婚した（8.21）。

**第1～3回が毛沢東と重なる劉少奇の婚姻は多難の5回を経て幸せな結局を迎え，建国後は毛の放蕩と江青の病気に由る両者の「政治夫妻」化に対し家庭の円満を維持した。王光美の大都会・富裕層・名門大学の出身と語学力・社交力は全て江を上回る**が，**自負**や謝飛と通じる**内助に甘んじたくない気持**からか，**政治活動を禁じられた江に配慮せず外交の晴れ舞台と内政の表舞台の両方に躍り出た。世界共産圏の総本山のソ連や近隣同盟国の北朝鮮でも類を見ない活躍・顕示**は，**青史に名を留めた蔣介石夫人の政治関与**が念頭に有った事か。

**宋美齢の原籍は漁民の娘謝飛の故郷と同じ海南島文昌県**で，謝と対照的に**上海で生れ基督教宣教師（後に財閥）の父を持つ。米国留学（1907～17）から帰国後の初の勤務先**の映画検閲委員会は中共**建国後の江青と通じ，結婚**（27.12.1）**後に夫**（2度目の婚姻）**の秘書**（英文担当）**を務めたのも江と同じ**であるが，**蔣介石に西洋化を促し洗礼を受けさせた**（30）等と影響力を発揮し，**立法院立法委員**（30～32）を経て**婦女界の指導者**として「新生活運動」（34）を推進し，**全国航空委員会秘書長**（36～38）として**空軍の発展に大きく貢献した**。

何宝珍が逮捕前に従事した「営救」（救援）は獄中の同志を救出する事であるが，宋美齢は西安事変で**夫の釈放の為に敵地に飛び内戦を回避した。抗日戦争中に世界へ支援を呼び掛け，史上2番目の女性として米議会で演説し**（1943.2.18），**米・英・中首脳開羅**（埃及の首都）**会談**（同11.22～26）**で蔣介石を補佐した**。蔣の字中正と宋の名に引っ掛けて「中美（米）合作」と呼ばれた2人組は，米国の報道週刊誌『**時代**』（1923.3.3創刊）で**37年**

**の「今年の人**」に選ばれ，**初の東亜細亜人と史上唯一の元首夫人の登場の栄誉を浴びた。**

蒋介石の全権掌握・結婚の年からの選考で**東亜人は鄧小平**（1978・85）**しか無く**，鄧に次ぐ様な**蒋夫妻の歴史的な地位**が浮彫に為る。**鄧に対する後世の指導者の超越の困難**と共に，**宋美齢並みの国際的な人脈・人気を持つ才色兼備・気質高雅の元首夫人が後の中共政権で見当らない**事に気付かされる。**留学経験者が皆無の中で唯一の英語堪能の国家元首・副党首夫人の王光美も，海外の影響は共産圏や少数の発展途上国に過ぎない。**彼女の国政関与は共和国の上層部で走りと為ったが，**夫妻が共同責任を負う大過**と言わざるを得ない。

**蒋介石夫妻は抗日戦争の辛勝後に身内の「4大家族」の腐敗を阻まれず大陸から敗退したが，劉少奇夫妻は権勢上昇の絶頂期で2人3脚の「万能選手」を演じる勇み足で躓いた。**他の最高指導部成員の妻が要職も重要任務も担当しない中での**独走は完全に浮いて了い，自己防衛の為の「避嫌」（嫌疑を避ける）意識も薄い儘に私情・私利先行の憶測を招いた。**劉は桃園経験の盲目的な適用に抱く江蘇省委第1書記江渭清（1910～2000）の疑念を叱ったが，**王光美の手本に対する賛否を踏絵にして異論を許さぬ粗暴は毛沢東に近付いた。**

1964年7月29日に王光美は**劉少奇辦公室主任**として江渭清に電話を掛け，江蘇の個別案件を劉の意に従って「反革命現行」として処理せよと指示した。**地方首長への越権的な夫人「干政」（政治関与・干渉）**に続いて毛沢東へ圧力を掛け，**桃園経験を肯定する「9.1」中央文書**が配布され**「8.1動員報告」に次ぐ劉の号令**が発せられた。現地調査をしない者は「4清」に関する発言権が無いという劉の断言は，夫妻とも実践し毛が1日も現場入りしなかった状況に即して，**毛の過去の言説を暗に教条とした劉の指摘**と合せて**毛の敵視を買った。**

**劉少奇は個人の新志向を出そうとして毛沢東の許容限度を超え，夫妻の自画自賛は江青等を刺激し夫人参政に便乗する蠢動が擡頭した。林彪辦公室主任葉群**は1965年11月30日に**毛に7時間も羅瑞卿の悪口を告げ**，毛は羅を解任する為に政治局常委拡大会議を開き葉に3回・通算10時間の糾弾をさせた。**妻を専属事務局の主任に据える毛時代の指導部の慣習は夫人参政の土台を為したが，江・葉が毛・林を動かし宋美齢の抗戦後の中央執行会委員当選を超える政治局入りを果した展開**は，巡り巡って**劉夫妻の度を超す跳躍に端を発した。**

「如何なる無産階級革命家も何らかの欠点や誤りを免れないのと同様に，劉少奇同志も活動に於て一部の欠点と誤りが有った。」鄧小平の**弔詞に含んだ異例な負の評価**は追悼大会開催時の思想解放の不十分と言うより，**真理に適う一般論**であり**実情に即した客観的な総括**である。王光美は**劉を毛沢東の親密な戦友とする原案の文言に抵抗して**追悼大会を遅らせ，他の要人の場合に無い欠点・過誤への言及にも不快を抱いたろうが，**劉が慫慂した妻の国政関与は悪しき前例**と為り，**王の「桃園経験」も冤罪を作り「文革」後にも否定された。**

王光美は「文革」初期の駐清華大学工作組顧問と為り，蒋南翔学長・党委第1書記・高等教育相（1913～88）等の打倒，蒯大富等の学生への抑圧に関った。2ヵ月近く全国の大

学で広がった**劉少奇流の運動は自殺者を多く出し**，毛沢東の「8.5」大字報で**「白色恐怖」**と断じられた。**劉は「4つの清廉」対「4つの不正」を社会主義教育で解決す可き主要な矛盾とし，毛は資本主義の道を歩む党内の実権派の摘発こそが重点だと主張したが，双方とも闘争・弾圧・厳罰を辞さず，劉夫妻は皮肉にも他者に与えた強打を自ら食らって了った。**

**毛沢東は江青を「中央文革」第1副組長と陳伯達の「病気療養」中の組長代理**（8月任命）**にし，第9・10期政治局委員の選出にも同意した。林彪も個人専属事務所の長（辨公室主任）を務める妻を政治局に入れたが，表舞台に出て政局を動かす最高指導部成員の妻は王光美が第1号と為る。江が初めて民衆の視野に現れたのは1962年9月29日，毛と共にインドネシア初代大統領スカルノ**（1901～70, 45～67在任）**の第2夫人ハルティニ**（1925～2002）**と会見した場面**であるが，**王は既に6日前に国家主席夫人として彼女を歓待した。**

王光美は夫の国家主席初就任（1959.4.27）後3年余り『人民日報』に登場しなかったが，『十八史略』（曾先之［宋末～元初の学者，生歿年不詳］撰児童向けの歴史物語）の「春秋戦国・楚」に見える，「三年不飛，飛将衝天；三年不鳴，鳴将驚人。」（3年飛ばず，飛ばば将に天を衝かんとす。3年鳴かず，鳴かば将に人を驚かさんす）という荘王（?～前591，前613～前591在位）の言葉の様に，長いこと活躍していない様な「三年不蜚不鳴」（3年蜚ばず鳴かず）は，**将来の活躍に備えて何もせずに機会をじっと待っていた**のかも知れない。

建国後初の外国元首夫人としてのハルティニ訪中（1962.9.23～10.2）は檜舞台を提供し，王光美は劉少奇・周恩来・陳毅夫妻と共に北京空港で出迎える際に女主人として談話を発表し，同夜の招宴の挨拶や北京・南京・上海・杭州訪問の案内も務めた。王は天主教輔仁大学（1925年設立）物理学部卒の**中国初の女性の原子物理修士**で，北平軍事調処（調停）執行部の中共代表団の**英語通訳**を担当した事が有る。**国際感覚と語学力は中共政権初の「夫人外交」の主役に適任**であるが，**外電の「第1夫人」の呼称は党首夫人の不服を触発した。**

翌年5月10～22日の劉少奇夫妻のインドネシア・緬甸・柬埔寨・越南訪問は，非社会主義国家への要人訪問は共産圏内の対等・親密な関係と区別して夫人が同伴しない，という**毛沢東国家主席時代の不文律を破って2代目元首の特色を打ち出した。**巴基斯坦・亜富汗斯坦・東巴基斯坦（現孟加拉）・緬甸訪問（1966.3.26～4.19）でも，主席・外相は妻を携えて行ったが，翌月の**「文革」勃発で劉発の新流儀は後に18年断たれた。『人民日報』に4年弱の間に数百回も出た王光美の名前は，1966年4月20日の外事活動報道を最後に封殺された。**

劉少奇が**初の妻同伴外遊**から帰国した日に北京空港で**大衆5千人の歓迎**を受け，宋慶齢・董必武国家副主席と朱徳全人代委員長・周恩来総理が出迎えた。翌日の**『人民日報』第1面に全段抜きの大見出し・集合写真**で報じ，下方に**社説**「劉少奇主席の（外国）訪問（からの）帰来を歓迎する」と有る。「文革」直前の4月20日の同紙は**権力の頂点からの疎外・阻害**を反映して，1面の右上の記事「劉少奇主席と夫人 昆明に帰る」に，ヤンゴン空港内の**王**

**光美が目立たない写真**が付き，同じ人数の歓迎が行われた昆明空港での写真は**3面**に出る。

官製毛沢東伝の建国後篇の第2･18章「第一 / 二次訪蘇」（「蘇（Sū）」は「蘇聯（ソれん）」の略）の通り，中ソ友好同盟互助条約の協議･締結（1950.2.14）の為の**第1次訪ソ**（49.12.16～50.2.17）も，「10月革命」記念集会（40周年の2日前の57.11.5）と社会主義国家 / 世界共産党・労働者党会議（57.11.14～16，16～19，其々12ヵ国・68党［内4党は非公開］参加，莫斯科（モスクワ））に出席する為の**第2次訪ソ**（11.2～21）も，**党・国の対外関係・世界戦略に於て大きな意義・収穫**が有ったが，彼の**国際性の欠如**が現れる様に**生涯の海外渡航はこの2回しか無い**。

毛沢東は建国の66日後（12.6）から東北・西伯利亜（シベリア）経由の鉄道で莫斯科（モスクワ）への旅をしたが，スベルドロフスク州（革命家スベルドロフ［1885～1919］に因んで37年に設置）の同名州都（24年以降の都市名は91年に旧称「エカテリンブルク」に復帰）の駅の歩廊（プラットホーム）で散歩中，**疲労と厳寒に由る突発的な脳貧血で倒れそうな程の眩暈（めまい）に襲われ**汗が満面に噴き出た。慌てて随員に支えられて専用列車に戻った彼は次の停車駅から恒例の車外散歩を止め，**長時間に立って演説する（特に原稿を読み上げる）事もその苦い体験の所為で忌み嫌われた**。

毛沢東は1956年11月18日の会議で原稿を使わず坐った儘1時間の即席演説を行い，2日後に波蘭（ポーランド）統一労働者党（48.12.12～90.1.28）第1書記ゴムウカ（1905～82，56.10.21～70.12.21在任）に対し，立って話せば倒れて了（しま）い，原稿の棒読みをすると死にそうなので，原稿を読むのは今後もう真（ま）っ平（びら）御免だ，と放言した。**指導部が合意した原稿を放（ほう）って擱（お）き即興的な自説を恣（し）意に語るのは独断専行**であるが，**国家主席を劉少奇に譲った原因は執務の煩雑や作法の束縛を鬱陶（うっとう）しがる事**と共に，**長時間の直立さえ難しい身体的な欠陥**も有ろう。

時の毛沢東は林彪の歿年と同じ63歳で指導者としては高齢層に入らないが，**病弱ながら61歳時に「9大」政治報告を一気に読み上げた林には負ける**。癌に侵された76歳の周恩来は第4期全人代第1回会議で政府工作（活動）報告を行う時，鄧小平の配慮で史上最短の3千字未満と為る原稿を**渾身の力を振り絞って読み切った**。毛沢東が立って原稿を読む事は最後と為る第2次訪ソの「11.5」大会での祝辞の前に，前年の「8大」開会の辞（同じ3千字未満）も有ったが，比べるまでもなく**周の平素の健康的で旺盛な精力には引けを取る**。

**中共党大会の政治報告の最長記録は「6大」3日目の瞿秋白の9時間**で，**前日の共産国際（コミュテルン）代表執行委員会議長ブハーリンの政治報告は，同じ長さの通訳入りの為4時間半と見做せ「5大」の陳独秀の5時間には及ばない**。3人の報告は**内容の重要性，参加者の真剣さと発表者の「口才」（話術）**に由って，退屈の様子や居眠りが皆無な程に**満場の終始傾聴を保たせ続けた**。**中共の最初の2党首とソ共の屈指の理論家が示した通り共産党は理論・言説を重視し，中央委員会選挙や党規約改正と並ぶ重要事項の党大会政治報告は当然ながら長い**。

**習近平の「19大」政治報告の3時間23分は1/3世紀来の最長**で，**直近の江沢民1回・胡錦涛2回の1時間半・2時20分・1時間半**を上回る。**「15大」の江報告は同じ3万字余**

りであるが，「14 大」の 2 時間より長いものの 2 時間半以内に収まり，「18 大」の 3 万字の胡報告も習の 44%の時間で終えた。「13 大」の趙紫陽報告も 2 時間に過ぎず，「12 大」の胡耀邦報告は高齢者への配慮からか午前･午後に分けて行われたが，字数の 3.4 万強は「19 大」より 5%多い程度だから，習の初報告は 35 年前の「長老治国」初期の水準に戻った。

習近平が比肩・超越の目標を為す毛沢東の唯一の党大会政治報告は，代表的な著作として有名な「論聯合政府」（聯合政府を論ず）で，字数（約 4 万）が多い事も有って「7 大」の 2 日目（1945.4.24）に書面提出と為り口頭発表が無い。24 年後に閉会した「9 大」と更に 4 年後の「10 大」の政治報告（約 2.2 万・1 万字）は，林彪の衰弱と周恩来の高齢に配慮した濃縮版（コンパクト）であるが，劉少奇の「8 大」政治報告は原案の約 10 万字から半分圧縮したものの，「6 大」～「19 大」間の最長と為る 4 時間半の発表時間が示す様に猶冗長の感が有る。

第 6～7，～8，～9 回大会の 17・11・13 年の間隔は長さの必然性を思わせ，「10 大」の 4 年後の「11 大」の華国鋒報告（約 3.1 万字）の 4 時間も古い時代の名残と区切りに似合う。「新時代」を 35 回発した習は同じ個人崇拝に寛容な華への回帰を呈するが，劉少奇が「7 大」で 2 日（5.14～15）を掛けて行った党規約改正の報告は毛沢東の神格化の起点と為り，逆に「8 大」政治報告で礼賛を控えたのは不満を招いた。毛は「7 大」政治報告の口頭発表免除の様に権威樹立の為の顕示も要らないが，自分に対する優位や軽視は容認し難い。

不眠症にも由る毛沢東の間々有る不眠不休の長時間勤務は精力絶倫の証とされたが，生活の不規則と心身の不健康は性格・精神の不健全や執務の不適応・不成功に繋がる。文書・講話を自ら書く流儀は「8 大」開会の辞の秘書代筆の様に建国後間も無く廃れ，国家主席の禅譲は党・軍大権を保つ上で負担を減らす御都合主義の反面，元首連続 3 選禁止の伝統を作り 1950 年代後期の数少ない賢明な挙動に算えられる。第 1 副党首に後任を委ねるのも順当な交代であるが，分権で出来た両主席の並列と劉少奇の勢力増大は不本意に違い無い。

毛沢東は 9 期 2 中全会で国家主席の職位維持を否定し憲法改正の審議を打ち切り，自ら兼務せず他人の就任を許さぬ心理から 1975 年憲法（1.13 採択）も空席の儘で，華国鋒時代の 78 年憲法（3.5）の継承を経て 82 年憲法（12.4）で回復した。第 3・4 代の李先念・楊尚昆（1983.6.18～88.4.8 / ～93.3.27）は，其々元党副主席と軍委副主席の開国元勲で「長老治国」に相応しいが，劉少奇失脚後の宋慶齢･董必武副主席と廃位中の全人代委員長朱徳･宋（代理）・葉剣英の代行と同じ名誉職で，江沢民時代から党・国・軍首領一体化と為った。

## 暗闘――政争の底流に渦巻く嫉妬（うず）・複合感情（コンプレックス）/ 劣等感・憎悪

発行部数が世界最多の『讀賣新聞』の主筆・社長・集団（グループ）本社会長（1985～ / 91～2004 / 05～ ）渡邊恒雄（1926～ ）は，回顧録（00）で記者時代以来の政界との関りに基づいて

**日本戦後史の流れ**を振り返り，**観念形態**（イデオロギー）**や外交戦略等の政策は必ずしも絶対的な物ではなく，人間の権力闘争の中での憎悪・嫉妬・複合感情**（コンプレックス）**（劣等感）の方が大きく作用して来た**と語る。**現代中国の政治でも同じ負の感情の連鎖反応や増幅共振で激しく揺れ動く事が多く，張聞天・劉少奇・周恩来に対する毛沢東の冷遇・粛清・抑圧にも熾烈な黒い炎が見られる。**

『毛沢東伝（1949―1976）』で特筆された脳貧血発作の場面と演説原稿不使用の意向は，『毛沢東年譜（1949―1976）』（中共中央文献研究室編，逢（ほう）先知・馮蕙（けい）主編，全6巻，中央文献出版社，2013）には出ていない。略逐（ほぼ）日の網羅が売りと為る集大成的な記録は第1次訪ソの往復途中の活動等に殆ど触れず，移動のみの1956年6月4日の「午後，特別機で北京に帰る」も**異変を消している**。武漢から出発後に広域雷雨の所為で暫く北京の管制塔と連絡できず，**初めて実感した遭難の危険で中央は毛の空路利用を原則的に禁じる事を決めた。**

官製伝記に記載された後の飛行機利用は第2次訪ソに続いて，1958年南寧工作会議閉会の翌日（1.23）の広州行きと3日後の帰京，2月12～14日の北京→瀋陽→長春（吉林省都）→北京，中央工作会議（3.8～26）に赴く成都行き（3.4），華東・中南省委書記会議（4.1～9，武漢）後の→長沙・広州・北京（12・13，5.1），政治局拡大会議（8.14～30）前後の北京～北戴河間往復（8.4，9.3）と有る。**地方へ行く際に殆ど列車を使うのに異例にもこの8ヵ月間に飛び廻ったが，時間節約の為の頻繁な空路利用は冒進の亢奮に駆られた事**である。

人民公社の設立と鉄鋼生産高（だか）の去年比倍増を呼び掛ける会議の後「大躍進」は加速したが，**後の頓挫と連動する様に毛沢東の飛行機搭乗は9年近く止った。次（最後）は1967年「7.20事変」の翌日未明の武漢から上海への脱出**で，軍内造反派が対立組織を贔屓（ひいき）する王力の拘束の為に毛の宿泊先の近くまで雪崩（なだれ）れ込んだ**偶発的な事態**は，**林彪・江青の「暴乱」「兵変」の断罪の影響で毛を混乱状態**（パニック）**に陥らせた**。11年前の「6.4」雷雨脱出と似て**軍事政変の疑惑は直ぐ晴れた**が，空路使用制限の中央決定は**毛の警戒心の増大**からか今度から徹底された。

毛沢東は第2次訪ソの様に空路移動が欠かせぬ外国訪問を後にしなかったが，**1959年の中ソ決裂で「総本山詣で」は不要と為り党主席の責務に入らない**為でもある。**劉少奇**は**国家主席就任後の初外遊**（1960.11.5～12.9）で，中共代表団を率いて露西亜（ロシア）革命43周年記念式典及び81ヵ国共産党・労働者党代表者会議（60.11.10～12.1，莫斯科（モスクワ））に出席し，閉会の翌日から国家元首として**訪ソ**した。**国際共産主義運動と国際社会に於ける自党・自国の地位を守る闘争が一応成功し**，帰京の際に空港で**毛・周恩来等の要人・群衆に出迎えられた。**

劉少奇国家主席の複数国歴訪の時期・行先が示す様に，**大飢饉の3年中には余裕が無く回復後も選択肢が限られた。「文革」中の周恩来の海外渡航も内乱・孤絶の所為で3回しか無く**，初期の阿爾巴尼亜（アルバニア）・羅馬尼亜（ルーマニア）・巴基斯坦（パキスタン）（1966.6.16～30）の次（69.9.4）は，越南（ベトナム）労働党（30.2.3成立）主席（51.2.19～）・民主共和国初代主席（45.9.2～）胡志明（ホーチミン）（1890年生）の訃報発表の翌日の弔問で，国葬（9日，李先念等が参列）前につき蜻蛉返（とんぼがえ）りと為った。

公式訪問は対北朝鮮（1970.4.5～7）だけで，初代外相は**不毛な消耗で才能と命を使い果てた**。

1974年の国連資源特別総会（4.9～5.2）は周恩来の最後の出国の機会であるが，毛沢東は**自分以上の国際的な声価を嫉妬しその悲願を潰した**。周は建国25周年祝典（同年9.30）で2千人から**熱狂的な拍手・歓呼**を浴び，**唯我独尊の毛への忌憚**から人気沸騰が報道に出ないよう手配した。劉少奇の外遊帰来の報道にも群衆が叫んだ「毛主席万歳」と有るが，訪問先で劉夫妻の肖像画が大きく飾られた等の情報と同じく，周の「毛主席の御指導の下」の強調や「敬愛なる周総理」の修飾語の削除では，**栄誉独占欲の強い毛の不快は消えない**。

毛沢東は劉少奇失脚後に**周恩来を抑える意図も秘めて「中央文革碰頭会」を最高指導部とし，進行役の周を凌駕する実質的な主宰者として事実上の「文革領導小組」組長の江青を置いた**。**「中央文革」と妻を重用する為の取引で林彪に軍委辨事組を与え両機構に葉群を入れたが，林も江の僭（せん）越・横暴を見かねて直に叱咤し**その怒りは**毛夫妻の怨みを買った**。**五十歩百歩の双方は同じ穴の貉（むじな）で要人の妻の越権参政は王光美の「4清運動」指導に遡り，習仲勳失脚・階級闘争強調の8期10中全会の時期は毛・劉夫人の競合でも歴史の節目**と為る。

儒教経典の『**書経**』（『尚書』。伝・孔子編，後学完成）の「牧誓」の**警句**として，**周の武王**は**「牝鶏無晨。牝鶏之晨，惟家之索。」（牝鶏は晨（ひんけい）する無し。牝鶏之（も）し晨せば，惟家（これ）を之（これ）索（つく）す）**という古人の言を引いて，（通常有り得ない）**雌鶏（めんどり）が暁を告げれば家を無くして了（しま）う**のと通じて，**殷**（商。前1600～前1046）**王の紂（ちゅう）**（帝辛。?～前1046，前1075～前1046在位）は**女の言う事ばかりを用いて**，祭礼を蔑ろにし神に報いをせず，**罪人や亡命者を尊（とうと）んで長官とし**，彼等を信任し**百官に対する酷（むご）い行いや国を乱す悪事を行（や）らせている**，と糾す。

**世界経済論壇（フォーラム）**（1971.1.29創設，本部＝瑞西寿府（スイスジュネーブ））の**「男女格差報告書（ジェンダー・ギャップ・レポート）」2018年版**で，**政治への関与度・経済活動への参加と機会・教育・保健の4指標**総合採点の結果，**日本**は主要先進国の仏蘭西（フランス）・独逸（ドイツ）・英国・加奈陀（カナダ）・米国・伊太利（イタリア）の12・14～16・51・70位を下回り，**中国・韓国**（103・115位）**の間の110位**に在る。**政治分野の女性閣僚**（1人）**・国会議員**（衆議院の1割）**の僅少**，経済分野の賃金格差・管理職比率の低得点が主因と為る。**中国の相対的な優位**は此等の評価の良さにも由り，**女性尊重の理念・施策の寄与**が認められる。

建国後の女性の要職登用や男女「同工同酬」（同一労働・同一賃金）制度の様に，「女性は天の半分を支える」と言う**毛沢東の男女平等・同権の提唱**は実践されて来た。その半面，**中共最高指導部に女性成員が無い「硝子（ガラス）の天井」は建党100年になっても破れそうに無い。英語のhistory（歴史）をhis story（彼の物語）と茶化した俗説は，勝者が作り英雄が中心を為す官製歴史の本質を突く。毛沢東時代に横行し習近平時代に擡頭した個人崇拝も「彼」の神格化**に他ならないが，**集団指導体制でも頂上（トップ）陣は男性の「彼等」で固まる物**である。

**毛沢東の「無法無天」は自ら「天」（絶対的な支配者。神）と為る事を意味する**が，**江青が「天」の半分を支えた「文革」中の「天帝＋女帝」2人組（コンビ）は最悪**である。**毛の「彼の物語（his story）」**

**と好一対の「彼女の物語（her story）」にはhysteria（病的な亢奮・感情制御不能）が屡々現れ，2人の思想的・心理的・生理的な狂気・躁鬱・病態は「天（並みに）大（きい）」災難を齎した。1人の独裁が2重に増幅した事で建国以来の空前絶後の暗黒期は10年も続いたが，「文革」の下地**を掘り下げれば又も**毛夫妻の劉少奇夫妻粛清の遠因を為す嫉妬・憎悪**に突き当る。

**「裏切りと嫉妬の“自民党抗争史”」**（政治評論家浅川博史［1942～2017］の著書［講談社，17］の題）を証す様に，党幹事長・自治相経験者の**小沢一郎**（1942～　）は**派閥闘争の根底に有る男の嫉妬**を喝破した。女性として初の自民党3役入り（総務会長）・環境相・防衛相を歴任した**小池百合子**（1952～　）も，東京都知事（2016.8.2～　）在任中にNHK情報番組「あさイチ」生出演（17.3.3）で，「女の嫉妬より**男の嫉妬が怖い**」，「**男同士の嫉妬は国だって滅ぼす程**だ」と語ったが，その**逆説**に即して**江青の嫉妬は男勝り**と言えよう。

小池は環境相（第5～7代，2003.9.22～06.9.26）就任の当初から嫉妬の的と自覚したが，時の首相（第87～89代，01.4.26～同上）**小泉純一郎**（1942～　）**の次男進次郎**（1981～　）は，令和初（19.9.11）の改造内閣で史上最年少の男性閣僚として第27代環境相に為った。彼は衆院議員2期目中の参院選応援演説（2013.7.17）の合間，**池上彰**（1950～　，報道人）から「男の嫉妬って凄いでしょ」と訊かれると，芸能界や報道の世界でも同じで，これに鍛えられ耐えて行かねば為らぬと答えたが，**性差や業種を超える嫉妬の普遍性**が示唆される。

1982年6月18日に東京地裁第7部で連合赤軍3被告に対する判決公判が開かれ，**山岳隠れ家内の私刑殺人やあさま山荘の銃撃戦で社会を震撼させた罪人**として，最高幹部永田洋子（1945～2011）・中央委員会書記長坂口弘（1946～　）は死刑を宣告された。山岳基地粛清に関する判決理由に，永田は「自己顕示欲が旺盛で，感情的，攻撃的な性格とともに強い猜疑心，嫉妬心を有し，これに女性特有の執拗さ，底意の悪さ，冷酷な加虐趣味が加わり，その資質に幾多の問題を蔵していた」と有り，**偏見に基づく女性差別の表現は看過せない**。

**中野武男裁判長**（1929～　）は判決文で**犯行の空しさや「革命」の粗末さを糾弾・悲嘆し**，翌日の『毎日新聞』の記事「“愚かで哀れな末路”/中野裁判長“弁解”一切認めず」の通り，従来の公安事件や爆弾事件でも例が無く稍「古典調」「饒舌」の嫌いは有るものの，その指摘は連合赤軍事件の一面の真相を言い当ている。**12人を処刑した凄惨な「総括」に対する断罪は人間性の欠如まで抉り出し，地獄絵図の光景を作った残忍な殺し方には生命への尊厳を微塵も認められないと斬る**等，**冷血の叛逆者を捌く正義漢の熱血が滾っている**。

本件は1970年初頭の左翼陣営に在って**疾風迅雷の様に翔け巡り，瓦解，消滅して行った一革命集団**に由る**凄まじい略奪・殺戮・破壊**の爪跡で，**傷痕は10年を経た今猶深く癒されない；犯行は規模・回数に就いては言うに及ばず，手段・態様の凶悪・残虐性に就いては比類が無く，損害の甚大性も特筆されねばならぬ；動機・目的も権力の殲滅と共産主義社会の実現を，現行憲法秩序の容認しない銃と爆弾に由って貫徹しようとする独善的・反社会**

**的な物**だ，という判決の総括は**4年先行した中国の「紅色恐怖」の有り形と二重写しに為る。**

縄で縛り何日も食事を与えず，寒中に放置したり砕氷錐で胸を滅多刺しにする等の行り方は，**連合赤軍の武闘至上主義の本家では「文革」中に日常茶飯事の如く実践され，1930年代前半の中共・紅軍の「反革命粛清」にも祖形が見られる**。「これが辛酸を分け，寝食をともにした同志から受けた友情の証であり，光栄ある革命家の末裔であったとはなんたる悲惨，なんたる哀れであろうか」という**判決の悲嘆は，中共革命史上の無数の冤罪犠牲者を弔う挽歌にも使え**，劉少奇・彭徳懐・賀龍も迫害死の際に同じ思いが胸中を去来したろう。

**執拗さ・底意の悪さ・冷酷な加虐趣味が女性特有の傾向でない事は，劉少奇等を嬲り殺した面々の性別を見ても明らか**である。**毛沢東は富貴の人相とされる「男人女相」（女の面相をする男）**で手も女性の様に柔らかいが，**学校の劇団で女形を演じ繊細さ・優美さを備えた周恩来に対する彼の虐めは，自己顕示欲や感情的・攻撃的な性格，猜疑心・嫉妬心と同じく男女の別とは関係が無い**。判決に不服が無い永田洋子は全てが自分の悪い性格に帰せられた事を残念がったが，**内面への追及**が度を越したとしても**性情の重要性**は否定できない。

12人が制裁に掛けられたのは客観的な基準や方針に由る事でなく，**絶対者**である**最高指導者森恒夫**（1944～73，中央委員会委員長）**と永田洋子**（副委員長）**の優越感を満足させる為に，勝手に好餌とされた**のである。男女関係・服装・化粧等の**些末な事柄を取り上げ，「日和見主義者」等の特定の評価を貼って厳しく追及した**経緯から，**身辺の用務員や軍の高官に対し能く理不尽な粗捜し・追放をした江青**が連想される。**彼女の物語に事欠かさぬ病的な亢奮・感情制御不能**は勿論，**隠微な劣等感が絡んだ激しい嫉妬・憎悪を含んでいる。**

「嫉妬」を女偏にしないで欲しいという小池百合子の訴えの通り，**女の疾病の様に感じさせる部首は「字弊」**（「語弊」に擬えた造語）**を抱える**が，**江青の嫉妬は人一番に強く特に突出したのは王光美に対する同性嫌悪**（**「同族嫌悪」**を捩った造語）である。毛沢東が1959年に廬山で王光美を水泳に誘った処，泳ぎ下手と足の6本指の多指症を隠す為に加われない彼女は，「文章は自分の方が上手で，女房は他人の方が良い」と嫌味を言った。**「隣の芝生は青い」に当る熟語は文章の価値を思わせるが，王の前で表明した不快は抗議や警告に近い。**

江青の**窮極の嫉妬は自分と大差を付けた外国訪問・外賓会見**に在り，海外で宝飾を控えるようという**僻んだ言い付け**が無視された事も癪に障った。**清華大学の紅衛兵は校園内の30万人参加の批判・闘争大会で王光美を吊るし上げる**時，外遊中着用の真珠の首飾りを皮肉る意味で卓球玉を繋げた輪状の「頸鏈」を着けさせたが，**東南亜訪問の服飾を再現する姿で痛罵・殴打を受けさせるのは江の画策**である。その**汚辱の日**（1967.4.10）**の45年後に薄熙来は全職を解任されたが，「文革」再演の者は指導者の資格が無いという天意**を感じ得る。

江青は1966年末の**中央会議に乱入**して賀龍打倒の許可を求め，毛沢東が議論しないと答えると**「貴男に造反します」**と吠えた。毛が黙って視線を書類に落すの見て**譚震林が立ち上**

**がって**，国家の大事を討論する会議で暴れる権利は君に有るのか等と叱り，着席の際**「何様の心算か」**と呟いた。**毛は泣き出した妻を抑える事が出来ず**散会を宣言し，人々が逃げ出す中で**陳伯達は号泣中の江を宥め**，此処は自宅じゃないから貴女の行き過ぎは私も決りが悪いと諭したが，江は**遣り場の無い悔しさ**を彼にぶつけその**軍服の襟章を捥ぎ取って罵った**。

「能無し！あんたを軽蔑する！」と怒鳴られた「中央文革」組長は，**余りの放恣で屈辱に耐えず**彼女が去った後**「雌の鴉め！」**と喚いた。**啼き声が不吉と為る鴉は雌の場合「牝鶏之晨」と通じて更に始末が悪い**が，**酒池肉林の荒淫・乱脈で悪名高い紂王**は『書経』の典故の通り**愛妾妲己**（？～前 1046）**を溺愛し，婦人の言を用いていれば禍の至る日も近いと諌めた叔父比干**（生歿年不詳）**を殺し終いに国を亡ぼした**。紂の自殺後に周武王に斬首された妲己は**稀代の悪女の汚名**が付き，**多くの王朝の后・妃参政厳禁はその教訓と危惧に由来した**。

毛沢東が妻子・親族の中央委員会入りに消極的だった事は縁故重用の忌避として美化されたが，**平党員の江青に政治局常委並みの権力を握らせる無法な委任は党の私物化の現れ**である。**江の「文革」前・後期の実質的な序列は其々林彪と周恩来に次ぐ「2.5 位」**と言え，毛が見破った様に**身の程を知らない野心は次期主席に成る事**である。**呂后・武則天**（624～705，唐の高宗［李治，628～83，49～83 在位］の皇后，武周皇帝［690～705］）**を讃えた**江は，**亡夫との同権を果せず現代中国最大の悪女として後世に語り継がれる**破目と為った。

毛沢東は 1974 年 12 月 24～27 日に長沙で両副主席と第 4 期全人代の人事に就いて協議し，王洪文が打診した江青の要職担当を却下し周恩来に鄧頴超の副委員長就任を提起した。**第 7 期中央委員候補・第 8～12 期委員の鄧は夫の固辞で周・毛死後の 1978 年に初めて当選し**，1 期（5 年）＋全国政協会議主席 1 期（同）と重なる時期に**第 11～12 期政治局委員**を務め，初代中紀委第 2 書記（78.12～82.9）の任も負った。**江の跋扈と対照的な周夫妻の謙抑は美名を博し，その影響で最高指導部成員の妻の過度な参政は自粛されて今に至った。**

**華国鋒は「11 大」の雛壇に肖像画が毛沢東と並ぶ程「英明な領袖」と崇められ，史上唯一の党中央・軍委主席兼総理として外交活動も多い**が，妻**韓芝俊**（1931～　）は中国軽工業輸入輸出公司政治部主任（75 年就任）に止まり，唯一の名誉職は全国婦聯執行委員（78 年当選）で，**江青・王光美と正反対で普段は自転車で出勤し夫の外遊や外賓会見には御伴しなかった。華の失脚を招いた個人崇拝とは裏腹に史上最も「低調」（謙抑）・無名の「第 1 夫人」と為る**が，**毛・江の特権濫用の故の奢侈と逆の夫妻の道徳自律に由る清廉は評判が良い**。

胡耀邦の妻**李昭**（1921～2017）も北京市紡績局副局長の職務に専念し夫の外遊に同行せず，**唯一晴れ舞台に出たのは中曽根康弘首相夫妻を歓待する家庭宴会**（84.3.24）である。胡訪日中の前年 11 月 26 日に中曽根夫妻が**首相官邸で催した内輪の食事会への答礼**は，ハルティニ夫人を持て成す**周恩来夫妻の「家宴」**（1962.9.24）**等の前例が有る**が，中曽根の**長男弘文**（1945～　）**夫妻**に対応して，**次男劉湖**（同）・**長女李恒**（1952～　）・孫娘胡知鷙（1973

～　）を同席させた事は，**最高指導部成員の外交活動で初の試みと為り思わぬ禍を招いた。**

別名満妹の独り娘・末（第4）子は北京の工場に配属され旋盤工と為った翌年（1969），父の晋察冀野戦軍第3縦隊政治委員時代の相棒（司令）の北京軍区司令鄭維山に直訴し入隊した。周りの者が続々と推薦進学を果す中で父に口利きを頼んだ処，**裏口入隊に反対した自分には斡旋できない**と拒否され，格別に可愛がられて来た彼女は失望の余り返信を引き裂いた。胡耀邦は**歴代党首の中で稀有の1点の曇りも無い人で家族外交も無私無欲**であるが，**友好関係の強化の為の親密な往来は日本に迎合し自分の形象を作る事として誹られた。**

**レーガン**米大統領（1911～2004，第40代［81.1.20～2期］）の訪中（84.4.26～5.1）で，**同じ元映画俳優の妻ナンシー**（1921～2016）は**元首夫人（ファースト・レディー）の気品・貫禄**を示した。翌年の**李先念**国家主席訪米（7.22～31）は妻**林佳楣**（びり）（1924～　）同伴で**元首夫人（ファースト・レディー）外交を再開した**が，**趙紫陽総理は党首就任後も妻梁伯琪**（きき）（1918～2013，中央組織部の副大臣級役職者）**を帯同しなかった。江沢民**の露西亜（ロシア）・烏克蘭（ウクライナ）・仏蘭西（フランス）訪問（1994.9.2～12）に妻**王冶坪**（へい）（1928～　）も同行し，**元老世代の権力譲渡が完成したこの時から元首外遊の夫人常連化は定着した。**

朝日新聞中国総局著『核心の中国――習近平はいかに権力掌握を進めたか』（朝日新聞出版，2018）に，「19大」政治報告は前例の無い長大な物だという記述が有る。水を飲む間さえ惜しんで話し続けた習の力（りき）み方は確かに異様で，終って自席に戻ると胡錦涛から腕時計を示し「長かったよ」と言わんばかりの仕草（しぐさ）を見せられた程である。前例が無いと誤認したのは党史の不案内と文献渉猟の不足に帰（き）せ，**延々と展開する中国・中共流の表現欲・言説様式との文化的な懸隔（カルチャー・ギャップ）**も感じるが，**前例無き言動が多い**という先入観に起因したなら頷ける。

**毛沢東以後の党首に於ける習近平の異色は毛や父親と同じ離婚歴も有り，柯玲玲（1951～　）との婚姻（79～82）を終えた事は，同じ頃の国務院・中央辦公庁勤務から地方への転出と同じ重要な決断**である。**岳父柯華**（1915～1919）は外交部礼賓 / 非洲 / 亜洲司司長（儀典 / 阿弗利加（アフリカ） / 亜細亜（アジア）局長）を経て**駐英大使**（78.9～83.3）を務め，3女（末子）**玲玲は英国移住を望み**実際にも離婚後倫敦（ロンドン）に医師として定住して来た。**政界進出を志す習は渡英を拒み穏便に別れたが，同志の渡欧を支援しながら国内に留まった毛との類似性**を感じさせる。

**彭麗媛**は「文革」末年（14歳）に山東芸術学校（1958年設立）に入り，済南軍区政治部前線歌舞団に入った翌々年（82），中央電視台（CCTV）春節聯歓晩会（NHK紅白歌合戦に相当する年賀文芸夕べ）に登場し，**美声・美貌と清純な形象で一世を風靡し国民的な歌姫と為り**，2年後に総政治部歌舞団に転入したが，87年に知人の紹介で厦門（アモイ）市副市長の習近平と交際・結婚した事は訝れた。**知名度の大差に関らず離婚歴の有る習を選んだ彭は英雄を識（し）る慧（けい）眼の持主**と言えるが，**大衆の人気を集めた軍人歌手を妻に持つ習の幸運・利点（メリット）は絶大**である。

彭麗媛は**3流の新劇・映画女優江青が及ばぬ国家1級演員**（俳優。芸能人。職業的出演者（タレント））で，王光美の中国初の女性の原子物理修士に対し**民族声楽修士の本土第1号**（1990年授与）

と為る。2 級文職少将（軍首長待遇）・総政歌舞団団長（2009～12）・解放軍文芸学院（1960 年設立）院長（12～17）・中国音楽学院（56 年設立）客員教授等の肩書も，**唯一王に劣る外国語能力の不足を補い得る。中共治下の最も美しく輝く「第 1 夫人」は江・王の僭越な政治関与も無く，夫の君主化の兆しが現れる中で女帝に為らない姿勢は何よりの内助**である。

**習近平は毛沢東と似た民族系の土着性を持ちつつ異様な閲兵好き並みに外遊を好み，妻同伴の外交は王光美・江青初登場の首都でも破天荒の新常態を作った。圧巻**は第 15 代**米大統領トランプ**（1946～　，2017.1.20 就任）**・メラニア夫人**（1970～　，ユーゴスラビア［現スロベニア］出身）訪中（17.11.8～10）の初日，紫禁城を丸毎空けて故宮博物館参観・京劇観賞・晩餐で款待した事である。**党首再選の 14 日後に歴代先任の紫禁城への忌避と逆の独占で皇帝気取りの印象を与えたが，5 年前の「18 大」開幕時に誰が予想し得たろうか。**

改憲に由る**国家主席任期制限撤廃の 15 日後**（2018.3.26）**に出た豪華外交の新記録**は，**金正恩夫妻を歓迎する宴会に供えた茅台酒の「天価」（天文学的な数字の価格）**である。**金の執政後 6 年来の初外遊**（3.25～28）**は非公式ながら習近平政権の極度の重視を受け**，習夫妻・主賓着席の円卓に然り気無く置いてある **2 本の「国酒」（国の代表的な酒）**は，**超稀少の年代物**で合計 **256 万元（4 320 万円）**もする。自らの 1 期目の**倹約令と矛盾する様な千金一擲の散財**は，**従来・今後の指導者には考え難い「習流決行」**（造語）の 1 例に過ぎない。

金正恩は 5 月 7～8 日に大連で習近平と会談し，6 月 19～20 日に中国を公式訪問し，35 歳の誕生日（2019.1.8）と翌日を北京で過した。**9 ヵ月半の間の訪中 4 回は先代の 11 年中 11 回**（2000.5.29～11.5.26）**の密度を数倍も超え，祖父の執政 45 年中の 40 回弱**（公式訪問［初回は 1953.11.10～27，最後は 91.10.4～13］・友好訪問・内密訪問）**の量と共に，世界の外交に於て珍しい。習は相手の 1 年来の急接近に応える様に** 2019 年 6 月 20～21 日に訪朝したが，**元首が 14 年ぶりに出向いたのは胡錦涛時代の対朝疎遠からの脱却**を意味する。

**胡錦涛訪朝**（2005.10.28～30）は**金正日の非核化表明**（同年 6.17）**への見返り**であるが，軍委主席就任後の**胡は北朝鮮の背信・暴走に強硬姿勢で臨むに至った。初核実験（2006.10.9）に関する外交部声明の「悍然～」（横暴にも～）は異例の譴責**で，以後 13 年近くの元首不訪朝と共に**非友好国を格下げした。習近平の訪朝復活は「文革」後の初と為る党・政・軍首領華国鋒の外遊を想起させ**，最初の**朝鮮**（1978.5.5～10）と次の**羅馬尼亜・ユーゴスラビア・イラン**（8.16～9.1）は，**親中・嫌米「共闘国」**（造語）**に寄り添う習**性の存在を思わせる。

**習近平は華国鋒以来の首領と同様平壌で数十万人の沿道歓迎を受け，共産圏特有の超大人数動員は大昔の中国と 2 重写しと為る。ソ連は毛沢東の初訪問の際 200 万人の歓迎を計画し**，厳寒を慮る毛の固辞で空港に於ける少人数の式典に変った。**毛治下の中国では外遊帰来の劉少奇を迎える場合でも昆明空港に 5 千人が詰め掛け，ハルティニ夫人の北京到着の同じ規模・形式の歓迎は金日成の初公式訪中が 1 回目**（於前門駅）である。**数十万の沿**

**道歓迎は翌年10月19日に始まり，印度首相ネルー**（1889～1964）**が20万人に歓迎された。**

**礼遇度に応じる動員数は1957年4月15日に初めて100万に達し**，ソ連元首の最高会議幹部会議長**ボロシーロフ**（1881～69）への**破格の厚遇**として，**毛沢東は無蓋自動車で南苑空港から中南海まで同乗した**。彼が**15日後**の最高国務会議第12次（拡大）会議で**国家主席3選辞退を表明した背景**には，**昼夜顛倒の生活習慣の為この種の拘束を苦にした事**も有る。彼が毛嫌いした**虚礼の無駄を証す様にソ連は2年・12年後に中国と決裂・交戦し，最初の例と為る南の隣国の初代**（1947.8.15～64.5.27）**首相も8年後に対中戦争に突入した。**

外遊から昆明に帰った劉少奇は翌日から政治局常委拡大会議（4.16～24, 杭州）に参加し，**「文革」発動の予備会議**の後の帰京（25）は報じられなかった。最後の12回の外賓会見（4.30～8.5）では，先方の顔触れに対応して李先念夫妻・陳毅夫妻が各1回同席したのに，王光美の出番は封じられた。時下の**「反修正主義」の気焔の急騰**を映して，**阿爾巴尼亜労働党**（1941.11.8成立）**政治局委員・人民共和国**（同46.1.11）**閣僚会議議長（首相）シェフー**（1913～81）が率いる**党政代表団**は，訪中（4.28～5.11）の初日**100万人の歓迎**を受けた。

**周恩来**は同代表団を歓迎する首都各界10万人参加の大会での演説の最後に，**「阿爾巴尼亜人民の敬愛なる領袖，中国人民の親密な友人エンベル・ホッチャ同志万歳！」**と叫んだ。**党第1書記**（1944～歿）で**初代首相**（44～55）も務めた当の**独裁者**（1908～85）は，ソ連との関係を断ち衛星国から離脱した後に**中国の援助に依存したが，改革・開放を批判し鎖国に徹した。ヅォヅェ国防相**（1911～49）**処刑を再演する血の高官粛清の最中にシェフーは自殺し**（12.17），**党首の長年の親友・No.2は死後も非難され遺体が荒地に乱雑に葬られた。**

華国鋒訪朝の3日目に牡丹峰運動競技場で**平壌市人民委員会**主宰の歓迎集会が開かれ，10万人が埋まる会場の中央の標語に**「中国人民の英明な領袖華国鋒主席万歳！」**と書かれた。**鄧小平**は「4人組」逮捕の4日後（1976.10.10）に華宛ての書簡で，**復帰を要請する為の迎合として「華主席を頭とする党中央万歳！」と認めたが，力関係が逆転した今の華に捧げられた「万歳」と『人民日報』の報道は，2年半後の失脚の要因と為る個人崇拝への容認の現れ**とも捉え得るので，**毛沢東と並ぶ最高の賛辞を享受した訪朝は結果的に災いした。**

**華国鋒帰京の前日**（5.10），中央党校の内部刊行物『理論動態』は副校長**胡耀邦の推進**の下，**南京大学哲学学部講師胡福明**（1935～　）の論文**「実践は真理を検証する唯一の基準である」**を載せた。11日の『光明日報』「本誌特約評論員」名義に由る公開は，翌日の『人民日報』『解放軍報』を始め14日に全国各紙に略全部に出た。**毛沢東の思想・言動・施策の無謬性を唱え堅持を絶対視する華の理念への挑戦**は，論争に発展し間も無く**改革派の勝利と守旧派の転落に終ったが，党首の北朝鮮訪問の隙を突いた「軟政変」**（造語）と言える。

**北朝鮮と中国の相克相生・禍福反転**を象徴する様に，**金日成の77歳の誕生日**（1989.4.15）**に胡耀邦は歿年73で急逝し**，10日後の**人民革命軍創設記念日に合せた趙紫陽の訪朝は**

**「軟政変（ソフト・クーデター）」を誘発した。当初「2.8」（1948 年に正規軍が組成した日）と定められた建軍節は 78 年以降，金日成が 32 年に満州で朝鮮人民革命軍**（東北人民革命軍・東北抗日聯軍）**を結成した「4.25」に変更された。40 年後の政治局決定**（1.22）**で「2.8 節」**（人民軍創建日）**に戻ったが，12 年目の「4.25」は中国の軍委主席と第 1 副主席の決裂の起点と為った。**

**周恩来・賀龍・葉挺・朱徳・劉伯承主導の「南昌起義（蜂起）」（1927.8.1）に由来した中共軍創設記念日**は，**毛沢東が同年に組織・指導した「秋収（秋の収穫（とりいれ））起義」の「9.9」**に変える可（べ）しという声が「文革」初期に上がった。湖南東北部・江西西北部で起った後者に由り**工農革命軍第 1 軍第 1 師**が成立し，**井岡山に初の農村革命根拠**が出来た。**「文革」中の歴史改竄の中で最も荒唐無稽な 1 件**は，**井岡山で毛と合流した首長は実際の「建軍の父」朱ならぬ林彪（当時連隊（ちゅうたい）長）とする神話**であるが，毛は流石に建軍節の改変を認めなかった。

周恩来の晩年の例外的な外国訪問と為る胡志明（ホーチミン）弔問は病歿の翌日と長年信じられていたが，**越南（ベトナム）共産党**（南北統一後の 1979.12.20 に労働党より改称）**政治局は故人生誕 100 周年の 1990 年に，21 年前に「9.2」国慶節と重なる命日を 1 日遅らせて発表した事を公にした。中国の建軍節が「9.9」に変ったなら毛沢東死後その命日に祝わねば為らぬ**ので，**毛の常識的な判断は 2 重の意味で自らの形象を維持した。金日成の建軍節変更は個人崇拝の強化の為なら中国と逆行した**事に為り，同年の阿爾巴尼亜（アルバニア）の**極左への狂奔**も中国への反撥に由る。

1978 年に**華国鋒の教条主義を打破する画期的な論文を発表した胡福明**は，5 年前に政治学部哲学専攻（77 年に学部に復帰）で鐘志民等の「工農兵学員」に手を焼いていたが，自ら道を切り開いた新時代に教授・省委宣伝部副部長・省政協副主席へと昇進を重ね，党中央・国務院主催の**改革・開放 40 周年**祝賀大会（2018.12.18）で，各界の功労者と共に**「改革先鋒 100 人」の 1 人**として表彰された。中の袁庚の逝去（2016.1.31）を悼む『南方都市報』の「魂帰大海」は筆禍に為ったが，**最先鋒**（造語）**の両総書の忠魂は正に大海へ帰された。**

## 祭典――中・朝「先軍党国」の同根性と相互同化の表徴

**レーニン生誕 119 周年に巡り合せた胡耀邦追悼会の日**（1989.4.22），前夜の天安門広場で行われた**学生・市民 10 万人の示威（デモ）が南京・西安・長沙等へ飛び火し**，18 日の新華門事件（中南海の正門前に於ける学生と警備隊の小競（こぜ）り合い）の拡散が懸念された。趙紫陽は改革派の**田紀雲**（1929～　，政治局委員・副総理）**の訪朝延期の提案**に対し，**国外に動揺を見せない事を優先し** 24 日に**楽観的な気分**で発ったが，**不在中**に同夜の常委会で中央動乱制止委員会の設置が決定され，翌日に鄧小平は李鵬・楊尚昆に賛意を表し動乱の平定を指示した。

『人民日報』26 日社説の「動乱」断罪と翌日の首都 10 万人抗議示威（デモ）で対抗が激化し，趙紫陽は訪朝帰来の 29 日から**狂瀾を既倒に廻らす術が無く誤算の代償を払わされた**。彼は民

主化運動の高揚を期待し自分が収拾に乗り出す機会を伺っていたとも推測されるが，**体制内外の異端者の存在を許さない「長老治国」の下で大衆よりも早く退場させられた。この訪朝が招いた大乱の損害は朝鮮戦争への介入に匹敵し，鄧小平の「殿，御乱心」で起った「6.4」鎮圧は真の改革・開放を終焉させたが，血盟の「善隣」への義理立ては血の教訓を遺した。**

**党首訪朝第2号の胡耀邦**は1982年4月26～30日に鄧小平と共に内密で行き，翌年に鄧を御伴して内密訪中（6.2～12）の金日成と会った。公式訪問（1984.5.4～11）では**50万人超の歓迎を受け，感激の余り途中で車を止めて道端の人々と握手した。在任中の数少ない外遊の内**1985年の非公式訪問（5.4～6）を含めた**2年連続**は，**独裁に否定的な開明派の名声と矛盾し，開国世代の北朝鮮に抱く特殊な感情を窺わせる。型破りの愛情表現を見せた彼は前・後任と同じく失脚した**ので，**北朝鮮に対する党首の訪問・思い入れは縁起が悪い。**

**江沢民**は1989年の金日成訪中（11.5～7）の初日に北京駅で出迎え，**総書記としての御墨付（おすみつき）を頂く**形で4日後に引退する鄧小平から引見された。**初外遊は北朝鮮**という約束を翌年3月14～16日に果し**50万人の歓迎**を受けたが，**中韓国交樹立**（1992.8.24）に由る**北朝鮮の反目で指導者の相互訪問は中断した。**江の党首退任の前年の訪問（2001.9.3～5）は**金正日体制との関係修復**の措置であるが，**先代並みの厚遇を保った今回**の後その**2世領袖の嫌中感情が嵩（かさ）み，胡錦涛は到着時の4桁超の大人数の歓迎が無く歴代最低の待遇**に遭った。

**金正恩**は建軍節再変更の様に**先代を飛ばし「国父」をも超えようとする様**で，**習近平も**大軍区撤廃や集団軍番号刷新等で**毛沢東と並ぶ再建軍者を演じている。**両者の**波長が合う様に習は国費浪費の謗りを憚らず最高価の美酒を提供し，金は外賓として初めて錦繡山（クムスサン）太陽宮殿（金日成父子の遺体が安置された「聖地」）で歓迎した。**各々の「新時代」に**対米外交の切札活用の為の急「解凍」**が演出されたが，**近寄り過ぎた華国鋒・胡耀邦・趙紫陽の失脚と距離を保った江沢民・胡錦涛の安泰**は，**「魔呪（ジンクス）」**の如く**訪朝の成功に陰影**を落している。

習近平は5.1（メーデー）運動競技場（スタジアム）で**今回の為に創作され数万人が出演する集団体操（マス・ゲーム）**・歌舞等を観覧したが，**略（ほぼ）無報酬招集の人力で人文字・図案を演じる高度統制の大合同体操は北朝鮮の御家芸（おいえげい）**である。中国の**全国運動会**（国民体育大会）**開幕式を飾る大型団体操（マス・ゲーム）**は，**第1回**（1959.9.13～10.3，北京）の**「全（国）民同慶」（7 823人出演）→第2回**（65.9.11～28，同）の**「革命讃歌」（16 360人）→第3回**（75.9.12～28，同）の**「紅旗頌（讃歌）」（2.3万人）**の様に，**北朝鮮の影響を受け両国関係や毛沢東治下の「革命化」と連動して膨らんだ。**

第4回（1979.9.15～30）の「新的（新しい）長征」は1.7万人に減り，地方開催に移った第5回（83.9.18～10.1，上海）の「凌雲（の）志」は8 028人と初期に戻った。**5桁の規模の消失は改革・開放後の効率・利益重視の合理主義**を映し，**集団体操（マス・ゲーム）を好んだ羅馬尼亜（ルーマニア）・ユーゴスラビアでも独裁政権崩壊**（1989.12.26）**や連邦消滅**（2006.6.3）**で廃れた。**東欧共産圏の集団体操（マス・ゲーム）の典型には**独逸（ドイツ）民主共和国**（1949.10.7成立）**の「芸術と体育（スポーツ）の祭典」**が有

るが，同国は**全体主義と訣別して西側の独逸連邦共和国**（同 49.5.23）**に統合された**（90.10.3）。

**独逸の運動競技場に於ける極度統制の集団出演の祭典**は**伯林五輪**（1936.8.1～16）**開会式**の前例が有り，**レニ・リーフェンシュタール**（1902～2003）脚本・監督・製作の大会記録映画『**オリンピア**』の 2 部は，『**民族の祭典**』『**美の祭典**』（漢訳は『民族的節日』『美的節日』［「的」＝の，「節日］＝祝日）と題する。**ヒトラー**（1889～1945）**の 49 歳の誕生日**（38.4.20）**に合せた公開**が示す様に，**国家社会主義独逸労働者党**（1920.2.24 結成）**党首・独逸国**（1871.1.18～1945.6.5）**総統兼首相**（33.8.2～45.4.30）**の意志に基づく宣伝の色彩が強い**。

**集団体操の総本山**の 2 世領袖**金正日**は早期の党映画局勤務等を経て，1969 年 9 月から党組織指導部部長兼宣伝煽動部副部長・文化芸術部部長を務め，5 期 5 中全会（1972.10.23～26）で中央委員に当選し，7 中全会（73.9.4～7，11～17）で**中央書記（党組織・宣伝煽動担当）**と為り，8 中全会で政治委員会（第 6 期より政治局）委員に当選し（74.2.13），翌日に**父君の後継者に推戴された。宣伝工作主管者が党首 / 最高指導者に為る例は中共では瞿秋白・李立三・張聞天が有るが，彼等の敗退と対照的に金は領袖崇拝の宣伝で地位を固めた。**

**金正日は映画振興の為に韓国の女優崔銀姫**（1926～2018）**・監督申相玉**（同～2006）**の拉致を命じ**，76 年に離婚した 2 人は**香港で強引に誘拐され**（78.1.14，7.19），北朝鮮で**「志願亡命者」とされた上で共同製作の奉仕を強いられ**，83 年復縁後 86 年 3 月 13 日に外遊先の**墺太利の維納で米大使館に亡命し蛮行・欺瞞を暴いた。同じ飛行機嫌い・映画好きの毛沢東は女優を妻にしたのも金と一緒**であるが，江青が金並みの指導を行う映画事業では人材に困らない事も有って，左様な**無頼の手段で独善的な独占を仕出かす**事は先ず起り得ない。

レニは 21 歳で表現舞踏の踊り子として出世し新星として大成の期待を集めたが，舞台で膝を負傷した所為で映画女優・監督に転身し成功した。初監督・主演の『青の光』（1932）が大当りした翌年に**ヒトラー直々の依頼**で，**国社独労党第 5 回大会**（8.30～9.3，ニュルンベルク）**の記録映画**『**信念の勝利**』を作った。**第 6・7 回大会**（1934.9.4～6，37.9.10～16，同）を映す『**意志の勝利**』『**自由の日**――**我等の国防軍**』（35）と共に**党大会 3 部作**を為すが，**政権奪取後の「勝利の大会」は中共「9 大」の「団結の大会, 勝利の大会」の合言葉と重なる。**

国社独労党「5 大」の初日にヒトラーは開催地を**「帝国党大会の都市」**にすると宣言し，野外行事に適する会場に**「3 大」（1927.8.19～21, 同市）の 2 万の 20 倍弱の人**が集まった。**中共「9 大」は 2 200 万の党員を代表する 1 512 人が人民大会堂で秘かに開かれ，紋切型の報道映画はレニの名高い 3 部作と比べ物に為らない。朝鮮労働党「6 大」（1980.10.10［建党 35 周年］～14）**最終日の 1 中全会で，金正日は**政治局常委・中央書記・軍委委員**に当選したが，**「7 大」（2016.5.6～9）まで全国大会・中央全会は停止し**記録映画は撮り様が無い。

**金日成治下の党大会を復活した金正恩は祖父の髪型や振舞まで真似ており，先祖返りは鄧小平を超えて毛沢東への直系継承を見せる習近平にも現れた。**『信念 / 意志の勝利』に因ん

で言えば両国の始祖は勝利の信念・意志が人一倍に強く，万人集団体操（マス・ゲーム）を愛用して止まぬ孫や大閲兵を増やした孫輩の「新領袖」も勝るとも劣らない。中・朝の「鮮血で固めた友誼」は南侵の金日成を支える抗米作戦の所産で，江沢民・金正日時代の「仮面盟友」状態と打って変った腐れ縁の再燃も，国際孤立や対米貿易戦に困った双方の打算が一致した為である。

毛沢東は建国初の10年の対ソ一辺倒と次の10年の中ソ対立を経て対米最重視に変り，その証拠にニクソン大統領の初就任演説は8日後（1969.1.28）の『人民日報』に全文掲載され，情報鎖国体制の中で6面しか無い紙幅の内0.7面も割いたのは異例の扱いである。習近平党首再任の翌日（2017.10.26）の同紙1面の真ん中の単独写真付きの報道の右上にも，トランプの要請に応じた前日の電話会談と先方からの祝意が大々的に報じられたが，米大統領を権威強化に利用する宣伝は超大国への愛憎が織り合う複合感情（コンプレックス）を感じさせる。

「米帝国主義の頭」ニクソンは妻パット（1912～93）同伴の訪中の2日目に，周恩来・江青の招待で舞台舞踏劇（バレエ）『紅色娘子軍（じょうし）』（赤い女性中隊）を鑑賞した。彼は回想録で「京劇」とも誤記した「芝居掛った狂想劇」の目が眩（くら）む様な妙技に感動し，観客を喜ばせ奮い立たせる宣伝（プロパガンダ）演劇は江の成功だと認めた。建国前の若い女性が民衆を率いて苛酷な地主に反抗するという筋書から，彼は1959年にレニングラードで観た舞台舞踏劇（バレエ）『スパルタクス』を連想したが，この現代中国版の『スパルタクス』は奴隷の勝利に書き変えられていると言う。

スパルタクス（?～前71）は前73年に古代羅馬（ローマ）の剣闘士奴隷養成所の仲間を率いて脱出し，羅馬（ローマ）最大（7万人参加）の奴隷反乱に発展し戦死までの2年中に官軍を屡々巧みに破った。クラッスス（前115頃～前53，政治家）・ポンペイウス（前106～前48，政治家・将軍）に鎮圧されたが，全ての将軍を凌ぐ戦術力が高く評価され自由・解放の為の闘争と指導者の名は歴史に遺った。マルクス＝レーニン等が「史上最も正しい戦争」と讃えた戦は壮烈に失敗したが，英雄的な事績としてソ連で舞台舞踏劇（バレエ）に改編され内外に向けて宣揚された。

ソ連音楽界の3大巨匠に入る作曲家・指揮者ハチャトゥリアン（1903～73）は，54年に同劇を作曲し同年のスターリン国家賞（40～54）を得た。古代羅馬（ローマ）の第3次奴隷戦争の史実と異なる虚構が多い名作であるが，クラッスス＝ポンペイウスと共に第1次3頭政治（前60～前44）を開いたカエサル（前100頃～前44）の歿後2千年の誕生は奇妙な「時縁」である。クラッススのパルティア遠征の敗死後にポンペイウスはカエサルとの内争で暗殺され，寡頭化した政治家・将軍もポンペイウス劇場の故人像の下で反対派ら刺し殺された。

ニクソンの翌日の日記には体操演技と卓球の模範試合の感想が有り，回想録には首都体育館の観客席の100名超の軍人の写真が付く。色彩豊かな見世物（ショー）の体操は昨夜の舞台舞踏劇（バレエ）と同じく，演技全体に途方も無い献身精神と目的の単一性が感じられ，紅旗を先頭にした開演行進の力強さや出場者の活躍から将来を物語る印象すら受けた，と記される。何年か後に我々も世界中の人々も，中国人の恐る可（べ）き能力・意欲・鍛錬と対抗するには最大限の努力

**をせねば為らなくなろう**，という彼が賛同した**キッシンジャーの予言は果して現実に為った**。

8日目の杭州行きの為に北京空港へ向う途中で両国首脳は懇談に興じ，周恩来はニクソンの歓迎宴会での挨拶を取り上げ，**1週間で25 600㌔と22年間の懸隔に橋を架けるのは容易ではない**と述べた件に，**毛主席の様な詩的な素質**が有ると称えた。毛沢東の詩の大部分は色彩豊かで生き生きとした見本だと相手は感じたが，折りに触れて毛の詩・詞を彼に紹介する周恩来は今度，**「逆境は偉大な教師である」**という持論に絡んで，毛が32年ぶりに故郷に帰った際の1首を持ち出し，其処で図らずも**別の恰度2千年に跨る「時縁」**が現れる。

「別夢依稀咒逝川，故園三十二年前。紅旗卷起農奴戟，黒手高懸覇主鞭。為有犠牲多壮志，敢教日月換新天。喜看稲菽千重浪，遍地英雄下夕煙。」（別れしひの夢依稀逝きし川を咒う，故の園よ三十二年前。紅旗農奴の戟を巻きて起てば，黒手覇主の鞭を高く懸したりき。為に犠牲となれる壮志は多く有り，敢て日月を教て新しき天に換えしめぬ。喜びて看る稲と菽の千重の浪，遍地より英雄ら夕煙に下りくる。）**1959年6月の7律「到韶山」（韶山に到る）は27年の農奴造反を振り返る**が，**スパルタクスが叛旗を翻した2千年の後**に当る。

「一九五九年六月二十五日到韶山。離別這個地方已有三十二周年了。」（1956年6月25日に韶山に到る。この地と別れて已32周年である）という詩の前の説明の通り，毛沢東は**27年1月に故郷を後にして以来1度も帰らなかった**。「逝川」は『論語』「子罕」の「子在川上，曰："逝者如斯夫！不舎昼夜。"」（子，川の上に在りて曰く，「逝く者は斯くの如きか。昼夜を舎めず」）に由来し，「咒」は久々の帰郷で**歳月の流れの速さを痛感し過去の闘争と失敗を思い起す**事に言うが，**1週間で22年の隔たりを乗り越えるのも「逝川」の横断**に為る。

毛沢東の古稀に合せて1963年12月に人民出版社・文物出版社より『毛主席詩詞』が刊行され，中国外国文書籍出版局では直ちに英語版に取り掛った。翌年1月27日に毛は訳者の要請で一部の語句に就いて口頭で説明し，その中で**「咒逝川」「三十二年前」は大革命の失敗，反動派が革命を鎮圧した事**を指し，**「覇主」は蒋介石**であると語った。**「紅旗卷起農奴戟，黒手高懸覇主鞭。」は農民運動と国民党反共政変**に対応するが，古代羅馬の奴隷戦争とも通じる**紅軍の奮闘を描く舞台舞踏劇は，蒋への勝利を誇示する為ニクソンに見せた**のか。

毛沢東は廬山会議へ赴く途中6月25～27日に韶山に寄ったが，**中国・世界の歴史に於ける「時縁」の多さ**を現す様に初日は朝鮮戦争勃発9周年で，30年後の前日に中央全会で趙紫陽が解任され江沢民が総書記に当選した。**「咒逝川」の「咒」**は湖北省委副秘書長梅白（1922～92）の提案で**原案の「哭」から改められ**，最後の5字も梅の指摘で**標語調の「人民百万年」を再考した**のである。**人民が歴史を創造すると言う毛沢東の奴隷史観は彼が実践した英雄史観と表裏一体に為り，ソ連との同根性**を呈す『紅色娘子軍』も**奴隷を英雄視**している。

金正日は南朝鮮出身の映画女優成蕙琳との結婚を父に反対された後，**大阪生れの在日朝鮮人2世**（11歳時渡朝）の元万寿台芸術団舞踏家高容姫を次の同棲相手にした。最後の妻

**金玉**も**芸術人材養成の名門と為る平壌金星中学校**（1966.11.1 開校）を卒業後，**平壌音楽舞踊大学**（72.2.5 設立）で洋琴を専攻し，**旺載山軽音楽団**（同 83.7.22）で**洋琴奏者**を務めた。金正恩の妻**李雪主**も**金星第２高校で音楽の英才教育**を受け，**普天堡電子楽団**（1985.6.4 設立）**の歌手**と為ったので，**「金家王朝」2・3 世の女優・舞姫・歌姫好み**は顕著に現れる。

高容姫は**金日成と側近高官に仕える「喜び組」**の接待役として見初められ，金星中・高校は踊り子・歌手等の輩出で「喜び組」養成学校だとされる。**選り選りの美女**から成る「喜び組」は役目上「喜ばせ組」とす可きだという主張も有るが，「喜ばしい」意の名称は**嬉々として奉仕する「赤い女性別働隊」**の実情に相応しい。要人の舞踏等を御伴した**中南海文工団も同じ性質**を持ち，彼女たちは**相手を喜ばせる事に喜びを感じていた。両国の同根性**を反映して**中共軍の文工団も高官夫人の産地に為り得，彭麗媛の「第１夫人」は頂点に位置する。**

金正日が党組織指導部部長に就任した 1969 年に空軍司令部作戦部副部長と成った林立果は，**「選妃」（妃選び）と称す婚活で親の七光りを利用して関係者に数万人を物色させ**，上海だけでも 110 人を自ら面接し 12 人を予備軍として入隊させたが，最終候補の数人中の**本命は南京軍区前線歌舞団の踊り子張寧**（1949～　）である。**容姿が良ければ政治面の要求を下げても可いという葉群の基準は，「郎才女貌」（男は才能，女は美貌）という伝統的な価値観に基づく**が，**遺伝子の最良化に必要な「紅色基因」は既に入隊審査で担保されている。**

張富華大佐（1912～57）を父に持つ彼女は 10 歳から文芸兵と為り党員でないので，政治的な常識を試す林立果から「1 大」の開催地を訊かれた時に，自信が無く「瓦窰堡……しゃないですか」と顔を赧らめて答えた。**愛党教育を長らく受けたのに党の生地を知らないのは可笑しい**が，**陝西安定県（現子長県）で開かれた政治局拡大会議（1935.12.17～25）の場所を言った事は，長征勝利後の毛沢東時代に対する宣伝の浸透度を物語る。党史に無知でも副統帥の御曹司の嫁に合格した**結果は，**革命化の建前と大きく乖離する裏原理**を思わせる。

**李雪主**は**夫の生母高容姫を上回る学歴・留学歴**（北京，声楽専攻）を持ち，彭麗媛と同じ歌手出身も一因で**元首外遊の夫人同伴第１号**と為った。**金聖愛以来の初の尊称「女史」が冠する栄誉も先代を超えた先祖返りで，同じ開祖（毛沢東）へ回帰する習近平の妻と好一対の才色兼備**は誇らしい。金正日父子の妻は**「能歌善舞」（歌を能くし舞を善くする）の国民性を体現し**，旺載山軽音楽団・「喜び組」の字面は「載歌載舞」（［心行くまで喜んで］歌ったり踊ったりする）を連想させるが，**両国の新元首夫妻の巡り合せは「史縁」の一環**である。

高容姫が在籍した**万寿台芸術団**は平壌歌舞団（1946 年設立）→国立歌舞団を経た改称の様に，北朝鮮の**首都・国家の文化的な飾り窓から領袖崇拝の宣揚装置に特化した**観が有る。平壌市中心部の**万寿台は金日成の生地であるが故に毛沢東時代の韶山と同じく聖地化し**，大同江（全長 439キロ）西岸の丘陵地には**「先軍党国」の「顔」**として，**万寿台大記念碑（金父子の巨大銅像＋抗日闘争～社会主義建設を表現する大記念塔）・千里馬銅像，万寿台議**

**事堂**（立法機関・最高主権機関と為る最高人民会議の開催場所），**万寿台芸術劇場**が有る。

万寿台芸術団の本拠と国家の芸術活動の中心地を為す**万寿台芸術劇場**（1976.10 竣工，翌年 1.1 開館）は，**万寿台議事堂**（84.10 竣工）**と共に古稀の際に除幕した金日成の銅像に先行される**。林彪事変の 7 ヵ月後の当時（1972.4.15）に**中国では個人崇拝は已に下火と為り，要人の誕生日を祝う公的な行事は不可とする建国後の禁則も守られていたが，存命中に自分の銅像を建てた北朝鮮の「国父」と比べれば毛沢東は謙抑的**と言える。**銅像に由る「点睛」の上に重要施設建設の「画龍」を行ったのは，「初めに領袖有りき」の展開**に他ならない。

中国流で**「愛国主義教育基地」**と言う**万寿台「特区」**は**朝鮮革命博物館**（1948.8.1 設立）に始まり，金正日歿後の 2012 年 4 月 13 日に亡父の隣に立つ形の巨大銅像が除幕された。**中国の首都の「心臓」**と呼ばれる**天安門広場**（**世界最大級**の南北 880㍍×東西 500㍍）にも，**人民英雄記念碑**（1958.5.1 除幕）・**中国歴史 / 革命博物館**（59.8.31 新館落成，60.8.1 正式命名，2003.2.28 **国家博物館**に編成）・**人民大会堂**（59.9.24 落成）に，**毛主席記念堂**（77.5.24 完工）が建て増しされたが，**遺志に反した遺体の永久保存の為の施設は内の座像しか無い**。

「文革」中の**毛沢東の巨大彫像の第 1 号は清華大学の紅衛兵が作り（1967.9.15 落成）**，直後に**韶山駅の向い側に出来た第 2 号はその高さ 8㍍を超す 12.26㍍で毛の誕生日に対応し，「党慶」と「文革」発動決議採択日に因む身長 7.1㍍＋台座高 5.16㍍は全国の標準**と為った。「中 / 小学」から名門大学に復帰した**清華の方は「13 大」の直前（1987.8.29）に解体し，各地の毛彫像もソ連崩壊後のレーニン像や台湾民主化後の蒋介石像と似て次々と撤去されたが**，万寿台の**金正日銅像の樹立は冷戦後の中国を含む世界の主流に逆行している**。

金日成の古稀に立てられ大河の畔に聳え立つ**万景台大記念塔は世界最高**の石塔で，**塔身（150㍍）の上の烽火の部分の 20㍍は父子の銅像の高さ**に相当する。**毛沢東彫像の最高記録**も 20.6㍍（台座を入れて 37.4㍍）の不銹鋼製（46 噸）で，**重慶医科大学**（1956 年設立）**で 2008 年 10 月に突如現れた事は時代錯誤**である。1970 年代に設置された旧学園内の毛彫像の拡大復刻は，**「紅色文化」を継承し「紅色資源」を活用する挙動として宣揚されたが**，校園に於ける毛彫像の建立を数十年来の各大学の伝統とする辯と共に**現実離れも甚だしい**。

**全国の設置熱狂を引き起した清華大学の毛沢東彫像は文化破壊の廃墟の上に立ち**，紅衛兵は**「紅色恐怖」高潮期の 1966 年 8 月 24 日に 55 年前の建学時に出来た校門を取り壊し，「封建的・資産階級的・修正主義的な代物」とされる歴史建造物の場所に毛彫像を建てた。落成の 11 年前に開会した「8 大」の個人崇拝禁止の原則は疾っくに拘束力が無くなったが，改革・開放後の当該彫像の撤廃と旧校門の復元**（1990.10～91.4）**は新時代の潮流**を示し，**依然として毛を至高視する「文革」思考**（「冷戦思考」に擬えた造語）**の滑稽さ**を思わせる。

「文革」の**「破旧立新」（旧きを破り新しきを立てる）**の合言葉を捩って言えば，11 期 3 中全会 30 周年の直前に建造された亡き領袖の空前規模の彫像は，**「襲旧翻新」（旧きを踏襲**

**し新しきに翻案する）の所産**である。**「翻案」**は日本語では前人が行った事柄（特に小説・戯曲等）の大筋（おおすじ）を模倣（もほう）し，細部を変えて作り直す事に言うが，中国では**判決・処分・評価・定説等を覆す**意味である。**毛沢東は鄧小平の「文革」否定を「右傾翻案風」（右からの巻き返しの風）と斬ったが，鄧が指名した最後の後継者の退陣前後に「左傾翻案風」が吹いた。**

校門解体を仕切る**「清華大学紅衛兵」は劉少奇・賀龍等要人の子女**が主体で4日前に成立し，**学内の主導権を確保し親の境遇を改善する為に過激な「革命的行動」に出た**と見られる。短時間の作業で**北京の文化景観の1点を消し再建まで四半世紀の空費を強いて了（しま）ったが，文化遺産の復旧**は校門工事の為の校友寄付200万元が物語る様に**莫大な出費が要る。**重慶医科大学の**「文革」遺物の破棄ならぬ再生は500万元（7千万円）の公費支出**と為るが，**汶川大地震の翌々月の起工と世界的な金融恐慌の最中の落成には違和感を禁じ得ない。**

**竣工の10月24日**には**1929年の同日に紐育（ニューヨーク）証券取引所を襲った「暗黒の木曜日（ブラック・サーズデー）」の再来**の様に，米国のダウ工業株30種平均株価は8 378ドルと5年半ぶりの安値を付け，日経平均株価の7 649円は泡沫（バブル）崩壊後の最安値に迫り，**上海証券交易所総合株式指数も1年前に記録した史上最高値**（6 124点（ポイント），10.16）**の3割**に当る1 839点まで落ちた。円高が1日で7%（対1米弗（ドル）の101円台→94円台）急騰し，上記の工費の円換算額も直前の相場（レート）より控え目に為ったが，**近隣地域の震災復興を朝野が全力で支援している際の贅沢は目に余る。**

清華学園の毛沢東彫像撤去の3日前に高さ2メートルの青銅製胸像が主楼大庁（本館広間（ホール））に設置されたが，**大学当局が文書で厳（おごそ）かに明記した「永久的」の規定は15年未満で半永久的に反故された**。小ブッシュ米大統領（1946～　，第43代［2001.1.20より2期］）の此処での演説（02.2.22）の為に，北側の壁から外されて校章・校訓を刻んだ銘版に変り，以後釈明も無い儘に**差し替えが固定化**した。接待に当る**校友の胡錦涛国家副主席が了承したはずの装飾の変化**は，**毛の呪縛を解く「断・捨・離」の意思表示・断行**として受け止められる。

**中国政治では是非・善悪は別として前代への止揚や否定は能（よ）く起**き，その帰着は又次代の止揚や否定の対象と化す。清華大学の毛沢東彫像の落成日に**25歳と為った温家宝は同年齢の胡錦涛と同じく，未成年の紅衛兵世代には出来ていない良識で物事を理性的に判断し，**その**健全な姿勢**は総理退任前に**薄熙来罷免の先鞭を付け「文革」再来を警告する**に至った。重慶医科大学の毛彫像建造時の市委書記（政治局委員当選の39日後［2007.11.30］商務相から転任.）の**薄は，「文革」志向が災いして万寿台の金正日銅像樹立の3日前に失脚した。**

『重慶時報』等の地元紙が落成を報じた**10月25日の9年後に習近平は党首を再任したが**，直前の**異端排除の止（とど）めの一刺しは清華大学の毛沢東彫像解体の30年後**の2017年8月28日に，房峰輝（1951～　，軍委聯合参謀部初代参謀長）・張陽（同年生，軍委政治工作部初代主任）への取調を始めた事である。2人の中央委員・軍委委員・上将の粛清は張の自殺（11.23），房の贈収賄等に由る党籍・階級剥奪（2018.10.16公表）と無期懲役（19.2.20

判決）で完了したが，**習の汚職・腐敗取締は彼の生年に始まった毛の政敵一掃を彷彿させる。**

習近平執政の起点と為る栗戦書中央辦公庁主任の任命は恒例の**新学年初日「9.1」**に当り，5年後の房峰輝・張陽への特捜開始も清華大学の校門・毛沢東彫像の解体と同じ夏休みの末で，「清華大学紅衛兵」成立7周年の「8.20」の林彪集団要人処分決定と共に**清算の季節**を印象付ける。**2期目の「反貪腐」は権勢安泰の為「虎退治」（大物摘発）から「蝿」（小物）へ標的に移り，重慶医科大学の毛彫像建造中の校長**（2004～17）**雷寒**（1957～　）は，**汶川震災と彫像落成の10年後**（18.5.12，10.29）**に特捜を受け市政協委員資格を剥奪された。**

雷寒は巨額の収賄で2019年1月に起訴され刑罰を待つ身と為ったが，中紀委が**汶川震災10周年の日に特捜を公表した事は天罰**と言える。工事等に絡む黒い金に毛沢東彫像の分も入ったなら**笑劇的**であるが，**顔が鄧小平に似ている粗末な作り**も含めて**怪物の観が強い。薄熙来は膝元の超大毛彫像に全国制覇の野望を託した**節が有るが，**「流毒」（悪影響）除去の一環としての撤廃は無かろう。薄が「紅（革命）歌」熱唱の大衆運動で表した毛時代への郷愁と似通って，「習近平新時代」にも毛印や「文革」式の思惟・情緒・言説が浮上している。**

**世界1を追求し勝ちの北朝鮮の金日成広場**（1954.8完成）の7.5万平方㍍は，**莫斯科**（モスクワ）**の赤の広場**の9万㎡を下回り**天安門広場の1/6に過ぎず世界10傑に入らない。10万㎡超の14広場中5つを占める中国の内2つも大連に在り**，第13位（12.5万㎡）の**大連人民広場**は1914年に長者広場の名で出来，45年のソ軍占領で**スターリン広場**に変り93年に改称された。**都市・行政中心地のこの広場と違って埋立地**（うめたてち）**に在る星海広場**（176万㎡）**は世界最大で，薄熙来の市委副書記兼市長在任中**（1993.3～99.9）**に建設された**（93.7.16～97.6.30）。

朝日新聞中国総局著『紅（くれない）の党　習近平体制誕生の内幕』（朝日新聞出版，2012）第1部「薄熙来」の冒頭に，**江沢民**が最高指導者として異例の10日間に及ぶ1地方都市での視察の最終日（1999.8.20），**格別の歓待に喜びを隠さぬ移動中に星海広場の中央で一瞬だけ顔を顰（しか）めた**場面が有る。**気に障ったのは白い大理石の高さ20㍍に近い華表**で，台座から天辺（てっぺん）まで龍が蜷局（とぐろ）を捲いて昇って行く姿が刻んである。500年余りの歴史が有る**天安門広場の同じ標柱の略（ほぼ）2倍の高さを誇る**為，何故こんな高さ・大きさが要るのかと江は**不快を覚えた。**

歴代王朝が宮殿や陵墓へと続く参道の両側に建てた華表は帝（みかど）が居る処にのみ許され，薄熙来は設計の際「私は何時か天子に成るから一番高くなければ駄目だ」と言った。**野望の為の首領接待の必殺技**として市庁舎前の大きな板（プレート）にその肖像画を掲げ，江沢民は驚きつつ何度も振り返って満面の笑みで眺め先刻の不機嫌が消えた。**党は個人崇拝が「文革」を生んだ教訓への反省から1980年に現役指導者の肖像画作りを禁じた**から，**禁じ手で江の歓心を買って**翌月に市委書記に昇格し，2004年2月・4月に省委副書記兼省長→商務相へと進んだ。

**不遜にも天安門広場の表徴**の一部と為る金水橋前の華表**を遥かに凌いだ**星海広場の方は，**「独立王国」の構築に余念が無い薄熙来の「政績工程（プロジェクト）」の目玉として到底永続が許されず，**

第18回中国国際麦酒（ビール）祭（2016.7.22～8.2）後の**会場清掃・整頓の一環として撤去された。世界1の麦酒消費国が1999年から主催する盛典**は当初北京の奥林匹克体育中心（オリンピック・スポーツ・センター）で行われ，**薄主導の誘致の結果**2002年以降は**塵（ごみ）最終処分場を改造した星海広場に移行・固定**したが，**政界登頂の熱い夢が麦酒（ビール）の泡沫の如く弾（はじ）けた彼（か）の記念碑は粗大廃棄物（ゴミ）として処分された。**

退場の8月5日0時過ぎは**毛沢東が劉少奇に宣戦布告した50周年**に巡り合せ，1966年の同じ日に毛沢東は6月2日の『北京日報』（北京市委機関紙）の余白に，**「司令部を砲撃せよ――私の大字報（かべしんぶん）」**を無造作に書いた。文字通りの**壁新聞の形で中南海構内に貼り出された上で7日の中央全会で配布され，党内「資産階級（フルジョア）司令部」を撃つ206字**（本文，除句（のぞく）読点）**の糾弾で劉は即座に失脚した。**39年前の「8.7会議」で唱えた「鉄砲から政権が生れる」は又立証されたが，**劉の外賓会見が最後と為った「8.5」の半世紀後の変異**は示唆に富む。

毛沢東の高崗・饒漱石粛清から江沢民時代以来の直轄市首長の相継ぐ解任・刑罰の様に，**党・首領の絶対集権は地方諸侯の権勢肥大を警戒し些かの僭越も許すまい。**薄熙来は2013年9月21日に済南中級人民法院で収賄・汚職・職権濫用罪が認定され，無期懲役・政治権利終身剥奪の確定（10.25）の4年後に習近平は党首に再選された。**薄の父一波は「文革」中「叛徒」として9年監禁され母胡明**（1919～67）**も自殺し，習も父仲勳の迫害と異母姉和平**（長女・第1子，生歿年未詳）**の自殺に遭ったが，共に毛に対する崇拝は揺るぎない。**

**薄一波は奇しくも妻死去40周年の日**（1.15）**に逝ったが，名誉回復の恩義を顧みず仕切った胡耀邦降ろしは第2次天安門事件を誘発した。武力で安定を維持する開発独裁の硬直化は改革・開放40年後の停滞を招き，習近平が前任の4党首乃至鄧小平を乗り越えて，華国鋒並みの毛沢東礼賛で華を凌ぎ毛と並ぼうとしている。建国70周年の前日に異例の時機で全政治局常委を率いて毛主席記念堂を参拝し，「10.1」閲兵で「1949」の登録番号表示銘板（ナンバー・プレート）が付く空車を自車に従わせた処に，国父への継承・超越と古い時代への回帰**が見て取れる。

金玉が通った平壌（ピョンヨン）音楽舞踊大学は新校舎落成後の2006年3月に金正日の指示で改称し，新校名の**金元均（ウォンギュン）名称平壌（ピョンヨン）音楽大学の由来と為る音楽界の大御所**（1917～2002）は，**国歌**（47年採用）**「愛国歌」**（朴世（セ）永［1902～89］作詞）**・準国歌「金日成将軍の歌」**（李燦（チャン）［1910～74］作詞，46）**の作曲者**である。**国家を愛し領袖を敬う教育は歴代の中共政権と同じ**であるが，団長を務めた**血の海歌劇団**（北朝鮮歌劇団→国立芸術劇場［1947～/48.12～］を経て71.7.17改称）の同名歌劇（オペラ）（71）に因んだ**名称は，同時代の中国にも無い血腥さが漂う。**

**「文革」中の「革命模範劇」8大作と対を為す金日成時代の「5大革命歌劇」**は，彼が**抗日武装闘争を指導した時に創作した作品の発展版**である。金玉が所属した旺載山軽音楽団も夫君の**往年の戦地**に因み，李雪主が在籍した電子楽団の名も**普天堡戦闘（1937.6.4）**に由来する。敵の警官駐在所に対する**東北抗日聯軍の襲撃で指揮官の金日成は世に知られたが，52年後の大規模武力鎮圧後に戒厳部隊を慰問する公演に出た彭麗媛**は，初訪中（1983.6.2

～12）の**金正日に『花を売る乙女』の歌を披露し，両党・国の政治・文化の絆を示した。**

5大革命歌劇中の**『花を売る乙女』**は**金日成の国家主席**（初代，1972.12.28～歿）**就任前**，年頭の1月3日に初演され同年に**金日成原作・金正日等監督の映画版**も出来た。**建国記念日**（9.9）**に中国で公開された**後，**億単位の観客は悲情の物語と優美な歌に胸を打たれ，その集団的な記憶は北朝鮮への親近感として江沢民～習近平の世代に残っている。**血の海歌劇団は**胡錦涛時代**の2008年4～5月，12年6～7月にこれを以て中国で巡回公演したが，薄熙来失脚後の2回目でも北京・重慶等で歓迎された事は**文化の感化力・影響力**を物語る。

2008年4月15日（**金日成生誕96周年**）に北京の**国家大劇院**で行う今次訪中の初演の際，政治局委員・中央書記処書記・宣伝部長**劉雲山**（1947～　）等が観賞・称賛した。劉は習近平体制1期目に政治局常委（7人中5位）・書記処常務書記として，**朝鮮労働党創建70周年記念式典**（平壌（ピョンヨン），2015.10.10）に出席し，**金正恩第1書記**（12.4.11推戴）**と肩を並べて歓談しながら祝賀行進（パレード）を観覧し**，終盤で手を取り合って観衆に**両国の団結を印象付けたが，普天堡戦闘10周年の「6.4」に生れ思想管制が厳しい彼のこの役目は適材適所**である。

天安門広場・人民大会堂の西側に在る**亜細亜（アジア）最大規模の国家大劇院**は，14期6中全会（1996.10.7～10）で採択された「**社会主義精神文明建設の強化**の若干の重要問題に関する決議」で必要性が提起され，国際設計競技（コンペ）の選考と政治局常委会の承認（99.7.22）に由る設計案の決定後，2001年12月13日の起工後07年9月17日に概ね完工し12月22日に正式な使用が始まった。**江沢民の推進と胡錦涛の継承で11期3中全会終了29周年の日に誕生した国家工程（プロジェクト）**は，**第2次天安門事件後の第2次改革・開放の特色を帯びた物**である。

**「大躍進」最中**の1958年8月17～30日の政治局拡大会議（北戴河）で，**建国10周年祝賀の為の天安門広場の拡張と首都10大新建築物の建設**が決った。国家大劇場も立案され周恩来の主導で建設地・設計案まで確定したが，**景況悪化に伴う軌道修正で科技館・芸術展覧館と共に見送られ**，代りに歴史博物館と革命博物館が合併し，北京駅・華僑大厦（ビル）・民族飯店（ホテル）・工人体育場（スタジアム）が追加され，人民大会堂・中国歴史/革命博物館・中国人民軍事博物館・民族文化宮・釣魚台（ちょう）国賓館・全国農業展覧館と共に，**中国人好みの「10大」**を為している。

後の**20年続く毛沢東・華国鋒時代の失政・迷走と鄧小平時代以来の18年の復興**を経て，**改革・開放の果実で文化振興への資金配分が出来た**頃に国家大劇院は再上程された。時の政治局常委（1989.6.24～2002.11.15）・全国政協主席（93.3.27～03.3.14）**李瑞環**（1934～　）は，曾て北京第3建築公司**木工青年突撃隊長として人民大会堂の建設を担当し**，新工法を開発し工期を短縮した功績で**全国労働模範**と為り，北京市建築委員会副主任在任中に**毛主席記念堂建設工程総指揮**を務めたが，**江沢民の志向・嗜好は労働者出身の彼と可也（かなり）異なる。**

1958年に市委秘書長賈星五（経歴未詳）は天安門広場の政治的な特質を維持する為に，人民大会堂の隣に国家大劇院を置く構想に反対し当初の案を白紙に戻した。**広場の東側の**

**中国歴史 / 革命博物館と西側の人民大会堂の対は，古来の王朝首都の「左祖右社」（左［東］は宗廟（そうびょう），右［西］は社稷（しょく）**［①建国の際に天子や諸侯が壇を設けて祭った土地・五穀の神。②国家。朝廷］）**の枠組みに合致する**が，その異議申し立てで空けて置いた大会堂の西側の国家級公共施設の建設用地は，結局**38 年前の結論を覆す形**で国家大劇院に由って埋まった。

主要設計者の**アンドリュー**（1938～2018，仏蘭西（フランス）の建築家・巴里（パリ）空港公団副総裁）は，ド・ゴール国際空港（74 年完成）や中国を含む海外の空港施設，広州体育館（同 01 年）等を手掛けた。天外か飛来した水中の卵の様な**「前衛」造形は唐突さ・危険性と巨額の費用**に由り，中国科学院院士（国家学士院（アカデミー）会員）140 人・建築家 114 人連名上申（2000.6.10）で反対されたが，建党 78 周年の前日の最高指導部の許可は変えなかった。**「崇洋」（西洋崇拝）**の誹りを免れぬ首都建設の新展開の末，中国は**異邦人の奇抜な建築設計の実験場と化した**。

和蘭（オールハース）の**コールハース**（1944～　）が設計した**中央電視台（CCTV）新社屋**は，江沢民完全引退の 3 日後（2004.9.22）に起工し，国家大劇院の正式使用開始の 4 日後（毛沢東生誕 114 周年の 07.12.26）に 6 つの辺が環状に連ねる構造が完成し，外装・内装を経て翌年 12 月に竣工したが，稍（やや）傾斜した 2 棟が上層部で繋がる**奇形**は国内で**「巨大パンツ」**と揶揄され，設計者は女が四つん這いで性器を突き出す格好と，CCTV 電視（テレビ）文化中心（センタービル）社屋（隣接の配楼）の男性器に象（かたど）る形とが対に為ると明かし，**女陰・男根の主題（テーマ）と公言は国辱的な恥部を作って了（しま）った**。

CCTV 電視（テレビ）文化中心（センタービル）社屋は建設中の 2009 年 2 月 9 日（旧暦 1.15，元宵（げんしょう）節）に，屋上に違法に置かれた花火が打ち上げ花火の落下に由る引火で出火し**全焼した**。**不祥事**の翌年の 11 月 30 日に**人民日報本社新大楼（ビル）**が起工し，西南大学（1902 年創立，南京）教授周琦（きー）（1957～　）の設計は**男根の再現**かと敲かれた。竣工（汶川大地震 6 周年の 2014.5.12）の後に**習近平**は自ら招集した文芸工作座談会（10.15）で，今後は**外形が奇奇怪怪の建築は止める**よう**訓示調の苦言**を呈し，**江沢民時代から膨らんだ奇形の悪趣味に一応の区切りを付けた**。

**江沢民が享受した鄧小平の遺産の 1 つは歿（1997.2.19）後の香港（ホンコン）返還（7.1「党慶」）**で，「一国両制度」50 年不変の約束の下で**香港の中国化と中国の香港化が進んで今に至る**。習近平時代の禁句と為る**「権貴資本主義」は社会主義体制下の特権階級の変質**に他ならず，雨後の筍（たけのこ）の如く**無秩序に擡頭した風変りな摩天楼は国家の特色・品格が無く香港（ホンコン）に劣る**。**習・金正恩の治下で表面化した中国の北朝鮮化と北朝鮮の中国化**も**江・金正日時代に始まり**，人民大会堂の隣に国家大劇院を持って来る発想は**万景台「聖地」の型式（モデル）の影響**も有ろう。

国家大劇院では正式使用に先立って 7 回の**試験公演**（2007.9.25～10.13）が行われ，旧暦 8 月 15 日の名月を楽しむ中秋節に当る**初日は人民大会堂落成 48 周年**に巡り合せる。**文化的・政治的な吉日を飾る御披露目**は選りに選って中央芭蕾舞（バレエ）団の『**紅色娘子軍（あかい）**』と為り，他の民族舞踏劇・歌劇（オペラ）・京劇・新劇を押して一番に出るのは**中央宣伝部辺りの選好**と見て可（よ）い。中央芭蕾舞（バレエ）団（1959.12.31 設立）の同舞台舞踏劇（バレエ）の**初演**（64.9.26）**から 43 年経った**が，

**「文革」後に 92 年から公演が復活した**のは**「革命模範劇」8 大作の内に入った**故である。

**娘子軍**は**唐の平陽公主**（?～623）が創った女性のみの軍隊で，**父の高祖**（李淵，566～635，初代［618～26］）を助けて天下を平定した。**1931～33 年に海南島で活躍した**紅軍第 2 独立師**女子軍特務連**の事績は,「紅色娘子軍」の名で**映画（1961）・舞台舞踏劇・同映画版（70）・京劇（72）**と為った。**毛沢東は 1964 年 10 月 8 日に舞台舞踏劇を観賞・称賛し，江青は翌年から改良を指導し**主演の劉慶棠（1932～2010）を文化部次官に抜擢した。彼は「4 人組」失脚で懲役 17 年に処され，公演も**「文革」色が濃い所為で鄧小平時代には封印された。**

中国の 2 番目に大きい島が舞台と為る『紅色娘子軍』をニクソンに見せた事は，1 番目の**台湾を念頭に対敵闘争の意志を表す意図**も有ったろう。中央芭蕾舞団は返還 10 周年の日に香港文化中心劇場で演じたのも意味深長であるが，**江沢民時代の解禁と胡錦涛時代の活用は毛沢東時代への回帰**と言える。同団は映画脚本の作者梁信（1926～2017）への著作権使用条件未履行で敗訴したが，最高裁は西城区・北京知識産権（知的所有権）法院の判決への非難を糾す一方,「紅色経典」作品の公演差し止めを不可とする通達（18.5.11）を出した。

「紅色経典」作品の使用報酬を巡る紛糾に対する判決は，**党・国家・社会公共の利益を保護する為**に公演を禁じては為らない，という指令は**「党紀国法」**の熟語と通じて**党利を国益の上に置く。法の番人も「党」の姓が付く**から**「紅色経典」の不可侵は保障される**が，新華社の公表（5.14）が**死去 27 周年に当る江青はあの世で喜ぶ**であろう。**党首夫人が「紅色経典」名作に関る事は半世紀後の習近平時代に再演され，2015 年に彭麗媛は歌劇『白毛女』の芸術指導を務め，70 年前の初演地の延安を始め全国巡回公演**（11.6～12.17）が行われた。

## 浮沈――虐殺・追放・自壊に由る暗転・受難・破滅

地主の迫害から山穴に隠れ棲み白髪になった貧農の娘が8路軍の救助で本来の髪に戻す，という河北の民間伝説を基に**延安の魯迅芸術学院**（1938.4.10 成立）で創られた『白毛女』は，歌劇から**劇映画（50）**・京劇（58）・**舞台舞踏劇（65）**に改編された。**建国後初の対日映画輸出（1952）が松山バレエ団**（48.1 創設）**の創作（55）の契機**と為り，その**中国公演（58）は「革命模範劇」8 大作の 1 つの懐胎を齎した**。日本所縁と共に舞台舞踏劇も舶来の芸能様式であるが，**抗日戦争末年の「革命聖地」で生れた祖形は「紅色血統」の源を為す。**

「文革旗手」**江青は魯芸学院の草創期から芸術系**（学部）**指導員**で演芸を教え,『白毛女』の**主要執筆者丁毅**（1921～　，劇作家）・**賀敬之**（1924～　，詩人）は，42・40 年から魯迅芸術文学院（40 年改名）**文学部**で**「革命文芸工作者」に養成され**，51 年に**スターリン国家賞 2 等賞**を獲った歌劇は**「紅色揺籃」の所産**と言える。**北朝鮮共産 / 労働党の初期の 2 大勢力**には**中共指導の組織・部隊を母体とする「延安派」**が有るが，中国が「満州派」に由

る粛清の際も庇護した同派の名称は，**自国の延安時代経験者や延安整風の勝者にも適用する**。

賀敬之の**代表作「回延安」（延安に帰る）**は1956年3月に10年ぶり訪れた延安で書き，**母親の懐に戻った様な感激で泣きながら出来た**長詩は陝西の文芸誌『延河』7月号に載った。魯芸創設25周年の翌日に団中央機関紙『中国青年報』に発表した長詩**「雷鋒之歌」**は，殉職（任務執行中に事故死）の軍人雷鋒（1940～62）の**無私・奉仕の精神を讃える**物である。**毛沢東題辞**の「雷鋒同志に学べ」（1963.3.5）で3月5日は**「雷鋒に学ぶ日」**と為ったが，**同日が誕生日に当る周恩来・江青と同じ毛への忠誠を賀も「延安派」らしく持っている**。

賀敬之は「4人組」逮捕後10年の消沈を破って「中国的（の）十月」を詠み，掲載誌の『詩刊』第11期が洛陽の紙価を固めた程に**政治抒情詩人**の名声を高めた。同誌は毛沢東の祝辞と詩・詞18首で創刊号（1957.1）を飾ったが，**用紙不足に由る隔月刊化**（61.1～63.6）の正常化後**65年末に文化界整頓で停刊**と為った。山東章丘県明水公社候家学校の教職員謝革光（経歴未詳）の投書（1975.7.20）に対し，毛は9月19日に**復刊に同意し翌年1月の実現に繋がった**が，年内に彼の死を悼み「宮廷派」失脚を喜ぶ特集が出る事は予想外に違い無い。

主管機関の**中国作家協会**は1949年7月23日に中華全国文学工作者協会として成立し，第2回代表大会（53.9.23～10.6）で中国作協に改名したが，**建党28周年に巡り合せた創設日が象徴する様に中共の統括を受けて来た**。賀敬之は文化部次官・中央宣伝部副部長（1977～80/～87）を経て，2期目の中央委員在任中に文化相代理（89.9.4～92.11）を務めたが，同じ第12・13期中央委員（82.9～85.9は委員候補，途中昇格）の文化相（86.6.25就任）**王蒙**（作家）が，**戒厳部隊の「暴乱平定」への慰問を拒む「反乱」で解任された**為である。

巡り巡って王蒙の傘（さん）寿（80歳）の日に習近平は文芸工作座談会を開いて講話を行ったが，**延安文芸工作座談会**（中央宣伝部主催，1942.5.2～23）**に於ける毛沢東の講話**（複数回）**への真似**は，15日後の**全軍政治工作会議**（2014.10.30～11.2，福建上杭市古田鎮）**と同工異曲**である。習は**福建在勤中7回も来た土地で参会者を率いて会場附近の毛沢東記念園を参拝したが，紅4軍第9回代表大会**（1929.12.28～29，同地）**で軍内の地位を確立した毛に肖る**彼は，**片手で銃を構え片手で筆を操る毛の文武両道の全能支配を望んでいる**様に映る。

習近平の最側近で2期目のNo.3**栗戦書の出生**は，映画『**白毛女**』**の撮影撮影（ロケーション）と同じ**1950年8月・河北平山県である。彼の**血統上の「紅色基因（あかいDNA）」は祖父栗従周**（1895～1963）**の弟再温**（1908～67）**に遡り**，北京大同中学在籍中の27年5月に**同県の党員第1号**と成った彼（か）の革命家は，内戦中に河北省委秘書長・山西省特別委員会書記等，建国後に山東省副省長等を歴任し，迫害死で「文革」後に**「烈士」**と追認された。**叔父政清**（1916～36）**・政通**（1923～49）も其々**日本軍の監獄と戦場で命を落し，一族には革命の為に犠牲と為った人が多い**。

**平山**は物産豊富・交通便利と群衆支持に由り，**全国勝利前の中央・軍総部の所在地**（1948.5～49.3.23）と為った。西柏坡村で開かれた**7期2中全会の初日（3.5）**は，69年後（3.17）

**栗戦書が委員長に当選した全人代の恒例の開幕日**である。2018 年の全人代会議開会式は**毛沢東の「向雷鋒同志学習」の揮毫 55 周年**に当るが，08 年から当日の雷鋒学習の宣伝の慣行が薄れた中で，**習近平は「学雷鋒記念日」を強調し**（14.3.4），遼寧撫順市で雷鋒の墓への献花と記念館参観をし（18.9.28），全人代が代表する**全国人民の毛への忠誠を期待している。**

**栗戦書は河北石家庄地区委員会辦公室在勤中に胡耀邦に投書し，党の指導と社会主義に反対する思潮へ対抗して「社会主義は好い」を歌うよう提言した。革命歌「社会主義好」**（［希揚［経歴未詳］作詞，李煥之［1919～2000］作曲）は，57 年の「反右派闘争勝利」後に作られ**「大躍進」失敗後は放送が控えられた**。歌詞の「右派分子想反也反不了（右派分子は覆そうとしても覆せない）は直せば可いと言う彼の主張に沿って，**「右派」を「反動」に修正した詞・譜が投書と共に『人民日報』に載り**（1982.5.26），**直後からの出世に直結した。**

習近平の文芸工作座談会の **57 年前（1957.10.15）の中央通達**「右派分子を決める基準」で，当日に 23 歳と為った**王蒙**や 40 年後に総理に任ぜされた**朱鎔基**（1928～　）**等 552 877 人が認定された**。胡耀邦は中央組織 / 宣伝両部長歴任中（1977.12～78.12/～80.3）に再審査（78.4～80.5.8）を進め，**運動の正当性を保つ為の 96 人の原状維持を除いて全て名誉が回復した。100 万人超と見られる被害者数の公式発表は不都合な真実の隠蔽の疑い**が持たれるが，**仮に「大右派」96 名への断罪が正しいとしても 5 758 倍の「拡大化」は許せない。**

**破天荒な倍数は「反右派闘争」と「大躍進」が勃発した西暦年の下 2 桁と暗合し，次の 59～61 年は**「破天荒」の字面通り**経済冒進の破滅と天災加担の荒廃に見舞われ，歓喜調の「社会主義好」は餓死続発の年代から放送されなくなった。「反右勝利」讃歌の誕生 25 年後に栗戦書は社会制度の優越性を謳うよう復活を要請したが，**「右派」に代る**「反動」は反共・反体制の意で刑罰の罪名に用いられた後，ソ連・国民党政権を踏襲した「反革命罪」の撤廃**（1997.3.14 刑法修訂，99.3.15 憲法改正）**に次いで，「反動派 / 分子」も死語と化した。**

**「反右闘争」50 年後からの胡錦涛体制 2 期目に「社会主義好」は復活し，2009 年に中宣部選定の「愛国歌曲 100 首」に入り**，亡き作詞者の了解も無く栗戦書提言の「反動分子」の修正が為された。**前年 7 月 24 日**（建党 87 周年の翌日）の重慶市委・政府の「紅色経典歌曲伝唱」に関する通達で，**「小毛沢東」の称が有る薄熙来は革命歌名曲伝承演唱の大衆運動を発起した。胡は彼の飽く無き権力欲を警戒する半面「紅歌」には似た懐旧情緒を抱き続け，その「紅色基因」の形成には若い頃の革命歌熱唱・革命音楽舞踏劇観賞の体験が大きい。**

胡錦涛は**党首初就任の 20 日後**（2002.12.5）に**書記処の全成員を率いて西柏坡に赴き，7 期 2 中全会会場跡の参観**等で**刻苦**奮闘の伝統を学習し民情の考察も兼ねた。**政治的な節目で「朝聖」（聖地巡礼）を行う通過儀礼は彼の時代から慣例化したが，初心を忘れぬ為の 1 泊 2 日の「初詣で」の場所**選びは毛沢東への帰還を思わせる。彼は**「紅色根拠地」平山県出身の栗戦書を 18 年先行して，1964 年 10 月 6 日の党中央機関紙に感想文を載せ，清華大学**

**の学生**として**大型音楽舞踏史詩**（歴史叙事詩）『**東方紅**』（東の空が紅（あか）く染まる）**を絶賛**した。

**毛沢東が党首に就任した1943年**の冬に**陝西葭（か）県の農民歌手李有源**（1903～55）が「移民（の）歌」を作り，同省北部の民謡「騎白馬」（白い馬に乗って）の旋律で中共・毛を称える歌は，**延安の音楽家集団の改編・改名で国民的な領袖讃歌「東方紅」と為った。建国25周年の記念行事**として**周恩来の主導**で同題の大型音楽舞踏史詩が誕生し，民間・軍隊の文芸団体や非職業（アマチュア）出演者**3千人余りが党・革命の道程を表現する大作**は，10月2日の初演後に**6日の毛沢東等の観覧**で至高の評価を得たが，**登場した清華大学合唱隊には胡錦涛が居る。**

**周恩来**は16日に**出演陣を労（ねぎら）う大会で原爆実験初成功を披露して万雷の喝采を博し，党歴半年の胡錦涛は歴史的な高揚の瞬間に立ち会った事で党・国・領袖への尊崇を深めた。**音楽舞踏史詩は翌年に映画化され由来の**「東方紅」は「文革」中に第2国歌と為ったが，毛沢東の観賞と胡の感想文発表の12年後の「4人組」逮捕で新時代に入っても，**両作品の**「紅色（あかい）経典」の地位は1960年代前半とは変らない。**習近平の文芸工作座談会は初原爆成功50周年の前日であるが，10歳年長で清華の16年先輩に当る**前任の心酔は自ずと共有している。**

毛沢東が**総政治部講堂**で『東方紅』を観賞した時に周恩来・彭真・賀龍も同席し，**彭は延安文芸工作座談会閉幕24周年の日に全職を解任され賀も5年足らずで惨死したが，**大型音楽舞踏史詩の創作は元を正（ただ）せば**賀の訪朝**（1960.10.23～11.11）に遡る。彼と羅瑞卿が団長・副団長と為る中国軍事友好代表団は，平壌（ピョンヨン）各界の**中国人民志願軍入朝参戦10周年**記念大会（25）に出席する他，**3千人の人民軍が空軍の格納庫で演じる大型歌舞『3千里の山河』を観，戦時の革命歌の熱唱は空軍司令劉亜楼**（1910～65，空軍上将）**に強い印象を与えた。**

彼の意向で**空軍政治部文工団**は大型歌舞『**革命歴史歌曲表演唱（演技（パフォーマンス）・演唱）**』を創り，**翌年の建軍節**に北京中山公園音楽堂（ホール）で初演し周恩来・林彪等の好評を得た。**空軍礼賛の意図から革命称揚の内容に昇華した「紅歌」演唱**と対を為す様に，**上海解放15周年**（1964.5.23）**記念**の為に市政府文化局が推進した大型歌舞として，当日の第5回「上海之（の）春」（中国初の音楽祭）開幕式で**「高挙毛沢東思想紅旗高歌猛進」（毛沢東思想の紅旗を高く掲げて高歌・猛進せよ）**が上演され，後に周は陳毅の推薦で観て**国慶の御祝儀演目の基**にすると決めた。

周恩来の指揮で創作・練習は『革命歴史歌曲表演唱』初演3周年の「8.1」から展開し，題は総政治部文化部副部長李偉（1914～2005）の62年提案の「東方紅」にした。周は公演成功後の10月10日に指揮部成員等と総括を行う際，**「朝鮮の影響，上海の基礎，全国の支持」の3要素**を挙げた。東京五輪開会のこの日は朝鮮労働党創建19周年でもあるが，北朝鮮の影響は**空軍基地内の軍人出演の様に「先軍」色が有る。空政文工団が契機を作り総政と済南・南京軍区の文工団が今回一部を担った**事から，**「軍隊の牽引」**を要因に追加し得よう。

**軍の3団体が後に「副統帥跡目妃」**（造語）**張寧・「第1夫人（ファースト・レディー）」彭麗媛の所属先と為ったのも，「紅色（あかい）」歌舞で結ぶ「史縁」**と言えよう。**北朝鮮との同根性を現す様に李雪主も中国**

**語で「社会主義好」を歌え，牡丹峰芸術団・功勲国家合唱団**（2007.7 組成）の訪中公演（15.12.12～14，国家大劇院）の演目に，彭が得意な『白毛女』中の**「北風吹」**（北風吹いて）や，**『東方紅』の終曲「歌唱祖国」**（祖国を歌う）が有る。**王莘**（1918～2007）作詞・作曲の後者は，歌えない小学生に接して薄熙来が革命歌推奨を始めた**「紅色経典」**である。

公演は**自国の誘導弾保有を誇示する舞台背景が許されない**故に**土壇場で取り消された**が，2 年 3 ヵ月後に習近平夫妻が**超異例の礼遇**で金正恩夫妻を歓待した事は，「劫波を度り尽して兄弟在り，相逢うて一笑すれば恩讐泯ぶ」と言えるか。金は**「同根相煎る」肉親への粛清**として**叔父張成沢を惨殺し，異母兄**（父と成蕙琳の間の長男・第 2 子）**正男**（1971 年生）**の毒殺**（2017.2.13，馬来西亜の首都吉隆坡国際空港）**を指令した容疑**も有るだけに，**習の急接近は対米連合作戦の狙いが見え見え**で，**父の失脚時の毛沢東夫妻の外交を彷彿させる。**

インドネシア独立宣言（1945.8.19）の翌日に共和国大統領に就任したスカルノは，大変な艶福家で生涯 9 回結婚し 16 子を儲けた。4 番目に娶ったハルティニは最初の 2 人の妻の離婚（1923，43）に由り，イスラム社会の一夫多妻制の許容枠（同時に 4 人）内の第 2 夫人と為った。婚外恋愛の末に夫（石油会社の職員）と別れ 1953 年に「国父」と秘密裡に結婚した彼女は，第 1 夫人ファトマワティ（1923～80）の抗議の別居（同年）後に元首夫人の権勢を振ったが，**不人気の第 2 夫人に対する中国の破格の厚遇は外交上の思惑が有った。**

ハルティニ来訪前の 9 月 20 日から印度軍が国境地帯で挑発を行い，7 日連続の武力行使で中国軍に死・傷者を各 5 人出させた。中国は国境紛争局地戦（10.20～11.21）でソ連が支援する印度に圧勝したが，印度の核兵器開発（1974.5.18 初核実験）と南亜細亜に於ける核軍備競争の契機と為った。ハルティニを国賓とする礼遇やインドネシア等の東南亜細亜 4 ヵ国への元首訪問は，**『史記』「范雎列伝」が初出で兵法「三十六計」に有る「遠交近攻」**の感じもするが，**中国の援助に依存したスカルノは親中路線の為に破滅的な結末を強いられた。**

インドネシアは亜細亜・阿弗利加会議（バンドン，1955.4.18～24）の主催で，第 2 次大戦後に独立又は成立した**新興国の指導者格の印象**を与えた。**「第 3 世界」の旗手を自任する中国と組む「北京ージャカルタ枢軸」**の構築，馬来西亜の安保理非常任理事国入りに抗議する国連からの脱退（1965.1.7）に続いて，反帝国主義の旗印で非国連加盟国の北朝鮮・越南を含む「第 2 国連」の新興勢力会議を創ろうとしたが，「9.30 事変」で共産党（20.5.23 成立）が壊滅し，親共の大統領は翌年 3 月 11 日に実権をスハルト（1921～2008）に譲った。

**経済の失敗，外交の孤立と国軍・共産党の対立の中で起った軍事政変**では，大統領親衛第 1 大隊長ウントゥン中佐（1926～66）等が陸軍参謀長（中将）等 6 将領を殺害し，国営無線放送局を占拠して「インドネシア革命評議会」の設立を宣言した処，戦略予備軍司令官スハルト指揮下の部隊が 10 月 2 日に首都制圧・反乱平定を遂げた。6 日に陸軍相兼陸軍参謀総長に昇任したスハルト（少将，最終階級同じ）の主導で，**秩序回復の大義名分で共産党勢力と**

**華僑等の一般人に対する排除が行われ，20世紀最大級の虐殺で最低50万人が命を奪われた。**

「9月30日運動司令部」の決起は毛沢東夫妻・ハルティニ会見の『人民日報』報道の3年後に起き，6将軍の殺害は中共建国16周年の「10.1」の未明までに行われた。首都のハリム空軍基地の近くで古井戸に投げ込まれた遺体が3日に発見され，報道に接した**大衆は凶行に戦慄を覚えた**。4日の葬儀に参列したスハルトの治下では，毎年10月1日にその模様が電視の特別番組で再生され，**恐怖の記憶喚起と共産主義者狩の正当化**が繰り返されたが，**東南亜の最大規模の同国共産党を支援した中共の国慶節との巡り合せは歴史の悪戯か。**

周恩来が指揮した顧順章の家族・関係者に対する口封じの為の「消滅」の後も，1931年11月21～28日に他の叛徒懲罰の誅殺と合せた16の死体が掘り出された事に由って，仁義無き戦いと雖も残酷過ぎるという中共に対する批判的な見方が民間で増えた。**亜細亜の同類中に最も早く生れたインドネシア共産党は「9.30」で中共との通底を見せたが，「成則為王，敗則為寇」（勝てば官軍，敗ければ賊軍）**と言う通り，**王（支配者）と成った中共は敗者として裁かれる事が無く，スハルトの記憶定着の操作とは逆の事実抹消の権限を持つ。**

**上海に潜伏中の中共中央が敵の一網打尽の危機に瀕した1931年**の2月7日に，中国左翼作家聯盟（30.3.2，於上海成立）の5人の成員・関係者（胡也頻［03年生］・柔石［02年生］・殷夫［09年生］・馮鏗［07年生，妻帯者の柔の元婚外恋愛の相手］・李偉森［03年生］）が，龍華に在る警備司令部拘置所の外で秘密裡に処刑された。魯迅は2周年の際に書いた「為了忘却的記念」（忘却の為の記念）で「左聯5烈士」を悼み，**当局の言論封殺で長らく吐露できなかった「白色恐怖」への憤慨を表し，痛切な挽歌**として無題の詩を記した。

「慣於長夜過春時，挈婦将雛鬢有絲。夢里依稀慈母涙，城頭変幻大王旗。忍看朋輩成新鬼，怒向刀叢覓小詩。吟罷低眉無写処，月光如水照緇衣。」（長夜春時を過すに慣れたり，婦を挈え雛を将い鬢に絲有り。夢裡依稀なり慈母の涙，城頭変幻す大王の旗。看るに忍びんや朋輩の新鬼と成るを，怒りて刀叢に向い小詩を覓む。吟じ罷り低眉になれど写す処無し，月光水の如く緇衣を照らす。）**仲間が鬼と化す事を忍ばず怒って刀の叢に向って詩を求めたが，発表の場が無い故に眉を垂れる哀愁は，天安門事件の受難・観察・表現者も一緒**である。

**国民党の無慈悲**を現す様に同夜の処刑は多数に上り，21～26人の諸説中の魯迅記述の24人が通説と為る。彼等は6期4中全会の決議を討論する会合に出席する際，1月17～21日に上海の複数の旅館で捕まった。「1.7」上海全会では王明と共産国際の代表が参加者を選び，王を含む15人の非中央委員の参会で王が実質的な党首に推された。叛徒の情報提供で敵の手に落ちた人にはその**合法性を疑う**者が居り，羅章龍は王や顧順章の同志を売った嫌疑を指摘したが，**党内政争で「借刀殺人」（他者の刀で人を殺す）の陰謀も有るなら恐ろしい。**

胡也頻・柔石・殷夫・馮鏗と一緒に真っ先に検挙された8人中の林育南（1898年生）は，1922年に入党し第5期中央委員候補に当選した古参幹部であるが，6期4中全会の翌日に

有志と共に「同志に告ぐる書」を発表し王明の指導者就任に反対した。同日に逮捕された同年齢の何孟雄は初代党員（同期の妻繆伯英［1899～1929］は女性党員第1号）で，同じく労働者運動を指導し上海滬東区委書記等を歴任した。**2人とも王の左傾冒険主義を止める方向で動いていた**ので，**自分の手を汚さずに政敵を粛清する王の疑惑が持たれた**のである。

**林育南の堂兄**（父親同士が兄弟の従兄，年長）**育英**（1897～1942）は22年入党組で，労働者運動指導と上海の区委書記担当を経て，6期3中（拡大）全会（1930.9.24～28，上海）で中央委員候補に選出された。彼は林立果の「妃」候補が「1大」と誤認した瓦窯堡会議で，ソ連から帰国した**中央の連絡役として共産国際を代表して毛沢東の最高指導者の地位を支持した**。8路軍129師初代党委書記・政治委員等を経て病歿した後，毛は**恩義に報いる**可く1万人余り参列の公祭（公葬。3.9）で柩を担ぎ，司会の**任弼時の歿後と同じ厚遇**を与えた。

林育南の9歳年下の堂弟育蓉は他ならぬ林彪で，同じ湖北省黄崗市団鳳県回龍山鎮林家大湾で生れ育った林氏3兄弟の育英・育南・育蓉は，**地位・評価の違いが有るものの党史に永久に名を留めている**。林育英の死に繋がった脳溢血（1940.4.30，延安「国際労働節」祝賀大会で演説中）は，25年12月6日に上海で段祺瑞・奉系軍閥に反対する市民示威を指揮する際に負った頭部の刺傷が遠因と為る。**育南の刑死と40年後の林彪の変死も天寿を全うし得ず，3人の歿年の45・32・63（平均46.7）は戦争や政争に由る存命の困難を思わせる。**

林育南は正体を隠して上海で南洋（東南亜細亜）帰りの豪商として活動し，便宜上所帯持ちを装う為に偽の妻を演じる党員**張文秋**（1903～2002）と同居していた。張の**最初の夫劉謙初**（1897～1931）は結婚と同じ27年に入党し，**福建・山東省委書記**を歴任した後に**軍閥韓復渠**（最終階級＝陸軍2級上将）**治下の山東**で投獄され，清明節（4.5）に他の21人の党員と共に処刑された。同年に生れた独り子の劉思斉は建国の月に毛沢東の長男岸英に嫁いだが，**林彪の堂兄の偽装結婚の相手が毛と姻戚に為ったのは真に不思議な「史縁」**である。

張文秋の**再婚**（1937）**相手の陳振亜**（1902～41）は28年に入党し，33年に**戦傷で左足を切断された身体障害者**で，39年に治療・義肢装着の為ソ連へ行く途中の新疆で妻子と共に軟禁され，2年後に**盛世才の命で白露西亜人医師に由って毒殺された**。2人の長女陳安雲（別名張少華，後に邵華に改名，1938～2008）は張と毛沢東の協議に由り，60年4月に毛の精神疾患で遼寧大連市に療養中の次男岸青と結婚した。**領袖子弟と相継いで結んだ2つの至高の「紅色家族」は伝奇的な色彩が濃く，「先軍」の特徴は後裔にも継承されている。**

毛岸青は志願軍総司令部参謀兼露西亜語通訳者の兄に次いで，軍事科学院でマルクス＝レーニン主義思想関係の編訳業務に従事し（階級は中佐），中宣部マルクス＝レーニン著作編訳室の露西亜語翻訳者をも務めた。邵華も北京大学中文学部を卒業（1966.7）後に軍に入り，軍事科学院軍事歴史・百科研究部次長・少将にまで昇った。**一粒種の息子宇新は祖母が遭遇した林育南逮捕の39年後（1970.1.17）に生れ**，中国人民大学歴史学部卒（92.7）・軍科

院に於ける博士号取得（2003）後，同院戦略部副部長に任ぜられ（08.7）少将と為った（10.7）。

1929年4月に山東省委を再建し書記・宣伝部長を兼任した劉謙初は8月6日に，中央に報告を行う為に青島から上海へ赴く際に逮捕された。**犠牲の代償は中央が上海に潜伏する高い危険性と最大都市の特殊な重要性を示した**が，張文秋が夫の1年8ヵ月に及ぶ入獄中に上海で林育南の妻として振舞っていた事は，**非常時期・「特殊戦線」に於ける中共の特別工作として特例ではない。党史上その手の偽装結婚は献身的な精神に基づく英雄的な行為として讃えられ，重要人物の「弄假成真」（仮が真に成る）の美談だけでも数多く有る。**

**建国60周年を記念し愛国・愛党教育を深化する行事**として，党中央宣伝部・組織部・統一戦線工作部と中央文献研究室・中央党史研究室・民政部・人力資源社会保障部・全国総工会・共青団中央・全国婦女聯合会・解放軍総政治部共催の**「新中国成立の為に突出した貢献をした100人の英雄模範人物と新中国成立以来100人の中国を感動させた人物」**選考が行われた。1億近くに上る大衆投票と選考委員会・関連部門の審議を経て，2009年9月14日に結果が公表されたが，**開国英雄の部には件の「假→真夫妻」は3例・4人も入っている。**

96個人以外の4集団/2人組の中の**周文雍・陳鉄軍**夫妻は，事績の題が「刑場での婚礼」と為る。広東省委工人部長の周（1905年生）と市委秘書の陳鉄軍（同04）は25・26年に入党し，夫婦を装って広州で活動中の28年1月27日に逮捕され2月6日に処刑された。2人は**刑場の露と為る前に始めて愛を告白し，結婚式を挙げる心算で記念撮影をした**。「龍華24烈士」処刑の3年前の一幕は**悲愴な純愛・殉道劇**として語り継がれるが，**後世の名声に繋がる撮影を許した当局の器量は，人道的な配慮が乏しい毛沢東時代よりは益し**である。

次の**李白**（1910～49）も25年入党組で長征参加後37年に上海に派遣され，龔飲氷（1896～1976）の指揮下で延安との通信を担当した。元山東省委宣伝部長（劉謙初の前任）の龔の手配で，1937年入党の紡績女工裘慧英（1917～92）と偽装夫婦に為り，愛の芽生えで40年に名実倶に結ばれた。日本占領下の1942年9月に続いて48年12月30日に国民党に捕まり，李は翌年5月7日に処刑された。『永遠に消えぬ電波』（王苹［1916～90］監督，八一映画製作所，58）に由って，**延べ9桁の国民の脳裡に刻み込まれて来た伝説**である。

もう1人の**江竹筠**（1920～49）は39年に入党し41年に重慶市新市区委委員を務め，43年に元雲陽県委書記彭詠梧（1915～48）と偽装結婚し2年後に本当の夫婦と為った。彭の川東臨時工作委員会委員在任中の戦死（1948.1.16）後，江は6月14日に逮捕され翌年11月14日に処刑された。長篇小説『紅岩』（羅広斌［1924～67］・楊益言［1925～2017］，中国青年出版社，61），愛称「江姐」（姐＝お姐さん）を題とする歌劇（空軍政治部文工団創作，64）の宣揚は，**半世紀近く後の言わば「国民総選挙」で高得票の下地を作り上げている。**

劉謙初等の逮捕で又壊滅した**山東省委の再再建**の為，1930年3月に臨時書記**任国楨**（1898年生，26年入党）が派遣された。独身者の居所賃貸が出来ない故に女工**陳少敏**（1902～77，

同 28 年）が「妻」に充てられたが，2 人は 3 ヵ月後に正真正銘の結婚をして 1 子を儲けた。任は 12 月の北京市委書記就任を経て**「龍華 24 烈士」・劉謙初処刑の年**の 9 月に唐山市委書記に転じ，華北省委特派員として山西で活動中 10 月 21 日に逮捕され，**18 年後の江竹筠の命日と隣り合う「11.13」**に軍閥閻錫山（1883～1960，陸軍 1 級上将）の命で銃殺された。

陳少敏は天津市委秘書長等を歴任し「7 大」で中央委員候補に選出され，33 人中の得票順 8 位は鄧穎超と劉暁（1908～88，中央城市工作部副部長，建国後は外交部常務次官・駐ソ大使）に次ぐ。委員 44 人中 27 位（張聞天と鄧小平の間）の蔡暢（1900～90，中央婦女工作委員会書記，建国後は全国婦聯主席［初代］・全人代副委員長）と共に，**全 77 人中 3 人しか居ない女性の 1 人**である。夫の死後に独身を一生貫いた彼女が李富春・周恩来の妻と並んだ事は，河南・湖北の党・軍要職者として**戦中前線での実績が評価された結果**である。

7 期 2 中全会では中央委員 10 位の関向応（1902～46，8 路軍 120 師政治委員）の病歿，11 位の陳潭秋の当選前の刑死，19 位の王若飛・末席の博古の飛行機事故死に対応して，委員候補 1～4 位の廖承志（1908～83，南方局委員［当選時は獄中］，建国後は国家華僑事務委員会主任・全人代副委員長・国務院香港澳門事務辦公室主任・第 12 期政治局委員）・王稼祥・陳伯達・黄克誠が委員に昇格した。陳少敏は 7 期 7 中全会（1956.8.22，9.8・13）で委員と為り，**2 重の他者失脚に由る昇格は建国初期の中央内部の闘争激化を反映している。**

「6 大」で中央委員候補（13 人の末席）に当選した順直省委常委王仲一（1901～31）は，4 ヵ月後の政治局拡大会議（28.11.20，上海）で**左傾路線を問責され中央委員会から除名され**，6 期 2 中全会（29.6.25～30，上海）で追認された処分は**初の中央委員候補の罷免**と為る。建党直後の 1921 年秋に北京大学支部で入党した彼は，更に党籍剥奪（30.10.30）後の翌年 2 月 16 日に逮捕され，「匪魁」（「［中］共匪［賊］」の首領）として入獄中の 10 月 31 日に病没し，**中共創設成員として極めて不本意な結末で盲動蜂起の失敗の代償を払った。**

次の中委候補除籍は 21 年後の 7 期 3 中全会（1950.6.6～9）で為され，対象者は 6 位の黎玉（1906～86）と 27 位の劉子久（1901～88）である。黎は 1926 年に入党し 30 年代に任国楨の後の唐山市委・山東省委書記等を歴任し，抗日戦争勝利後に山東軍・政の主要責任者と為ったが，48 年に華東局から「地方主義」「派閥主義」「富農路線」「個人宣伝」と批判され，7 期 2 中全会でも過誤を認定された。劉は 1924 年に入党し抗戦中に河南省委書記等を務めたが，倶に**地域の代表として中央入りした 2 人は地域性が災いした典型例に為る。**

**地盤を奪われた**黎玉は上海市政府秘書長に転じ，「3 反」中の 1952 年 2 月 29 日に市労働給与処処長に降格されたが，54 年に第 1 機械（民用機械・電信・船舶）工業部次官，59 年に農業機械工業部次官と為った。彼は 1984 年に中央に対し華東局「48.12」拡大会議の自分への非難の見直しを求め，死去（86.5.30）前の 3 月 13 日に名誉回復が決定された。劉子久も 1955 年に労働部次官に就任後 60 年に「右傾反党分子」として解任され，74 年に「叛

徒」として党から除名されたが，78年に名誉が回復したので**中共要人の浮沈は劇的過ぎる**。

黎玉に対する華東局・上海市委の譴責・処分決議は撤回されたが，7期2中全会の「黎玉問題」決議と3中全会決定の黎・劉子久の委員候補失格は維持してある。華東局の「党内の紀律無視・無政府状態の克服と紀律の強化に関する決議」は，黎治下の山東の**「独立国」傾向**や**党を凌ぐ程の個人に対する宣揚**等が糾弾された。山東で肖像画を掛け「黎主席万歳」と叫ぶ風潮が起きた事や，黎が指導した徂徠山抗日武装蜂起（1938.1.1）の日を「山東建軍節」とした事が，**5年後の高崗と同じく広域根拠地の「親方」の慢心・放恣は**失脚に直結する。

7期2中全会の眼目には全国制覇後の「戒傲」（傲慢の気分を戒める）と有るから，**「居功自傲」（功労に倚って傲る）の不逞の輩は勢い格好の反面教師にされたが，地盤を資本とし縄張を固め上級に従わず自ら尊大に構える事は党紀に背き禁忌に触れる**のに，**一罰百戒に為る「山東王」潰し**は2・3中全会の決定とも官製毛沢東伝には出ない。黎玉・劉子久の失脚が**左遷の時点から歴史に埋もれて了った**のは，建国後の中央除名第2弾の高崗・饒漱石と比べて**地位・知名度が低く，「反党集団」とは為らず最高権力を脅かさない所以**であろう。

中央委員候補の序列で黎玉は8路軍南下支隊政治委員王首道（1906～96）と鄧頴超の間に居り，王は中央秘書長等を歴任し建国後は交通相等を務めたので黎も**準大物と見做せる**。劉子久は羅瑞卿と晋綏（山西・綏遠［今の内蒙古の一部］）野戦軍副司令張宗遜（1908～98）の間であるが，後に副総参謀長兼軍校部部長・総後勤部部長・上将に為った張と比べて遜色が有る。**中央委員会は挙党団結の為に所属・年齢等の分布・均衡を考慮して妥結する事が多い**ので，**位の低い委員候補に力量や存在感の相対的に劣る者が入るとしても可笑しくない。**

毛沢東は7期拡大6中全会（1955.10.4～11）の最終日の講話で，誰でも程度の差こそ有れ誤りを一部犯す事が有り，付ける薬が無く救い様が無い者は常に極少数だと述べ，「不可救薬」の例示で先ず陳独秀・張国燾・高崗・饒漱石，更に陳光（1905～54）・戴季英（1906～97）を挙げた。黎玉・劉子久は**救える部類に区分され粛清の重点に算えられなかった**が，2人と同年代の陳・戴は党の分裂や最高権力の奪取を謀ったとされる大物に次ぐ。官製毛沢東伝で取り上げられない「小事」と雖も，**建国初期の異例の高官罷免として特筆に値する**。

陳光は紅1軍団軍団長代理・8路軍115師師長代理として林彪の職務を務めた事が有るが，第4野戦軍時代に林から「居功自傲」と非難された。建国後に広東軍区副司令兼広州警備司令の在任中，対台湾・香港・澳門情報工作の過失や故郷の湖南宜章県から烈士子女等を招いて訓練班を作る等の不適切な行いで，軍区司令葉剣英と激突した。1950年7月23日に「反党」の罪名で拘束され，党籍剥奪の身で武漢に軟禁中54年6月7日に焼身自殺した。**高崗の2度自決の間の自暴自棄の憤死は，軍内の闘争の致死的な危険性を端的に現した。**

戴季英は1930年代の鄂豫皖（湖北・河南・安徽）根拠地の創立者の1人で，建国初期に河南省委常委・開封市委書記を務めた。1951年12月に毛沢東宛の手紙で省委の責任者を

攻撃し，自らの省委書記・中央委員への昇任を要請した処，こんな高級幹部は要らない，党籍剥奪・公職追放・永久不登用にす可し，という激怒の訓示で仕途を棒に振った。「民族の英雄」「群衆の領袖」「偉人」と自称した彼は**己惚れの所為で自滅し**，党籍剥奪（1952.2.12）後に監視下に置かれ，60 年に懲役 15 年に処され刑期満了後も 82 年まで軟禁され続けた。

戴季英は 1931 年に鄂豫皖省委政治保衛局審訊（訊問）科長として「反革命粛清」を推進し，敵の離間に騙された「白雀園粛反」で 96 人の団～軍首長級の将校の殺害に関与した。1933 年に紅 25 軍政治委員と為った後も**保身の為の「粛反」を繰り広げ**，35 年に西北革命軍委会政保局長として劉志丹・高崗・習仲勳等を逮捕した。**血の債務を大量に抱えた彼の建国後の重用は元々考えられ難く，「陝北粛反」への問責は四半世紀後に長期投獄の厳罰に発展した。**1984 年 4 月に本件の名誉・党籍が回復したが，**猟官失敗の汚名は永久に遺った。**

**省委の党籍剥奪決定は 10 日後の『人民日報』詳報で世間に衝撃を与えたが，20 年後の「2.12」の毛沢東の心肺停止はこれも含む積年の心労の爆発の様に思える。「1 大」開会記念日に巡り合せた建国後初の要人冤罪の陳光拘束も妙な「時縁」**で，「誘捕」を執行した広東軍区参謀長李作鵬の**党大会に関る天数**として，55 歳の誕生日（1969.4.24）に「9 大」閉会日に中央入りした。4 日後に政治局入りした彼は「10 大」開会の 4 日前（1973.8.20）に党籍永久剥奪と為ったが，陳は**毛・後毛時代の反転**で 88 年 4 月に党籍・名誉が回復した。

抗日戦争中の山東で陳光と関った黎玉は**権勢を失っても命が保て**，中共省委を幾度も潰した**国民党の「山東王」の末路と対照を為す**。韓復渠は 1929 年 5 月に西北軍総帥馮玉祥（1882～48，陸軍 1 級上将）から蒋介石に転向した後，山東の独立王国化と実力温存の為の無断撤退で殺意を誘った。蒋招集の第 5 戦区軍事会議に出た際 1938 年 1 月 11 日に逮捕され，軍法裁判を経て 48 歳の誕生日（1.25）の前日に漢口で秘密裡に銃殺され，**和製成句「一罰百戒」より数段きつい「殺一警百」（1 人を殺して 100 人を戒める）の見本**と為った。

韓復渠は 1926 年 8 月に閻錫山の陣営に転入し，翌月に馮玉祥のソ連からの帰国と政府軍への加盟で元に戻った。馮は 8 回も戦場で「倒戈」（戈を倒さにする。味方を攻める）の経験が有り，韓は**「倒戈（裏切り）将軍」と比べて寝返りの回数が少ない**。1927 年 12 月に河南省政府主席就任の代りに軍権を取られた事が契機で馮を棄て，国軍対 3 軍閥（馮・閻・桂［広西］系軍閥総帥李宗仁［1890～1969］）反蒋介石連盟の中原大戦（30.5.11～11.4）で閻軍を撃破したが，9 月に**山東省主席に任命された出世は 7 年後の死滅への起点に為った。**

韓復渠は**山東で再起の機会を窺う奉系軍閥張宗昌**（1881～32）**を暗殺し**，2 週間後の 9 月 17 日に戦争（～11.7）を起して**「膠（山東）東王」劉珍年**（1898～1935，21 師師長，中将）**を駆逐し**，2 年半の後に彼の同省東部支配中の悪行を告発し**蒋介石の手を借りて刑死させた。絶対覇者**と為った韓は蒋の不満を察して（四）川軍総帥劉湘（1890～38）と組む反蒋を謀ったが，**蒋は魯豫（山東・河南）戦区の設立と彼の司令就任を餌に開封まで誘い込んで，**

**団級以上の将校会議で公然抗命・消極抗戦を咎めて面罵し即座に監禁先へ連行させた。**

**現代最大の「誘捕」を成功させた蒋介石の計略は「党国」での不動の地位の秘密を窺わせるが，権勢拡大の誘惑に負けた韓復渠は処刑宣言も無い儘７発の銃弾を食って絶命した。**1934年12月に四川省主席を兼ねた劉湘も37年11月以降の武漢（臨時首都）での療養中，38年1月20日に韓に対する査問の事を高官から聞かされ，恐懼の余り当日（又は23日）に急逝した（陸軍1級上将追贈）。**一挙に２大省の軍閥割拠を解消した蒋介石の手腕は大独裁者らしく見事**であるが，**毛沢東と違って外敵を顧みず内訌に力を注いだ事は敗因を為す。**

韓復渠逮捕の地は**北宋の首都**と河南の数百年の省都（～1954）であるが，戴季英は行政中心都市の長の地位に満足せず愚かにも党首に抜擢をねだた。「陝北粛反」問責再開の年に国家主席と為った劉少奇も，開封で**「身敗名裂」（身が滅びて名が廃れる）の破局**に陥った。劉邦は敵国が敗れた後に功臣韓信を捕まえて巡行に帯同し，開封で放免し兵権の無い淮陰候に降格させた。劉が項羽の「鴻門宴」（鴻門の会）で殺害から逃れた故事（前206）を思い起すが，**情に流れて禍根を残した項の敵手除去の逸機は後世に慈悲無用の教訓を与えた。**

## 縁故――地縁・親縁・「史縁」の政治的危険性と人脈形成の可能性

杜牧の「折戟沈沙鉄未銷，自将磨洗認前朝。東風不与周郎便，銅雀春深鎖二喬。」の「未・銷・東・不・鎖」を含む名作には，同じ晩唐の詩人章碣（836?～905?）の7絶「焚書坑」が有る。「竹帛煙銷帝業虚，関河空鎖祖龍居。坑灰未冷山東乱，劉項原来不読書。」（竹帛煙銷えて帝業虚し，関河空しく鎖す祖龍の居。坑灰未だ冷えざるに山東乱る，劉項元来書を読まず。）**秦の始皇帝の思想統制・国家支配の為の焚書坑儒・皇居防衛は虚しく**，現に秦（今の陝西）の東側の山の外側で，元々読書家でない劉邦・項羽の反乱が起きている，と言う。

陝西以東の「山東乱」から劉邦・項羽蜂起の安徽・江蘇の北に在る山東の乱を思い浮べ，野史上有名な梁山泊108人衆も同じく無学か書物に頼らない者が殆どである。**「文革」動乱の「甲級戦犯」の「4人組」中の江青・張春橋と黒幕の康生の山東出身**や，**韓復渠（河北出身）・黎玉（山西出身）治下の山東の独立王国化**は，**地縁政治・地縁文化的な「反乱・反骨」の精神的な風土・遺伝子**を思わせる。**叛徒の所為で地下省委が何回も壊滅した事や大飢饉の全国５大激甚被災地域入り**は，**山東に見る中共の在野・治世時代の多難の現れ**である。

戴季英は名誉回復後に省委要人団地内の潘復生（1908～80）旧居に入ったが，彼の失脚直後に第1書記と為った潘は中央委員候補（73人中67位）に当選後，58年8月に**建国後唯一の１級行政区の政府首長対党首長の下剋上**で解任された。省長から第1書記に昇格した呉芝圃（1906～67）の故郷は，『列国』「天瑞」の「杞人憂天」（杞人の憂え）の故事に出た杞国の初期所在地の同省杞県である。天地が崩れて落ちるのを憂えた人が居る杞国は後

に山東に移ったが，杞人らしくない呉の**憂患意識の欠如**で河南は山東以上の餓死者が出た。

**国民党時代の首都南京に近い上海の政治的な厳酷と通じて，共和国の政治「高危（ハイ・リスク）」区域は北京が筆頭と為り，河北省・天津直轄市を含む広域首都圏がそれに次ぎ，山東・河南も河北と隣接する大省だけに相応の危険性を帯びる。首都圏の首長失脚の高い確率を一番体現した李雪峰**は，華北局第1書記在任中の1966年5月に彭真に替る北京市委第1書記を兼ね，翌年1月に天津に転出し68年2月に河北省革委主任と為り，8期11中全会選出の政治局委員候補も続投したが，9期2中全会後に失脚し「10大」前に党から永久除名された。

2中全会で陳伯達は華北組（分科会）で**林彪閥等非「宮廷派」**と共に張春橋を攻撃し，李雪峰は発言を記録した同組の議事録速報の内容と全会での配布を承認した。中央主催の「華北会議」（1970.12.22～71.1.24）で北京軍区司令鄭維山（中央委員・軍委委員）と一緒に批判・更迭され，安徽で同じ8年に亘る秘密監禁又は労働改造に耐えた上で，82年4月と79年12月に名誉回復を迎えた。2人は**陳の省内・軍内視察に便宜を図った故に「華北の太上皇」の手先と断じられた**が，党・政・軍高官の集会は名称通り華北問題の解決が目的である。

**1962年9月に始まる毛沢東夫妻と劉少奇夫妻の張り合いは，国家主席・元首夫人（ファースト・レディー）の内外両方の活躍が先行した**。劉は各級（クラス）の指導者が農村に住み込んで社会主義教育運動を推進するよう唱え，翌年11月から王光美を通じて桃園大隊で模範事例を作り，1964年6月28日～7月25日に王を帯同して天津・河北・山東・安徽・江蘇・上海・河南・湖北・湖南・広東・広西・雲南に回り，各地の責任者と座談する一方**「桃園経験」を婦唱夫和で吹聴し，党・国家指導者の中央成員でもない妻の重大な国政事項への越権的な関与の先鞭を付けた**。

劉少奇は8月1日に在京党・政・軍機構と群衆団体の幹部の大集会を開催し，農村社教運動に関する大演説をぶち妻の「典範（モデル）」を推奨した。彼は議長席の前列の要人の後を闊歩（かっぽ）しつつ檄（げき）を飛ばし，農村・工場の状況調査に於て調査会を開く方法はもう通用しないと**気分高揚の中で放言した**が，**毛沢東が**「『農村調査』への序文と後記」（1941.3・4）等で**薦めた手法への否定は些か無遠慮過ぎる**。彼は動員が一段落した後5日に広州へ飛び関連の中央文書の起草を仕切ったが，それは後に毛に破棄され彼は**2年後の「8.5」に毛から攻撃された**。

現場に腰を下ろして社教運動の全過程に参加しない指導者は，省委・地委・県委の書記や中央の部長（閣僚）・中央委員には恐らく成れない，という劉少奇の恫喝（どうかつ）は覿面（てきめん）に効いた。**革命の理念を説く毛沢東の呼び掛けよりも処遇の得失を持ち出す劉の訴えが人々を動かせた**のは，**官位の維持・昇進に拘る利己心の蔓延と賞罰を決める劉の人事権の大きさの証**である。**毛が劉を「党内最大の資本主義の道を歩む実権派」と断罪したのはこの1件の刺激にも由り，2年後の同じ建軍節に劉降ろしの中央全会を開いたのは意趣返しの観すら有る。**

林彪辦公室主任葉群は1965年9月5日～翌年3月5日に呉法憲等を従わせて，江蘇太倉県沙渓（けい）公社洪涇大隊で社教運動に携わった。林が静養や戦備疎開の際に好んで居る蘇州に

近いのが場所選定の理由であるが，**北京から遠く離れる事は林夫妻の韜晦の現れ**の様に思える。**投獄も辞さぬ非情な「悪質分子」摘発の「桃園経験」と違って，彼等は毛沢東思想学習の模範人物の樹立に力を入れ**，毛語録を数多く暗誦（しょう）でき感想の演説も上手（うま）い文盲農婦顧阿桃（1914～98）を奇貨として全国で宣伝し，**手を汚さずに容易く自分の声価を上げた。**

**王光美の意欲的な外交・内政活動は原籍天津・北京出身と無関係でなく，南方人気質に多い「陰・柔」と対照的な北方人気質の「陽・剛」は，同じ山東出身の江青や習近平夫人彭麗媛（えん）（1962～　）にも現れる。彭は毛沢東・江結婚24周年の11月20日に**，北宋末の**梁山泊好漢集団蜂起（1119～21）の首領宋江**（生歿年不詳）**と同じ鄆（うん）城県で生れた。歴代党首中の北方人（華国鋒・趙紫陽・習）は共に北方籍の妻を持ち，華・趙の妻韓芝俊・梁伯琪は夫と同じ山西・河南の人**であるが，**3党首とその時代は揃って「陽・剛」の雰囲気が濃い。**

**江青は初公開活動後の第2の雌伏期に夫の支持の下で京劇改革・『海瑞罷官』批判を進め，1966年2月2～20日に上海で総政治部の責任者等が参加する部隊文芸工作座談会を開いた。**毛沢東が手入れした議事録「林彪同志の委託で江青同志が開催した部隊文芸座談会の紀要」は，4月10日に党中央文書として全党に配布され，18日の『解放軍報』社説「毛沢東思想の偉大な紅旗（あかはた）を高く掲げ，社会主義大革命に積極的に参加しよう」で要旨が発表された。劉少奇夫妻の最後の外遊の1ヵ月前に，**党・国両首領の夫人の栄枯盛衰は遂に逆転した。**

**習近平「新時代」の元首夫人（ファースト・レディー）が成人（満18歳）の日に，第1「旧時代」（毛沢東時代）清算の為の林彪・江青集団裁判が始まった**が，「文革」発動の中央決議の準備工作として催された座談会は**林・江結託の好例**である。林彪・康生は賀龍・彭真を打倒する為に同年の「2月兵変（軍事政変）陰謀」を丁稚（でっち）上げ，軍委第2副主席の賀さえ1個小隊の部隊を動かす権限も無い故に有耶無耶と為ったが，**軍委主席・第1副主席が党首夫人を支えた「先軍政争」の典型と為る部隊文芸座談会こそが，「2月（の）兵（を盾にする政）変陰謀」**と言えよう。

**「文革」元年の最初の政局変動は先月の羅瑞卿失脚を受けての軍委指導部改造**であり，1月8日に陳毅・劉伯承・徐向前・葉剣英が副主席に任命された。**彭徳懐解任後の2副主席体制で林彪と不仲の賀龍は大増員の結果，この「軍閥」が自分の死後に造反しかねないと懸念する毛沢東に由って権力を稀釈された。**翌年1・2月の**賀龍軟禁と陳・徐・葉失脚で林の権勢が膨脹の一途（いっと）を辿（にせ）り**，皮肉にも**毛は偽（か）「忠犬」に噛まれた「9.13事変」の際に手を負えず，4副主席増員の恰（ちょう）度10年後に没した非軍委成員の周恩来の指揮で危局を脱した。**

中宣部・文化部を敲く座談会議事録を配る中央文書に，「毛沢東同志が『逼られて梁山に上る』を見て延安評劇院に寄せた手紙」（1944.1.9）が添付された。評（京）劇『逼上梁山』の脚本作者・演出者の楊紹萱（けん）（1893～1971，劇作家）・斉燕銘（えん）（1907～78）宛の手紙は，**江青が京劇革命の先駆者である様な印象を与える為に受取人は改竄（ざん）され**，郭沫若の貢献を讃える文も消された。統戦部副部長・総理辦公室主任・文化部党組書記兼次官を歴任した斉は，

済南（山東省都）副市長在任中の「文革」初期に失脚し7年も北京衛戍区で拘禁された。

**江青は「革命現代様板戯（模範劇）」の演出・普及に大変な熱を入れ，毛沢東に全て観賞させ至高の広告塔を利用して国民的な人気を高めた。社会主義教育運動の「様板（モデル）」を夫と共に全国に広げようとした王光美と重なるが，「桃園経験」は毛に排斥（せき）されるまでもなく元々普遍性を欠き賞味期限も短く，**逆に**「模範劇」は芸術性と洗脳効果に由って「文革」が否定された後も持ち応えている。**その意味でも王に勝った**江青は不二の「第1夫人（ファースト・レディー）」と為った後，愚かにも天津宝坻（ち）県小靳（きん）荘村を3回訪ね政治学習夜間学校の「様板（モデル）」作りに執心した。**

その訪問（1974.6.22，9.24，76.8.28）の2回目は，比律賓（フィリピン）大統領フェルディナンド・マルコス（1917～89，第10代［65.12.30～86.2.25］）の妻イメルダ・マルコス（1929～　）の案内役である。夫人は国交樹立の意向を伝える特使で，李先念を泣き落して本来不可能の毛沢東との会見（27日，武漢）に成功した。外務次官韓念龍（1910～2000）の妻王珍（経歴未詳）は女の武器を使う彼女の事が嫌いで，小靳荘への随伴を取り消したが，江青には**12年前の同時期のインドネシア大統領第2夫人を接待した王光美への対抗意識に燃えた**ろう。

江青の小靳荘訪問は**自己顕示・自己満足の「表演（パフォーマンス）」の要素が強い**が，並行した天津駐屯部隊への訪問は**軍権掌握に対する渇望**の現れである。彼女は軍の事に口を出す資格が無く**主席夫人と雖も軍との関係が築けず**，失脚後これは**権力簒奪を狙う布石とされ6年前の陳伯達と同じく関係者まで処分された**。1967年1月から市の党・政首長を務め第9～11期中央委員の解学恭（1916～93）は，**還暦の日に巡り合せた「4人組」逮捕の後78年6月に党内外の職務を解かれ，87年3月に党籍も失ったが，江への役職柄の協力も罪状に入った。**

天津市委書記兼市革委副主任・国務院文化組副組長（文化部次官）王曼恬（てん）は，**毛沢東の親戚**（母方の従兄の娘）に当り毛夫妻とも関係が親密な為，「文革」中の江青への密告等を追及される中で，1977年1月4日に睡眠薬で自殺を図り，未遂後27日に寝台（ベッド）の上で首を吊って絶命した（歿年63）。党への忠誠から「胡風反革命集団分子」の詩人魯藜（れい）（1914～99）と離婚した彼女は，今度は「4人組」の**「死党」（主（ぬし）の為に死を賭（と）す徒党）と断罪されたが，**「文革」中の勤務先の**女性校長の事例で示唆を得た特殊な自決方法は後に江も実践した。**

**疫病神の江青と関って天命を全う出来なかった天津の要人には，北京生れの初代市長**（1949.1～52.8）**黄敬**（1912～58）**も居る。**彼は**山東大学在学中の1932年に同校図書館勤務の江と同棲し江の入党紹介者でもあり，**翌年に青島市委宣伝部長として活動中に逮捕され江との関係は自然消滅した。天津市長の次に第1機械工業相に転任し第8期中央委員（97人中90位）と為ったが，**南寧会議で毛沢東の実務派敲きに衝撃と重圧を覚えた所為か精神に異常を来し，帰りの飛行機の中で李富春の前に跪いて命乞いし数日後に惨めに早逝した。**

中央直轄市の初代市長は北京の葉剣英（1949.2～8）も上海の陳毅（49.5～58.11）も無事でいたが，毛沢東・華国鋒時代は扨て置き**鄧小平時代以降も首長の失脚が続いた。**江沢民

時代の北京市長・市委書記（1983.4～93.1，92.10～95.9）陳希同（1930～2013），胡錦涛時代の上海市長・市委書記（01.12～03.2，02.10～06.9）陳良宇（1946～　）と重慶市委書記（07.11～12.3）薄熙来の後，3人と違う非政治局委員の天津市長・市委書記代理（08.4～16.9，14.12～同）黄興国（1954～　）も，**4市輪番（ローテーション）を完成する**様に習近平時代に倒れた。

**胡錦涛は集団指導を貫く為に最高指導者の「核心」称号を廃止し，習近平は3年の我慢を経て隔世遺伝が現れる様に江沢民時代の流儀に戻った。**2016年1月8日に黄興国が率先して「習総書記という核心を守らなければ為らない」と発言し，11・13・15日に四川・安徽・湖北の省委書記王東明（1956～　）・王学軍（1952～　）・李鴻忠（1956～　）が其々演説で同様の表現を使った。**50年・40年前の「文革」元年・末年の軍委改組・総理逝去の「1.8」，党・国の大変動が多い1月中旬に，同年の「習核心」誕生の前奏曲が奏（かな）でられた。**

第1声を発した黄興国は天津市委副書記・常務副市長への栄転（2003.11）前，浙江省副省長→省委常委・寧波市委書記を5年10ヵ月務めた。**習近平は浙江在勤**（2002.10より副省長・省長代理，03.2～07.3省委書記）**の間に，有力下僚の人脈「網絡（ネット・ワーク）」を構築し中央入り・党首就任後の側近集団の柱を形成した。**黄は浙江時代に習と接点が有り直轄市の管轄を任された故に習系要人と見られ，**党紀・国法に依る懲罰は習の反腐敗が遂に身内に及んだ展開**として驚かれたが，彼の摘発は**毛沢東時代以来の政争から見ても必然性が色々と有る。**

習近平は省委機関紙『浙江日報』の第1面に短評欄（コラム）**「之江新語」**を設け，**政見所感**を筆名「哲欣」で断続的に発表し（2003.2.25～07.3.25），『之江新語』の題で刊行した（浙江人民出版社，07.8.1）。「之江」（Zhījiāng）は発音が通じる「浙江」（Zhèjiāng）と共に，同省最大の河川と為る銭塘（とう）江の異名で省名の由来でもある。「哲欣」（Zhéxīn）は「之/浙江新（xīn）語」の略に因み，**「浙江創新（新機軸創出（イノベーション））」**の意を寓し，**自らの哲学を披露する欣喜**の意も感じ取れるが，**執筆も含む発信を縁の下で支えた関係者は自ずと縁故集団を為している。**

全長605キロの銭塘江は浙江・江西に近い安徽黄山市休寧県六股（こ）尖に端を発し，率水・漸江（～同省歙（きゅう）県浦口）→新安江（～浙江建徳県梅城）→桐（どう）江（～同省桐廬県）→富春江（～杭州市蕭山区聞堰（えん））→之江（～同市閘口）を経て，海寧県澉（かん）浦で杭州湾に注ぐ。**之江は河道が「之」の字の如く曲折している特徴に由来し**，銭塘江の旧称中の**「浙」の三水偏（ずい）＋「哲欣」の「哲」にも含む「折」の構成は，「之」の蛇行・屈曲が多い形象（イメージ）と合う。毛沢東が第2の故郷として愛した杭州に之江が在る**事も，**「第2の毛」の「新語」の題の隠し味**に為り得る。

杭州湾に注ぐ河口は潮の干満の差が著しく，大潮（おおしお）の際には海水が逆流する壮観を呈し，毎年旧暦8月18日に海寧で最高の「銭塘潮」が観られる。毛沢東は1957年の当日（西暦9.11）に同県の七星廟（びょう）で観賞し，後に「七絶・観潮」で絶景と感動を詠んだ。結びの「鉄馬従容殺敵回」（鉄馬従容として敵を殺し回（かえ）る）は，南宋の詩人陸游（1125～1209）の7絶「十一月四日風雨大作」（11月4日，風雨大いに作（おこ）る）の「鉄馬氷河入夢来」（鉄馬氷河夢に入（い）り

来(きた)る）に擬えたが，**猛烈な波涛を大勢の軍馬の様に感じた毛の軍人根性は乱世に相応しい。**

田中角栄（1918～93，第64～65代日本首相［72.7.7～74.12.9］）が率いる自民党派閥は，**総帥の「闇将軍」の渾名と似合う「田中軍団」**の俗称が有る。**習近平閥も浙江「旧部」（古い部下）は『之江新語』に因む「之江新軍」，祖籍所縁(ゆかり)の関係者は「陝軍」，母校の学友等は「清華軍」，党中央学校校長**（2007.12～12.12）**在任中の「関係網(コネクション)」は「党校軍」と呼ばれる。福建在勤**（1985.6厦門(アモイ)市副市長～2002.10省長・省委副書記）**時代の「閩江旧部」**は別として，**頼りの能吏集団の「○軍」の名称は「先軍」伝統や政争が戦争に近い現実に合う。**

第19期政治局常委の7人中3位の全人代委員長栗戦書（前中央辦公庁主任）は，習近平の河北正定県委副書記・書記（1982.3～83.11，～85.6）在任中に，隣の無極県で書記を務め（83.7～85.10），省委書記高揚（1909～2009）と関係が良くなかった習の相談に乗る等で親交を深めた。習は国務院・中央軍委辦公庁秘書（1979.4就任）と次の正定勤務の期間中，職位が低く年数も短い所為か余り人脈を持たなかった。**「冀（河北）軍」閥が無い半面「旧識」組の栗に対する最大限の重用は，戦友の絆を重んじる軍人に準じるとも言えよう。**

6位の中紀委書記趙楽際（1957～　）は青海省都西寧の出身で，当時の全国最年少で同省の省長・省委書記に就任し（2000.1，03.8），次の陝西省委書記（07.3～12.11）を経て，第12期政治局委員・書記処書記・中組部部長に抜擢された。陝西に赴任した早々に習仲勳の故郷の墓を巨大な陵地に改造し記念館を併設した事が，**習近平に好印象を与え「黒馬(ダーク・ホース)」（穴馬）の躍進に繋がった**と言われる。**中央入り前の最終職務と濃厚な陝西訛(なまり)に由って「陝軍」の筆頭と見做せ**，47年に亘る青海在住・在勤歴は**「西北野戦軍」**の様な部類に入ろう。

7位の第1副総理韓正（1954～　）は上海生れ（祖籍は浙江慈渓県）で，上海市長（2003.2～12.12）在任中に市委書記習近平（07.5～10）の下に在り，**「浦江（上海）旧部」中の最高位者**と見る向きも有る。書記代理（2006.9～07.3）・書記（12.11～17.10）を務めた彼は，同じ上海出生・祖籍浙江（嘉興市嘉善県）で，1991年から上海市長→市委書記→政治局委員→同常委・第1副総理と為った黄菊(きく)（1938～2007）と同じく，**江沢民の「上海閥」**に属するともされるが，半分習に近いとしても**常委会の半数は党首の掌中に収まる計算と為る。**

江沢民は上海市長（1985.7～88.4）・市委書記（87.11～89.8）を経て，政治局委員歴7ヵ月の儘で総書記に起用された。後任市長・市委書記の朱鎔基も1991年4月に副総理と為り，翌年3階級特進で第14期政治局常委に選出され（次期再任），93年3月に第1副総理に進み，5年後から第5代総理を1期務めた。**中共誕生・人材輩出の国際都市・経済中心の特殊な地位を物語る両者の大出世**に続いて，習近平の市委書記就任も中央指導者への過渡と為ったが，**短期間で江派の牙(が)城に食い込めない為か「滬（上海）軍」と呼ぶ習派直系は無い。**

**平(ひら)の政治局委員**18人中の書記処書記・中央辦公庁主任**丁薛祥**は，2007年5月に**上海市委常委・秘書長に昇任し習近平書記の政治秘書を兼ね**，5年後の市委政法書記就任・中央

委員候補当選を経て，13年5月に**中央辦公庁副主任兼総書記辦公室主任**に栄転した。書記処書記・国家監査委員会主任（初代）・中紀委第1副書記**楊暁渡**（ぎょう）（1953～　）も，**上海勤務**（2001.5～13.11，副市長～紀委書記）**時代の統戦部部長在任中**（06.10～12.6）**習の知遇を得て**，14年1月に中紀委副書記に起用され，今度は**中紀委副書記の初政治局入り**を果した。

毛沢東の「槍桿子里出政権」（鉄砲から政権が生れる）を捩って言えば，**習近平の丁薛祥重用は「筆桿子里出親信」（筆から側近が生れる）原理を示唆する**。彼の初勤務先は国務院・中央軍委辦公庁で，耿飆（こうひょう）（1909～2000）副総理（外交・軍事工業・民間航空・観光等主管）・軍委秘書長の秘書を2年務めた。政治局常委に昇格直前の上海在勤中は第11期の耿と同じ政治局委員であったが，**役職上その政治秘書を担当した丁の後年の党首・中央の大番頭の就任は，同じ市委秘書長を経て市委書記から総書記と為った江沢民の懐刀の曾慶紅と重なる。**

**今期政治局の内2番目に年少の丁薛祥は，16歳（1978）で東北重型機械大学**（黒龍江斉斉哈爾（チチハル）市，60年設立）**に入り**，機械製造学部で鍛（たん）圧工芸・設備を専攻した後に**機械工業部上海材料研究所で研究員と為り**，団委書記・辦公室主任等を経て**96年に所長に任命されたが，翌年の市科学技術委員会主任就任から高官への道を歩んだ。江沢民・李鵬・胡錦涛・温家宝・習近平と似た「棄技従政」（技術畑を棄てて政界に入る）**は，『論語』「子張」に有る**孔門10哲中の子夏**（前507～?）**の「学而優則仕」（学びて優なれば則ち仕（すなわ　つか）う）に則る。**

第90・96～98代日本首相安倍晋三（1954～　，2006.9.26～07.9.26，12.12.26～　）は，初組閣で6日前の**自民党総裁選で自分を支持した衆・参両院議員を優遇した**為，評論家宮崎哲弥（1962～　）に**「論功行賞内閣」「お友達内閣」**と揶揄された。**彼の再登板が生誕119周年に当る毛沢東も延安整風で数人の「親密な朋友」が出来**，その劉少奇・陳伯達・胡喬木・高崗・陸定一・彭真と周揚は何れも重用された。**毛沢東思想を最も声高に宣揚した劉の次期党首内定は正に論功行賞**であり，**「親密な戦友」林彪も「親友体制」の副統帥**に他ならない。

安倍晋三は**1期目の病気に由る辞任後5年余り経って復帰し**，総裁初当選の12年後に連続3選を果し，**通算在職日数は令和元年（2019.5.1発足）の数ヵ月内**（6.7，8.24，11.20），**立て続けに伊藤博文**（1841～1909，第1・5・7・10代［85.12.22～88.4.30，92.8.8～96.8.31，98.1.12～6.30，00.10.19～01.5.30］）**の2 720日，佐藤栄作**（1901～75，第61～63代［64.11.9～72.7.7］）**の2 798日，桂太郎**（1848～1913，第11・13・15代［01.6.2～06.1.7，08.7.14～11.8.30，12.12.21～13.2.20］）**の2 886日を抜き，到頭歴代1位の座に上る**計算と為る。

彼は党幹事長・外相経験者の安倍晋太郎（1924～91）を父親に持ち，岸信介（1896～1987，第56～57代首相［57.2.25～60.7.19］）が母方の祖父で，岸の実弟佐藤栄作が大（おお）叔父に当る。**名門出身の毛並みの良さは「政界の（将来を嘱望される）王子（プリンス）」なる父を彷彿させ，有力な「新領袖（ニュー・リーダー）」でありながら総裁に成れなかった精神面の弱さも当初有ったが，苦節に耐えた後の強（したた）かな変身は世間の想像を超えた。祖籍が首相輩出の山口で生れが首都である事は1歳年**

上の同じ 2 世政治家の習近平と通じ，権力維持・憲法改正に対する強い意欲も両者は似通う。

安倍晋三は 2021 年 9 月末日までの任期を全うすれば，134 年超の史上の大記録を更に 3 567 日まで伸ばせるが，翌日が与党成立 100 年後の最初の国慶節に当る中国は異変が無い限り，最低それを上回る 10 年の執政が保証される習近平の統治下に在ろう。節目の時の政治局は党史上 2 桁の大所帯に限って言えば，党首と濃密な関係を持つ成員が最も多い「盟友指導部」と見做せる。安倍首相は当初「論功行賞 / お友達内閣」の批判に対し「結果を出せる人を選んだ」と反論したが，中共の言論管制の下では抑々その様な異論は発し得ない。

昨今の中国の戯言で言う「鉄」の様に強固な人間関係には，「一起同過窓」（同じ学校に通った事が有る），「一起下過郷」（共に「上山下郷」の体験が有る），「一起扛過槍」（一緒に銃を担いだ［従軍した］事が有る），「一起嫖過娼」（一緒に娼婦を買った事が有る），「一起分過賍」（盗品を山分けした / 不当な利益を分け合った事が有る）と有る。学友・戦友の間の「知識青年」の「難友」（艱難を共にした仲間）の連帯感や，悪友同士が染まる買春や窃盗・汚職の犯罪の横行を思わせるが，真面で層が厚い最初の 2 種類は習近平の指導部には有る。

習近平体制第 1 期の政治局常委の内の親友は，序列 6 位の中紀委書記王岐山（1948～　）だけである。王は同期（1969.1～）の「知識青年」として陝西延安県馮荘大隊で労働に従事し，西安の陝西省博物館に就職する（71 年末）まで習と往来し同じ布団で寝た事も有る。「同窓」と同音（tongchuang）でより濃密な「同床」の仲は，40 年後の習時代の「中国夢」を追う「同床同夢」（「同床異夢」を捩った造語）の礎と為った。王は胡錦涌体制の後期に政治局委員・副総理として辣腕を揮ったので，この順当な昇格・重用は旧友優遇には当らない。

旧王朝の皇帝＋宰相と通じる毛沢東・周恩来→江沢民・李鵬 / 朱鎔基→胡錦涌・温家宝体制は，党首・軍統帥・国家元首の極度の集権に由って習近平・李克強 2 人組とは為らなかった。第 1 期では重点中の重点の反腐敗に取り組む習・王岐山が政局の枢軸を為す感が強く，王を得意な金融・商務等でなく新分野の党内粛清に投入したのは権勢強化の妙手である。第 2 期では王は 68 歳定年の慣例に沿って党指導部から退いたものの国家副主席に転任し，政治局常委に準じる高位は国家主席の年齢制限の撤廃にも繋がるから習の権謀術数は巧い。

習近平の「鉄」親友の同窓は第 19 期政治局で一挙に 2 名入り，同じ北京 101 中学卒の劉鶴（1952～　）は中央財経領導小組辦公室主任と国家発展・改革委員会副主任就任の 2013 年に，習から外賓に「私にとって非常に重要な人物」と紹介され，18 年に副総理（4 名中末席，金融・科学技術・工業等主管）に任命された。同じ中央委員歴 1 期の陳希（1953～　）は清華大学時代の「室友」で，寮の同室者と共に入党紹介者の習の同党（同族）と言え，今度は書記処書記・中組部部長・中央党校校長（89 年以降初の非常委担当）と為った。

習近平の下放と間接的な縁が有る準「陝軍」政治局委員も 2 人居り，第 16 期以来の中央委員王晨（1950～　）は同じ 69 年に同省銅川市宜君県の農村に定住し，73～74 年の延安

**地委勤務で習と接点を持ち**，『光明日報』『人民日報』編集長・中央対外宣伝辦公室主任を経て，現職は全人代副委員長兼秘書である。中委候補2期の**李希**（1956～　）**は陝西省委秘書長→兼延安市委書記（2004～11），上海市委組織部長→副書記（11～14）の経歴が習の足跡に随（つ）き**，遼寧省委副書記→兼省長→書記に次いで「19大」後に広東省委書記に栄転した。

**習近平の地方勤務が最も長い地域は福建**であり，17年4ヵ月の**期間は前後の陝西下放＋国務院・軍委辦公庁勤務＋河北勤務＋浙江・上海勤務の総和**（17年11ヵ月）**に匹敵する。32歳の誕生日（1985.6.15）に厦門（アモイ）副市長として赴任**した後，寧徳地委書記（88.5～90.4）**→**福州市委書記（～96.2）**→兼省委常委**（93.9～2002.10）**→省委副書記**（95.10～同）**→省長代理**（99.8～00.1）**→省長**（～02.10）を歴任し，**経済特区の副省級市に始まり省都が主と為る3地に在勤中，経済・文化発展広域に相応しい豊富な人材と出会い且つ活用した。**

**「之江新軍」を捩った「閩江旧部」の称は「新・旧」「軍・部」の様に対の発想に基づき，浙江の省名の起源と為る之江に対し福建最大の河川**（全長562キロ）**閩江は省の別称を含む。**「閩」は5代10国（唐の滅亡～宋の統一の間に，華北に興亡した5代王朝と他の諸地方に割拠した10国，907～79）の1つ（909～45）で，後梁（907～23）より閩王に封ぜられた王審知（862～925，09～25在位）が福州を都として建て，6世で南唐（937～75）に滅ぼされたが，**光州（河南）土豪の王の福建制圧に遡る閩の歴史は同省の多難・複雑を思わせる。**

**習近平の福建時代の最初の省委書記項南**（1918～97，82.2～86.3在任）は，**大胆な改革・開放が中央の保守派の気に障り，省内の小規模贋薬（がんやく）製造事件の問責を口実に解任・党内警告処分を受けた。**次の陳光毅（1933～　）の後任**賈慶林**（1940～　，93.12～96.10）は，**歴代の中で唯一最高指導部入りを果した。**同年齢の陳明義に継ぐ**宋徳福**（1946～2007，00.12～04.12）は**軍出身者（少将）**で，**団中央第1書記（胡錦涌と李克強の間）・人事部部長**（93.3～00.12，就任時は**史上最年少閣僚**）を歴任し，**大出世が必至なのに病で離職した。**

習近平着任時の省長胡平（1930～　，83.1～87.9在任）は中央入りし，商業相（曾山・陳雲と姚依林が第1・2と4・7代）を務めた（88.4～93.3）。都落ちした王兆国に継いで賈慶林（1990.1～94.4）・陳明義（～96.10）が担当し，次の**賀国強**（1943～　，97.4～99.8）**は厦門遠華集団密輸事件の発覚直後に重慶市委書記に転出した。晋江市（項南失脚の契機の贋薬事件の舞台）出身の頼昌星**（1958～　）**が94年に創った企業の犯罪は，省内外の各界要人が絡んだ大醜聞と為り，巡り巡って厦門（アモイ）所縁の習は省長代理・省長として対処した。**

**習近平の厦門（アモイ）時代の部下何立峰**（2歳年下の1955年生れ）は，習赴任の7年後の92年に同じ副市長と為り，2000年に習より10年遅く福州市委書記に昇任し，翌年に8年前の習と同じ省委常委兼務し（次官級待遇），07年に同10年遅く中央委員候補当選（2期），09年に天津市委副書記，13年同市政協主席当選・閣僚待遇昇格，14年国家発改委副主任就任，17年同主任就任・中央委員当選，と**旧主の歩みを一部重ねながら出世して来た。外交部・**

**国防部に次ぐ序列３位の中央省庁の長は，純「閩江旧部」の中で一番高い到達点**である。

習近平は**省委書記に成れず省長代理・省長の任期も短い所為か，福建時代の有力人脈は長い歳月の割には浙江・上海時代と比べて抜きん出る程ではない。政治局委員の中の「閩江旧部」は黄坤明**（1956～　）**・蔡奇**（1955～　）だけで，黄は 82 年から故郷の龍岩市で勤務し 98 年に市長に当選し，蔡は 83 年の省委辦公庁総合処副処長から始まって 97 年に三明市市長と為ったが，共に 99 年に一足早く浙江に異動し，其々湖州市市長・嘉興市委書記と台州市委書記の在任中に習の部下に当るので，**「閩江旧部＋之江新軍」の複合属性**を持つ。

黄坤明は 2007 年 6 月に省委常委・宣伝部長，10 年 1 月に杭州市委書記，13 年 10 月に中宣部副部長（部長＝劉奇葆［1953～　，政治局委員・書記処書記］），翌年 12 月に常務副部長と**出世街道を歩み続けた**，蔡奇も 2007 年 4 月に杭州市市長，10 年 1 月に省委常委・組織部長，13 年 11 月に常務副省長，14 年 3 月に中央国家安全委員会（主席＝習近平）初代辦公室副主任（主任＝栗戦書），翌年 4 月に同常務副主任と昇進を重ねた。**習の上海行きの前後に加速し始めた両者の栄転**は，この時点で共に**閣僚待遇の中央要職の獲得**に至った。

**習近平・曾慶紅・劉鶴等多くの高官子女が入った北京 101 中学は，中共の根拠地から北京に移った唯一の学校で「紅色揺籃（あかいゆりかご）」の伝統を持つ。前身の張家口（河北）市立中学の成立は毛沢東の党首就任 3 周年の日（1946.3.20）に巡り合せ，校名の番号は第 2 次国共内戦中の林彪の暗号名として軍・政界で広く知られていた。**司令官・政治委員・参謀長を No.1～3 とする制度に由る東北野戦軍の「101 首長」とは関係無く，1955 年 9 月に改称された**同校の「一零一」は，「百尺竿頭（かん），更進一歩」（百尺竿頭，更に 1 歩を進む）との意味**である。

『景徳伝灯録』（宣慈禅師道原［生歿年不詳］著仏書，印度（インド）・中国歴代の禅宗の伝灯法系諸師の伝記の収録，1004 年成立）の「百尺竿頭須進歩，十方世界是全身」（百尺竿頭須（すべから）く歩を進むべし，十方世界是（これ）全身）に由来した件の成句は，工夫を尽した上に更に向上の工夫を加える事，十分に語り尽した上に更に言葉を添える事が原義で，現代では**学問や成績が既に高い程度に至った後も猶努力し続ける**事を表す。郭沫若は校名の揮毫・校歌の作詞と共に 8 字を**校訓と定めたが，「中共語」の「進歩」は昇進の意も有るから功名心の鼓舞にも為る。**

**鄧小平時代以来の為政者の「国民総産値（G D P）至上主義」の深層には，古来の「政績」（政治業績）追求志向が見え隠れする。校訓で「百尺竿頭，更進一歩」の意識を刷り込まれた習近平等は，現状に満足せず常に進取して行く貪欲な根性が身に付いている。**奇しくも 101 中の命名の年の「101 首長」林彪の 48 歳の誕生日（12.5）に生れた蔡奇は，51 歳時に**仕途の「更進一歩」**を遂げ，2016 年 10 月に北京市委副書記・市長代理，翌年 1 月に市長，5 月に市委書記に任命され，浙江で省都の党･政首長等の類似の職位に就いた黄坤明より注目を集めた。

**中央委員候補でもない平党員が中央直轄市の市委書記を務める異例**として，**常規が破壊された「文革」時代を除いて，第 2 次天安門事件後の天津の譚紹文**（1929～93，89.6～

93.2）と，**直轄市に昇格**（97.6.18）**後の重慶の張徳隣**（1939～　，95.10～99.6 在任）が有る。市政協主席の譚は政治局常委・書記処書記に昇任する李瑞環の後任に充てられ，別の**特殊な事情**に由り張は非直轄市時代からの継続担当で例外と為る。**蔡奇が史上初の非中央成員として北京市委書記に任ぜられた事は，首都の無類の重要性と照らせば奇異な抜擢が訝れる。**

譚紹文は市政府秘書長在任中（1982～88）の 2 回の党大会に於いて，**職位の低さや地域枠の制限で中央委員会の選外**に在ったが，市委副書記（3 人中 1 位）から書記に昇格した後は第 14 期中央委員・政治局委員と為った。重慶直轄市の初代市長蒲（ほ）海清（1941～　，～99.6 在任）も 3 ヵ月後の「15 大」で中委に選ばれ（次期再選），張徳隣以降の市委書記も 3 期目の前交通相（91～2002）黄鎮東（1941～　，02.10～05.12 在任）だけが平の中央委員（第 14～16 期）に終り，他の 6 人は**人口 3 千万台の直轄市の地位に相応しく政治局入りした**。

北京市委責任者の中で初代第 1 書記（1948.12～66.5）の彭真は政治局委員・書記処書記，次（66.5～67.4）の李雪峰は書記処書記・政治局委員候補（市委第 1 書記就任の 2 ヵ月後に追加選出），市委再建後の最初（71.3～72.3）の謝富治は政治局委員，後任の呉徳（1913～95，72.10～78.10）も翌年に政治局委員と為った（2 期）。「文革」後の林乎（こ）加（1916～2018，78.10～81.1 在任，市革委主任 / 市長兼務）は，**初の平の中央委員**（第 11～12 期）であるが，前・後に務めた天津市委第 1 書記（78.6～）・農業 / 農牧漁業相（～83.6）の様に**大物**である。

**鄧小平時代の段君毅**（1910～2004, 82.10～84.5 在任）も中委（第 10～11 期）止りながら，第 1 機械工業相（60.9～70.6）・鉄道相（76.12～78.12）・河南省省長（78.10～79.9）・同省委第 1 書記（同～81.1）の経歴も立派で，**中顧委常委**（2 期）**の政治局委員待遇で党の指導者の列に入った**。「第 1」の称号が無くなった後の書記李錫銘（1926～2008，84.8～92.12）は，城郷（都市・農村）建設・環境保護相（初代，82.5～）からの転任で，中央委員 1 期を経て 87 年に政治局委員に当選し，それで**北京市委責任者の政治局入りの伝統は復活した**。

**江沢民時代前期の陳希同**は中央委員 2 期を経て，筆頭副書記から**市委書記に昇任すると共に政治局委員と為った**。彼の失脚後の尉行健（1931～2015，95.4～98.8 在任）は，第 12 期中委候補に当選した後 3 年後の全国代表会議（85.9.18～23）で委員に追加選出され，次期再任後に第 14 期政治局委員→第 15 期常委に進んだ。中組部部長（1985.7～87.5）・監察相（87.6～93.3）後の中紀委書記（92.10～2002.11）・全国総工会主席（93.10～02.12）との兼務であるが，**北京市委書記経験者の政治局常委就任は彭真をも超えて画期的**と言える。

江沢民時代後期の賈慶林（1997.8～2002.10，97.2～99.2 市長）は中委 1 期目に就任し，翌月の政治局委員当選を経て第 16～17 期政治局常委（02.11～12.11），第 10～11 期全国政協主席（03.3～13.3）を務め，**国政要職の関係で序列が総書記・全人代委員長・総理に次ぎ**第 1 号の尉行健より 2 位高い。**胡錦涛時代の劉淇**（き）（1942～　，2002.11～12.6，99.2～03.1 市長）は，**北京 101 中学卒業生の中で逸早く閣僚と為り**（冶（や）金工業相，93.3～98.3），第 14

期中委候補→第 15 期委員の昇格後，**北京市委書記と重なる任期で政治局に 2 期在籍した。**

習近平時代前期の郭金龍（1947～　，2012.7～17.5，08.1～12.7 市長）は，第 15 期中央委員候補・第 16 期中央委員と為る期間中に，西藏（チベット）自治区委書記（00.10～04.12）・安徽省委書記（～07.12）を歴任し，中央委員 2 期目の終盤の北京市委書記就任の 4 ヵ月後に政治局入りした。**「19 大」前の蔡奇の北京市委書記就任は政治局委員との一体化が定石と為った以上，平党員が一躍中央指導部に入る為の高等戦術**である。**黄坤明は中委候補から政治局委員・書記処書記・中宣部長に抜擢されたが，蔡や楊暁波の 3 段跳びは彼より 1 段上回った。**

**政治局入りした「之江新軍」の最年少者陳敏爾**（じ）（1960～　）は，87 年の**浙江紹興市委宣伝部勤務が政界入りの起点**で，紹興県委宣伝部長→書記・寧波市常務副市長等を歴任した後，99 年 12 月に『浙江日報』社長と為り，2001 年 12 月に省委宣伝部長に昇任し，07 年 6 月から常務副省長を務めた。**同省で仕えた習近平の党首就任の前後**の 2012 年 1 月・13 年 1 月に，貴州省委副書記・省長に任命され，15 年 7 月・17 年 7 月に貴州省委・重慶市委の書記に抜擢され，第 17～19 期中央では委員候補→委員→政治局委員へと**順当に昇進した。**

**もう 1 人の純「之江新軍」の李強**（1959～　）は 83 年の浙江瑞安県団委書記から出発し，温州市委書記就任（2002.4）の後に**省委秘書長**（04.11～12.5）を務め，後の**上海市委の丁薛祥と同じ大番頭役で当地降臨中の習近平に仕えた。**省委常委（2005.9～）→省政法委書記（11.2～12.12）→省委副書記（11.11～）の昇進を経て，習時代の暁に省長代理（12.12）・省長（13.1～）にも任命された。**習「核心」確立の 4 ヵ月前・後**（2016.6，17.2）**に江蘇の省委書記・省人大主任と為り，習体制 2 期目発足の 17 年 10 月に上海市委書記に栄転した。**

李強は「18 大」で中央委員候補に当選され（171 人中得票順で 16 位），**7 中全会（2017.10.11～14）で史上最多（15 人）の成員に対する処分・除名に伴って，史上最多（11 人）の候補委員→委員の昇格の一員**と為った。同月 25 日の 19 期 1 中全会で政治局委員に当選され，4 日後に常委会入りの韓正の後任を継ぎ，**長江下流「金 3 角」（上海・江蘇・浙江）の No.1 を全て経験する第 1 号に為った。上海市委責任者も北京並みに政治局入りは当り前の様**なので，**常委就任も珍しくない実績を思えば次期体制を睨**（にら）**む「習家軍」の戦略が読み取れる。**

**2017 年 1 月に上海市委専職（専務）副書記**（14.7～）**から市長に転任した応勇**（1953～　）も，**習近平の浙江時代の同省紀委副書記**（03.7～）**・高級人民法院院長**（06.1～）で，習の上海離任後に同市の高級人民法院院長（08.1～），市委常委・組織部長（13.4～）を経て，党・政の No.2 の高位に相継いで就いた。**半「閩江旧部」の黄坤明・蔡奇に陳敏爾・李強を加えた「之江新軍」の「4 天王」の他，平の中央委員の応**（第 19 期）**等の「習家軍」は一定数居り，相乗効果の最大化を図る様に政治・経済・軍事の要地・要所に配置してある。**

## 紐帯――「太子党」の擡頭と門閥・派閥・業界閥の隆盛

**第19期政治局委員の「習家軍」の唯一の正真正銘の軍人**は，中央委員1期から昇格し**同時に軍委副主席と為った張又侠**（1950～　）である。張は**「又」を含む「友」**（同音のyou），**「侠」と字形が通じる「陝」の通り，原籍陝西**（渭南市）**・北京生れの出自は習近平と同じ**で，**父親同士の戦友（西北野戦軍の副司令と副政治委員）の絆にも由来した親密な関係に在る。軍委副主席は1997年以来の慣例に由って自動的に政治局に入る**ので，**倶に2期目の許其亮**（同年齢，**元空軍司令**［2007.9～12.10］，空軍上将）**に次ぐ指定席は彼に与えられた。**

張又侠は1968年12月に第14軍（軍部＝昆明）40師119団に入隊し，79年の**対越南国境戦争での活躍**に由り83年に団長と為り，翌年の老山戦役で2回（4.28，7.11）越軍の要塞を迅速に攻め落す功績を立て，後に40師師長を経て少将（97年授与）時代の第13集団軍軍長（2000.12～05.12），中将・上将（同07・11年）時代の瀋陽軍区司令・総装備部部長・軍委装備発展部部長（07.9～12.10，～15.11，～17.8）に昇進した。**史上2番目の父子上将の誕生，父と同じ軍の枢要の総部部長の担当で軍界の明星として脚光を浴びている。**

**最初の上将父子は張震**（1914～2015，初代中将，88年昇進）**・張海陽**（1949～　，09年授与）で，張震は張又侠の父宗遜の総後勤部主任（73.6～78.2）の後任（～80.1）に当り，副総参謀長（80.1～85.3）も彼（54.10～69.12）より遅いが，国防大学校長・政治委員（85.11［初代］/90.4～92.11）の後，**鄧小平に江沢民体制の補佐役を託されて軍委副主席**（92.10～97.9）を務めた。**両「副軍頭」中1位の劉華清は同時期の政治局常委**（7人中6位）と為ったが，彼は**第11期中委候補・次期中委後の1期空白から中委に復帰しただけ**である。

**史上最高齢（78～83歳）の軍委副主席担当は軍に基盤が無い軍委主席の苦境を物語る**が，**高齢に由る張震の記録は享年100で開国中将177人中の最後の物故者と為った事も有る。抗日戦争・第2次世界大戦終結70周年の日（9.3）に世を去ったのは老軍人の天数**らしく，**建国後の慣例を破った当日の習近平の大閲兵と合せれば古い時代の終焉を改めて感じる。**彼は**息子の少将授与の翌年に90歳で逝った張宗遜よりも幸せで父子上将の実現を見た**反面，3男張海陽より1歳年下の4男寧陽が2ヵ月前（7.3）に早逝した事の苦痛を味わった。

**「将門無犬子」（将軍［・宰相］の一門には犬の様な［不甲斐無い］子は無し）**と言う様に，張震の長男小陽（1941～　）・次男連陽（1944～）・4男・独り娘（第5子）燕陽（1952～　）の夫寿暁松（1950～　）は全て少将で，其々解放軍外国語学院院長，総参謀部軍事代表局局長，総装備部総合計画部部長，軍事科学院戦争理論・戦略研究部部長を務めた。張海陽の第27集団軍・成都軍区・第2砲兵（2015.12.31「火箭軍」に改称）の政治委員（1996.9～2002.7/05.12～09.1/～14.12）は兄弟中の抜群の出世であるが，父を超えずに退役した。

同じ父子上将の張宗遜は初代授与で又俠は軍委副主席・政治局委員だから第１号に勝るが，**子が親を上回る点では 21 組の父子中央委員の中で冷戦後の主流に入る。陳独秀と第５期中委の長男延年**（1898～1927，同期政治局委員候補）**・次男喬年**（1902～28）**に対し，片方が党首のもう１組は習仲勳父子**である。政治局在籍３期で**習近平体制１期の常委**（全国政協主席につき４位）**兪正声**（1945～　，元建設相・湖北省委書記・上海市書記）も，**父兪啓威**（**黄敬**，初代天津市長兼市委書記・第１機械工業相，第８期中委）**の比ではない**。

**親子中央委員に３回有る第２世代の政治局常委会入りは，胡錦涛時代前期の曾慶紅**（7人中５位）**が最初**である。**父曾山**の第7～9期中委と紡績工業相（1949.10～52.8）・商務相（～56.11）・中央交通工作部部長（～60.11）・内政相（～「文革」初）と比べて，中委２期・政治局在籍２期（内委員候補１期）と中央辦公庁主任（93.3～99.3）・組織部部長（～02.10）・書記処書記（97.9～07.10，１期目は７人中末席，２期目は同筆頭）・中央党校校長（02.12～07.12）・国家副主席（03.3～08.3）は，**出藍の誉れに値する２段も格上の大出世**である。

**親子とも政治局入りした２組中の１番目は，習仲勳・近平に先行した李維漢**（1896～1984）**・鉄映**（1936～　）である。**父の方は 1927 年に**第５期政治局委員兼中央秘書長・臨時中央常委会委員・臨時政治局常委・組織部部長と為り，後に**政争に由る中央委員会成員除名**（31.1～34.1）**を含めて浮沈を繰り返した**。建国前～「文革」前に初代統戦部部長（1948.10～64.12）・政務院秘書長（49.10～53.9）・国家民族事務委員会主任（同～54.9）・全人代副委員長 / 全国政協副主席（54.9 / 12～64.12）を務めたが，**政治局への復帰は１度も無かった**。

李維漢は３回結婚し３男･3女を儲けたが，次男（第５子）鉄映は２番目の妻金維映（1904～41）との唯一の子である。**金は 1932 年に鄧小平**（同年は瑞金県委→会［昌］尋［烏］安［遠］中心県委書記）**の再婚相手と為り，翌年に夫が王明路線の迫害で省委宣伝部長解任・左遷を強いられると忽ち離婚し，批判・処分を仕切った中組部部長李維漢と結ばれた**。父と「維」を共有した母の名前から１字を取った**李鉄映は，鄧の生涯最大の屈辱的な傷心事の所産**であるだけに，**鄧の治下で大出世を遂げたのは鄧の器量と時代の要請を感じさせる**。

李鉄映は 1978 年に第４機械（電子）工業部の研究所（瀋陽）に転勤し，遼寧省科学技術委員会副主任の兼務が政界入りの第１歩と為った。瀋陽市委書記と遼寧省委書記（第１書記制撤廃後の副書記に相当）に就任した 1981・83 年の間，82 年に中央委員候補に当選し，**87 年に政治局委員に昇格し３期務めた**。一方，電子工業相（1985.6～88.4）・国家経済体制改革委員会主任（87.4～88.4，93.3～98.4）・国家教育委員会主任（88.4～93.3）・中国社会科学院院長（98.3～2003.1）・全人代副委員長（03.3～08.3）として，**順調な仕途を歩んだ**。

**李鉄映の最初の閣僚経験は電子工業相江沢民**（1983.6～85.6）**を継ぎ，３期後の同職は前政治局常委・書記処筆頭書記の胡啓立**（93.3～98.3）である。12 期５中全会（1985.9.24）で政治局委員に追加選出された胡は次期党首候補で，李と同期で政治局入りした江は趙紫

陽・胡の失脚で総書記に進んだが，**鄧小平時代の経済・科学技術重視を反映して技術官僚が重宝された**。電子工業部の改称後の李の後任（～1989.12）と為る機械電子工業相鄒（すう）家華（1926～　）も，88・91・92年に計画委員会主任・副総理・政治局委員（1期）と為った。

李鉄映が第2・5期を務めた体改委主任の第1・3・6期は，趙紫陽・李鵬・朱鎔基総理が担当した（1982.5～87.4，88.4～90.9，98.4～2003.3）。国家教委・体革委（2回目）主任は国務委員との兼任であるが，副総理に準じる国務委員の格は3総理が兼ねた要職や，党指導部から退いた後の全人代副委員長（2003.3～08.3）の15人中2位（1位は王兆国）と合せて，**元老の父親以上の貢献への期待に相応する任用・待遇**に他ならない。**李維漢の政治局成員歴は非常事態下の臨時常委を除けば，平和時代の正常局面中の息子に超えられている。**

**李維漢は毛沢東が劉少奇と激突した1964年末に批判・解任され，迫害の末75年に毛の「終活」の「荷物処分」の1環か湖北咸寧市に下放された。帰京・名誉回復後の「文革」清算で鄧小平に封建主義の悪影響の除去を唱え，賛意を得て鄧が主任と為る第1期中顧委の副主任に選ばれた**（薄一波・許世友・譚震林に次ぐ末席）。**失脚歴が2年長く監禁後に地方へ流された習仲勳は同じ1982年に政治局委員と為り，15年後に習近平の中央委員当選で新しい父子中委が現れ，更に5年後に近平は李鉄映と同じく2段跳びで政治局入りした。**

**妻を奪った李維漢に私怨を持たず公正に処遇しその子を重用した鄧小平は，「（器）量が小さければ君子に非ず」という格言の通り大人（たいじん）の胸襟（きょうきん）を示した。同じ1980年代に断行した民主化運動への武力鎮圧**は下の句の様に，**「毒（残忍さ）が無ければ丈夫（じょうふ）（立派な男）ならず」の一面を現したが，李との「劫波を度り尽して兄弟在り，相逢うて一笑すれば恩讐泯ぶ」が出来たのは，金維映は中央紅軍長征に参加した30女傑の一員として公私共に両者の敬・愛に値し，2人の老革命家は同じ志と共に党内闘争の被害体験も其々有る故であろう。**

李鉄映は父も母の前夫も最高指導部成員経験者なので，**「太子党」（中共高官の世襲的な特権等を受け継いだ子弟）の走り**とされるが，**2世政治局委員の第1号には天命も感じられる。「太子党」の軍人版「太子将」**（造語）の名門と為る張震一族は息子・娘婿だけでなく，長男小陽・3男海陽の岳父も将軍（呉克華中将［1913～87，砲兵司令と成都・広州軍区司令を歴任］，孫克驥（き）少将［1917～2005，元南京軍区副政治委員］）である。**党・政・軍高官及び子女の姻戚人脈は万国共通の閨閥結成に近い**が，**李の岳父も超大物の元党首博古**である。

本名秦邦憲の博古は北宋の詞人秦観（1049～1100）の第32代孫で，**瞿秋白と同じく文人気質の所為で対敵・党内の闘争に長けず敗北した**。2度の結婚で儲けた3男・3女の内，次男（第？子，1936～2010）の名を付ける際に仕事に没頭し過ぎた故，長男（第？子，生歿年未詳）と**同じ「鋼」**にして了（しま）った。「大秦鋼」「小秦鋼」の呼び名で区別した兄弟に次ぐ3男（末子，1940～2012）は**「鉄」と命名された**が，次女（第？子，1938～　）新華が嫁いだ**李鉄映も同父異母の弟鉄林**（1943～　）**も，スターリンの名前の意の「鉄鋼の人」を含む。**

**2世政治局成員第2号は第8期政治局委員候補の薄一波を父に持つ第16期委員の薄熙来**で，彼は**2番目の妻谷開来**（1958～　）**の本名「開莱（らい）」を同音異字に変え，李維漢・金維映と同じく名前に1字を共有する夫妻**と為った。**「大丈夫主義」（亭主関白）**の彼は再婚（1986）後，「夫唱婦随」の伝統は廃れていても「婦随夫名」（妻が夫の名に随（したが）う）は可（よ）かろうと主張した。**先人の事業を継承し未来を開拓する意の熟語「継往開来」に因んだ英雄志向**も有ろうが，この熟語は**革命家・企業家等の奮闘にも「太子党」「紅2代」等の世襲にも適用する。**

**谷開来の父景生**（1913～2004）は建国直後の第15軍政治委員兼昆明市委書記を経て，軍長（同じ初代）秦基偉（1914～97）と共に3個師を率いて朝鮮に赴き，第5次戦役（1951.4.22～6.10）・上甘嶺戦役（52.10.14～11.25）の主力を担った。1952年10月12・14・19日に**捨て身の犠牲**を遂げた邱少雲・孫占元・黄継光（歿年26・27・21）は，**中共軍の伝説**を為している。**栄光の継承・発揚の意志**を込めて，同軍は61年に初の空挺部隊として空降15軍（軍部＝湖北孝感市）に改編されたが，**特級英雄の輩出は政治工作の首長の手柄でもある。**

中共軍の**歴代「王牌（エース）」部隊の中で最も誉れ高いのは，東北民主聯軍第1縦隊**（1946.8組成）**を前身とした第38軍**（48.11改編）である。同軍は朝鮮戦争第2次戦役（1950.11.7～12.24）で全局の勝利を導いた苦闘（三所里・龍源里，11.28～12.1）に由り，**彭徳懐司令の同軍・関連部隊への表彰通報で「卅（さんじゅう）八軍万歳」と激賞され，その掟破りの賛辞から「万歳軍」の美称が定着した。彭が指揮した湖南平江蜂起**（1928.7.22［創設記念日］）**に源頭が在る**同軍は，最精鋭の名声に愧（は）じず全軍初の機械化師・「数碼（デジタル）化」師を整備した（1983，2014?）。

**第38軍の祖形は建党7周年の前日に決起した湘軍独立第5師の中共勢力**であるが，**彭徳懐は31年後に毛沢東の廬山会議「7.23」講話で批判され失脚した。**彼は朝鮮戦争の第1次戦役（1950.10.25～11.5）で戦機を逸した第38軍に立腹し，司令部の会議で梁興初軍長（1913～85）を罵倒し挽回の闘志に火を点けた。**愛の鞭で「万歳軍」の英名を勝ち取った**梁は中将授与後，1967・69年に成都軍区司令・中央委員と為ったが，**林彪事変後の非情な粛清**で「路線の誤り・宗派主義」を断罪され，山西の工場に下放され8年後漸く不処分が決定された。

**第15軍は数万人戦死の代償を払った上甘嶺保衛戦の辛勝で「千歳軍」と呼ばれる**が，**「一将功成万骨枯」（一将功成りて万骨枯（か）る）**という晩唐の詩人曹松（830?～901?）の7絶「己亥歳」（己（き）亥の歳）の句を証す様に，**最大の功労者の秦基偉**は初代中将と為った後に**断続的ながら昇進を重ね**，昆明・成都軍区司令と北京軍区政治委員→司令（1957～67，73～75，～87）を経て，88年に上将昇進・国防相就任（1期）に至り，中央委員3期（第11～13）・政治局委員候補と委員各1期も務め，93年に全人代副委員長当選で**引退への花道を作った。**

**第15軍の軍・政首長の停戦・凱旋後の境遇は対照的**で，谷景生は少将授与と防空軍副政治委員・国防部5院（誘導弾（ミサイル）研究院）政治委員・総政治部群衆工作部副部長担当に止り，**「右派分子」にされた妻**范承秀（1922～　）**との離婚を拒む所為で降格任用と為り，「文革」初**

**から12年も監禁され**，78年12月に広州軍区副政治委員として復帰し，中越国境戦争に参加した後81年1月に新疆自治区党委第2書記・新疆建設兵団第1書記・第1政治委員に就任した。**政争の被害を散々（さんざん）蒙った彼の死後，皮肉にも5人娘の中の末子が加害者と為った。**

**秦基偉の将軍授与の1955年に生れた長男衛江も2歳年下の次男天も彼の道を歩み**，秦衛江は2006年に27集団軍軍長，10年に南京軍区副司令，12年に中将，16年に東部戦区副司令兼戦区陸軍副司令と為り，秦天は15年7月の軍事科学院副院長で当時**唯一の兄弟とも副大軍区首長待遇の現役将軍**に為り，同年12月に中国人民武装警察部隊参謀長に転任し，翌年に武警中将に昇進し，17年に副司令に任ぜられた。子女3人中の末子畹（えん）江の**夫楊東明**（1949～　）は**楊成武の息子**で，2005年に空軍副司令に就任し最終階級も空軍中将である。

**楊成武は京津衛戍司令・北京軍区司令として1954～58年の国慶節閲兵総指揮を務め，縁戚の秦基偉も北京軍区司令在任中の84年に建国35周年閲兵を司った。**楊の8人の子供中2女俊生（1941～　）は96年に武警初の女性将軍（専門技術少将）と為ったが，『空軍報』在籍中の未婚の長女毅（1940?～72）と余立金（1913～78，空軍政治委員，中将）の秘書単世充（1931～　，妻帯者）の不倫が契機で，楊成武・余は呉法憲と衝突し共に失脚し，楊毅は下放先の河南滑県で迫害死を遂げ，**親と連動する高官子女の「高危（ハイ・リスク）」の一面**を思わせた。

**谷景生の長女望江**（1947～　）は**香港（ホンコン）籍の実業家**で，**4女望寧**（生年未詳）**と共に91年に香港（ホンコン）で喜多来集団を創った。2女政協**（同）は中国機械工業集団**紀委書記**で，**夫劉沛（はい）**（同）は駐国連軍事参謀団団長を務めた**少将**である。**3女丹**（同）の**夫李小雪**（1948～　）は中国証券監督管理委員会**紀委書記**（2003～11）・**中紀委委員**（07～12）を歴任し，**李雪峰の長男**（第3子）**小雪の妹丹宇**（1950～　）は**薄熙来の初婚相手**である。**谷開来が義兄の妹の前夫に嫁いだ事で両家は微妙な関係に為ったが，高官家族の離縁や複雑な結縁は珍しくない。**

**中共の治下では本人の意向を構わず婚姻を結ぶ「包辦（一任処理）婚姻」は否定され，政治利用の為に当事者の意思を無視して子女を婚姻させる政略結婚も少ない。**和製漢語「閨閥政治」（婚姻関係等に由って結ばれた集団に由る政治）の「閨閥」は，妻の一族を中心に結ばれた人の繋がりの意であるが，**姻戚関係を諷刺的に表す中国語の「裙帯関係」**も「裙帯」（スカートの紐（ひも））から，**男が妻やその実家の御蔭で優遇を得る関係**の形容と為る。女に働かせて金を貢がせる男を蔑（さげす）んで言う日本語の「紐」と通じ，**体裁が悪い物として敬遠される。**

**政略結婚は古代の中国や欧州等から今昔（こんじゃく）の日本まで行われており，国民党の「4大家族」も自民党と前身の保守政党から出た一部の首相も同一閨閥に属する。**小説家山崎豊子（1924～2013）は長篇『華麗なる一族』で，都市銀行頭取万俵（とうどりまんぴょう）大介が執事兼愛人高須相子の周旋で財政界大物の子女や有力官僚閥との縁戚関係を築く工作を活写している。『週刊新潮』連載（1970.3～72.10）～新潮社刊行（73.4）の頃の中国では，**毛沢東の理想と「文革」の状況に由って，婚姻を梃に一族の権勢拡大を図る門閥形成・維持・強化の作戦は見られない。**

毛沢東の長女李敏は北京師範大学在籍中の1959年に，北京81学校の同窓で北京航空学院に在学中の孔令華（1935～99）と結婚したが，毛への事前報告の際に相手の父親の氏名・職業を訊かれて困った。恋愛は親と関係が無いから訊ねていない故，81学校の大半の生徒と同じく親は軍幹部だろうとしか答えられなかった。後に砲兵副司令の孔従洲（しゅう）中将（1906～91）だと判明し，改めて伝えると毛は「孔将軍なら可（よ）く知っている」と安心した。**子供の「終生大事」は当人が決める主義**の毛には，**政治的な危険性さえ確認できれば問題が無い**。

毛沢東と前妻の間の子女に冷たい江青の排斥も有って2人は毛の恩恵に与（あずか）らず，国防工業委員会に勤務した孔令華は高い職位に就かなかった。毛の次女李訥は「文革」初期に『解放軍報』・中央文革辦事組の責任者，1974・75年に北京平谷県委書記・市委書記と為ったが，70年に江西進賢県「5.7幹部学校」で労働している期間中，中央辦公庁北戴河管理処所属内部招待所（ゲスト・ハウス）の服務員（サービス・マン）徐某（生年未詳）に恋をし，毛が江の反対を抑えた結果2人は結婚した。2年後に性格の不一致で離婚したものの，**婚姻の自由を尊重する毛の美談**にされた。

**晩年の毛沢東は弟沢民の息子遠新**（1941～　）**を我が子の様に寵愛し**，遼寧省革委副主任・瀋陽軍区政治委員及び**自分と政治局の連絡係の重責を与えた**。毛遠新は名門の**北京101中学**から高校卒業を繰り上げて**清華大学**無線電学部に入った後，**推薦入学を不名誉に感じて入試で哈爾浜（ハルビン）軍事工程学院**誘導弾（ミサイル）学部に転学した。彼は**1972年に上海の紡績女工**全秀鳳（生年未詳）**と結婚し，王洪文が紹介し江青も首肯した配偶者の選択は無産階級（プロレタリア）を尊ぶ観念に沿い，上海出生・在勤の妻を娶る事も産業労働者密集の同市に対する党首の重視に合う**。

**李訥の夫として高官の子弟は望ましくないという毛沢東が決めた枠組**で，江青は娘の婚活を極秘に進め浙江省委副主任**張永生**（1940～　）**に白羽（しらは）を立て**た。張は浙江美術学院版画学部の学生から同省最大の造反組織「浙江省革命造反連合指揮部」（1966.12.30結成）の頭（「勤務組」［執行部］筆頭成員）と為り，貧農家庭の出身で絵も話術も巧いから江の好感を得た。然し江が頼んだ張春橋の面接で傲慢・未熟が露見し，話が流れた後は予感通り暴走し，1974年の「第2武装」私設と大規模武闘の惹起に由り，79年に無期懲役に処された。

**毛遠新と同じ「豆豆」の愛称を持つ林彪の末娘立衡は，「9.13」の前夜に李訥の失敗した初婚の相手の勤務地の北戴河で婚約式を挙げた。婚約者**の張清霖（生年未詳）は鍛冶職人の家庭で育った**一般人**で，**親の「選駙馬」（皇帝［又は貴人］の娘婿の選考）の結果ではない。葉群主導の「選妃」（妃選（きさき）び）で見付けた林立果の婚約者は，南京軍区政治部前線歌舞団の踊り子（ダンサー）張寧**（1949～　）である。父親の張富華大佐（1912～57）は階級の低い故人なので門閥の打算が無く，**良い遺伝子を遺すのに必要な才色兼備や徳智体「皆優（オールA）」が求められた**。

**父子中委には鄧小平と長男**（第2子）**朴方**（1944～　，**第15～16期委員候補**），**次女**（第3子）**楠**（なん）（1945～　，**第17期委員**）**も有る**。前者は**1968年8月に造反派の虐待に抗議する跳び下りで半身不随と為り**，80年代後半から中国身体障害者基金会・連合会の責任者を

務め，2008年に**全国政協副主席**に当選したが，妻高蘇寧（生年・結婚年未詳）は解放軍第81医院骨科（整形外科（げ））の医師である。後者は国家科技委員会副主任・**科学技術部次官**を歴任したが，**夫張宏**（生年未詳）の中国科学院科技開発局長は**縁戚出世とは断じ得ない**。

**3女鄧榕**は就職（総政治部勤務）3年目の1979年に入党し，同年元日の国交樹立に伴って開設した駐米大使館の3等書記官（華僑事務担当）と為った。**改革・開放元年の赴任先は人気の高い先進国在勤の中でも世界1の超大国**で，後の劉沛（谷景生の婿）の駐加奈陀（カナダ）大使館武官等よりも**地の利**が一段と高い。**夫賀平**（1946～　）は同時期に総参謀部派遣の武官補佐を務め，後に総参装備部副部長に昇進し88年に少将が授与された。**鄧家の唯一の将軍は「太子党」の経営進出の1番乗りに当るが，結婚**（7?）**の時には政略は全く無かった。**

鄧小平の**長女林**（1941～　）は北京画院で花鳥創作室副主任を務めた73年に，北京有色金属研究総院技師の**呉常建**（1939～2018）と結婚した。呉は1984年に中国有色金属工業総公司副社長として**官僚兼実業家**に転身し，94年の社長・党組書記就任を経て97年に**冶金工業部次官**と為った。**画家**の鄧林と対照的に弟・妹の朴方・楠は中央委員会入り**閣僚待遇**を獲得し，一番下の弟**質方**（1951～　）は80年代前期に**米国で物理学博士号を取得し**，帰国後**技術者→実業家**の道を歩んだが，**鄧の子女5人は彼と共に「文革」の受難を経験した。**

就職した鄧林と障害者の鄧朴方は「上山下郷」を免れたが，鄧楠は北京大学技術物理学部から陝西寧強県高寨子村，鄧榕は北京師範大学附属中学から同省富羊県羊泉公社郭家大隊に，鄧質方は同校から山西忻（きん）県奇村公社李村大隊に行かされた。江西下放中の鄧小平の中央宛の懇願に由り，榕・質方は1972年に江西医学院・江西工学院に入学し，復権（73）後に北京医学院・北京大学物理学部に移籍した。鄧は**子女の体験で「工農兵学員」の低い水準を実感したが，裏口入学が出来ない無数の若者は中学生並みの再教育すら受けられなかった。**

**敗走赤軍を収容した陝西は毛沢東の「新長征」で，「革命小将（若い闘士）」「知識青年」を捌く受け皿と為った。呂正操**（1904～2009，中央委員，鉄道相・鉄道兵第1政治委員，上将）**の次女**（第？子）**彤岩**（19??～　）も，中国医科大学卒業後71年に**鄧榕の下放先の近くの農村に医者として配属された**。彼女はある日「賀平という男を紹介してあげる。きっと貴女と気が合うのよ」と唐突に言い出し，**強引な紹介で湖南沅（げん）江県の軍墾**（軍隊に由る荒れ地開墾）**農場に居る賀平と鄧は文通を始め，2ヵ月後に賀は鄧家を訪れ正式に交際した。**

賀平は哈爾浜（ハルビン）軍事工程学院に在籍中，「中共中央非常委員会」（1967.10.9に北京で起きた冤罪事件）の成員として投獄され，1年4ヵ月後に証拠不十分で釈放され労働に従事した。第7期中央委員候補・東北民主聯軍副総司令だった呂正操も入獄中（1967.7～74.7）で，**毛沢東時代の人々には受難体験で結ばれる「難友」が多い**。白居易の7言古詩「琵琶（びわ）行」に有る「同是天涯淪落人，相逢何必曾相識。」（同じく是（これ）天涯淪（りん）落の人，相逢（あい）う何ぞ必ずしも曾て相識（し）らん）は，相手を写真でしか識らない儘に南昌駅で初対面した2人を形容できよう。

**賀平の父賀彪**（1909～99）は名医で，紅２方面軍・西北野戦軍の衛生部長と衛生部次官を歴任した。鄧小平は娘の恋人がその第３子だと聞くと彼は**有能で骨が有る**と褒め，賀も鄧は好い人だからその娘を守れと息子に言った。関りの少ない２人の**心が通じ合う**事も**婚約の即座成立の要因**であるが，貧農・下層中農出身の張宏が鄧楠と結婚した事への感激と同様に，**自分の失脚で累が及ぶ娘を大切にしてくれる人の有り難さ**も有る。賀彪は1977年に総後勤部副部長兼衛生部長として復帰したが，**両家の結縁の純粋さは疑う余地が有るまい**。

鄧小平は**経済再建に必要な外部資金調達**の為に中国国際信託投資公司（CITIC）を創り，1979年10月４日に発足したこの**国策金融集団の総帥栄毅仁**（1916～2005）は，上海の多業種工場を経営する**実業家として中共政権に協力し**，93年３月から**国家副主席を務めた「赤い資本家」**である。前任の副主席（同じ１期）王震の次男軍（1941～2019）は中信公司の創設幹部で，95～06年に会長まで務めたが，83年12月に**総参謀部装備部・中信が合同で創立した**保利科技公司では，王軍は初代会長兼社長賀平の下の副社長を経て89～93年に社長と為った。

米国の老舗（しにせ）（1930年創刊）経済誌*Fortune*（フォーチュン）（漢訳＝『財富』）では90年から，**総収益基準（ベース）に世界大企業500強**の順位（ランキング）を毎年発表している。**2019年版「全地球（グローバル）500」では中国勢が初めて米国勢を抜き**（129社対121社），**台湾勢を除く大陸（含香港（ふくむホンコン））勢の119社は前年より12社増**だから，次年度の発表を待たずに単独で首位に立つ公算が大きい。**16年連続増加の結果四半世紀前の1995年の３社の約40倍と為ったが**，対照的に**日本は終戦50周年に当る「“第２の敗戦”元年」の149社から52社に減り，常連各社の順位も下落傾向に在る**。

1995年の10傑は史上最円高（基準日［3.31］の1ドル≒86円）に由り，日本の三菱商事・三井物産・伊藤忠商事・住友商事が５年連続首位のゼネラルモーターズ（米国）を抜き，丸紅が前年２・３位のフォード・モーターとエクソン（同）を上回り，岩井商事が前年４位のロイヤル・ダッチ・シェル（和蘭（オランダ）・英国）の前に出た。**中国勢の初10傑入りは2009年の中国石油化工**（９位，日本勢は10位のトヨタ自動車）で，**翌年に同社と国家電網・中国石油天然気集団に増え**，7･8･10位がトヨタ・日本郵政（5･6）に劣るものの数では勝った。

**中国が日本に代って世界第２位の経済大国と為った直後の2011年度には，上記３社は５～7位に進んで日本２社の8～9位を超えた。翌年から中国３社の下に日本１社のみの構図は変らず**，期間中トヨタは2017年に自己史上最高の５位（1992～94，07～08・10）に並んだが，同年の①ウォルマート（米）②国電③中石化④中国石油は前年・次年も同じである。2019年には１位は不変，以下②中石化③ロイヤル・ダッチ・シェル④中国石油⑤国電と為り，トヨタは末席に踏み止まったが，**10年来不動の御３家の構成・順位の変遷は興味深い**。

「世界500強」公表（2019.7.22）の翌日に中国の報道は自国の躍進に歓声を上げたが，同日の**官製媒体（メディア）は李鵬元総理の死（22日夜11時11分）を受けて管制を敷き，「点賛」（「点撃（クリック）」して賞賛を送る）の計数取消や機能停止，笑顔や祝賀の表現・写真の掲載禁止が為された**。

それでも電脳網で訃報が出た途端に数万の「点賛」が殺到し，24 日の『北京青年報』（共青団北京市委機関紙）1 面の「李鵬同志逝世　享年 91 歳」の見出しの下に，国際数学 5 輪の優勝者6人が凱旋の際に満面の笑みで花束の贈呈を受けるという写真付きの記事が出た。

**慶事を大々的に伝える**報道の題「載誉帰来」（栄誉満載で帰来す）は，2016 年 2 月 20 日の『南方都市報』の記事題中の「媒体姓党」（媒体は党が姓［属性］）の下に，別の題の「魂帰大海」（魂は大海に帰る）を付けて**報道媒体の死を暗示する**事が連想された。1991 年 3 月 20 日の『人民日報』海外版に掲載された朱海洪の「七律・元宵」も，尤もらしい「東風拂面催桃李，鷂鷹舒翅展鵬程。玉盤照海下熱涙，游子登台思故城。休負平生報国志，人民育我勝万金。憤起急追振華夏，且待神州遍地春。」に，**深層に政権の No.2 を呪う絡繰が有った。**

在米留学生が筆名で編んだこの詩は，「東風面を拂いて桃李を催し，鷂鷹翅を舒げて鵬程を展ず。玉盤海を照らせば熱涙下り，游子台に登りて故城を思う。負くを休めよ平生報国の志，人民我を育てて万金に勝る。憤起して急に追え華夏を振わすを，且し待て神州地に遍き春」という述懐の様に見えるが，第 1 句の最後の字から第 7 句の冒頭の字と斜線で繋ぐと，「李鵬下台平民憤」（李鵬が下野すれば人民の憤りが収まる）の列が目に付く。**児戯めく「嵌字（字を嵌める）詩」での抗議は語り草と為り，李の不人気の証として歴史に遺った。**

「元宵」詩は 7 律の定型を厳格に踏まえておらず，振興の決意を表す「奮起」を同音異義の「憤起」（fènqǐ）と書くのも可笑しい。党中央機関紙がこの出来の悪い投稿を採用したのは，**当局への不信と国際的な孤立の中で海外在住者の愛国の熱意が有り難かった**為か。作者は愛国青年と共に**「憤怒的青年」**（「怒れる若者たち」の漢訳）でもあり，**既成の文化や社会体制に批判的**な 1950 年代の英国作家の流派に由来した「憤青」は，**中国では紅衛兵から「文革」後の新人類まで色々有る**が，此処の「憤」は**「6.4」惨事への義憤**に他ならない。

**李鵬は総理就任の翌年に拉薩戒厳**（1989.3.7 発令，翌日実施，90.5.1 解除）**を断行し，**翌々月に**建国後 2 番目と為る首都戒厳に踏み切り武力鎮圧への道を開いた。主な「政績」には「5.20 戒厳」の他 17 年後の同日に本体工事が完成した三峡堰堤が有り**，湖北宜昌市三斗坪に在る世界最大の堰堤の建設（1994.12.14～2009.8.29）は，推進派の彼の副総理時代（83.6～88.4）には賛否両論で決断されず，**新党首江沢民の支持が有ってこそ反対派を封じ込めて無理矢理に通った**ので，この**世紀の大工程は第 2 次天安門事件の副産物**と言える。

1992 年 4 月 3 日に第 7 期全人代第 5 次会議で三峡工程建設の当否に就いて表決が行われ，出席者 2 633 名の内に賛成 1 767 名，反対 177 名，棄権 664 名，無投票 25 名で採択された。**賛成の 67.1%**は可決に必要な過半数を超え重大事項採択の場合の 2 / 3 よりも多いが，**全人代は中共の決定を追認する「橡皮図章」（護謨判）と揶揄され今だに旧態依然**なので，**発足（1954）後 2/3 世紀の中の最大の波乱**に違い無い。**過半数を占める党員代議士は党指導部の推進方針に従わざるを得ない**から，**党外代表に多い不賛成は民意を大いに反映した。**

翌年 3 月 28 日の全人代総会の李鵬総理続投に関する投票で 210 名（12.5％）の反対が出て，**空前の大量不信任は首都戒厳・三峡建設の強行に対する不満の発露と見做せる。**彼は**鄧小平の 1985 年「1.19」指示が三峡工程の運命を決定付けた**と日記に綴り，**首都戒厳も鄧が裏で糸を引き彼は表で主役を演じたが，国運に関る政治・経済の命脈を弄(いじ)る両者の意志は一致した。**2006 年「5.20」の本体工事完工式典は 8 分で終り，**政治局委員・閣僚総欠席の中で政界引退後の彼も参列せず，誰も取りたくない責任から逃れない**立場が浮彫と為った。

**その副総理委託名義の式典すら無い最終完工から 10 年も経たぬ内，三峡堰(ダム)堤建設の諸々の副作用・後遺症が次々と露呈し，四川・湖北の 100 万人超の住民に対する退去強制，長江中・下流の環境に及ぶ悪影響等は，江沢民・胡錦涛・習近平時代の「安定」「和諧(かい)」「中国夢」志向を嘲(あざ)笑うかの如く，大衆の怨嗟と社会の不安を招き当局の深刻な心配事(ごと)と化した。李鵬の「安泰死」**（平穏・無事の死を表す造語）**を妨げる様に，**同月初めに歪みを示す衛星写真が電脳網(ネット)で拡散され，中国長江三峡集団は決壊の危険が無いとして火消しに追われた。

**李鵬の遺体告別式（7.29）が 7 常委全員出席・胡錦涛等欠席の下に執り行われた後，8 月 3〜6 日に中央第 7 巡視組は三峡集団党組に対し「常規巡視」を実施した。**国務院三峡建設委員会（1993.1〜2018.3，主任＝総理）所属の長江三峡工程開発総公司が前身で，その成立 16 周年の日（09.9.27）に改称した同集団は三峡堰(ダム)堤の運用主体に当る。2013 年の**中央巡視組の定期監査で汚職等の問題が表面化したが，**今回は**重大な危険性(リスク)の防止・解消に対する責任感の欠如や不作為・業績向上の不足，「廉潔問題」（腐敗）が容赦無く指摘された。**

日本の会計検査院に相当する国家審計署が三峡堰(ダム)堤工程を精査した結果，113 人が関与した 76 件の違法行為・経済犯罪が摘発され，不正と認定した金額は 34.45 億元（公告の 2013 年 6 月 7 日には約 555 億円）に上る。翌年 3 月 24 日に中組部は三峡集団の会長・社長を免職し，大型国有企業の No.1・2 の異例な同時解任の余波が収まらない内に，5 月に審計署は国家電網等の大手電力企業に進駐した。**習近平体制は遂に「電老虎」（電力業界の大物汚職者）の検挙に本腰を入れたのか，という期待は結局「泰山鳴動，鼠一匹」の展開で萎(しぼ)んだ。**

2010 年代の企業**総収益世界 10 傑に於ける中国の石油 2 社・電力 1 社は，江沢民時代に形成した経済界・政界の石油閥・電力閥の実力を思わせる。石油閥の巨頭は胡錦涛時代後期の政治局常委**（9 人中末席）**・政法委書記周永康**（1942〜　）で，彼は北京石油学院卒業（66）後に石油畑一筋で，85 年の石油工業部次官を経て 88・96 年に中国石油天然気集団の副社長（初代）・社長を務め，98 年に国土資源相，2000 年に四川省委書記，02 年に政治局委員（2 期）・公安相（〜07.10）と為ったが，**政界引退後に習近平の反腐敗の最大標的にされた。**

習総書記誕生の 4 ヵ月後から**中石油の現・旧上級幹部は相継いで中紀委の手に落ち**，2013 年の 7 人中の**元会長蒋潔敏**（1955〜　）は，国務院国有資産監督管理委員会主任に就任して半年で倒され，**「18 大」後の中央委員失脚第 1 号**として**党籍剥奪・懲役 12 年**に処された

（14.6.30，15.10.12）。蒋が特捜を受けた3ヵ月後（12.1）**妻黄婉**（1971～　）と共に拘束された**周濱**（1972～　）は，**父永康に倣って**大学・大学院で石油を専攻し留学後に石油企業で働いたが，2003年の起業以降の不正取引を追及され**懲役18年**を言い渡された（16.6.15）。

黄婉は大慶油田（黒龍江）発見（1959.9.26）の功労者汲清（1904～95，地質学者）を祖父に持ち，86年に父渝生（1944～　）・母詹敏利（1942～　）に随いて渡米し，98年帰化後に両親・夫と共に実業界に進出し，**当世の拝金主義の汚染で「石油一家」は全て中石油汚職の泥沼に嵌った。周永康も政治局常委に退任後も刑事罰を与えない「文革」後の不文律に拘らず**，中紀委に由る立件調査（2014.7.29）と党籍剥奪（12.5政治局決定）を経て，収賄・職権濫用・国家機密漏洩に由り天津第1中級人民法院で**無期懲役**に処された（15.6.11）。

石油2社・電力1社の比率に対応する様に**石油閥の超大物は他に曾慶紅も居り**，彼は中央入り前の1984～89年に上海市委の組織部副部長→部長→秘書長→副書記（宣伝主管）を歴任したが，82～84年の石油部外事局聯絡部勤務→中国海洋石油総公司聯絡部次長→石油部外事局副局長→南黄海石油公司党委書記の職歴に由って，**上海閥と目される前に石油閥に算えられよう。息子（独り子）偉**（1968～　）も**親の得意分野**で石油貿易に長らく従事した後，電力等の他分野にも進出し投資移民の身分で濠太剌利国籍を取得した，とされる。

## 驚異――20世紀最大の摩訶不思議と為る赤い超大帝国の自壊

**曾慶紅の政治局入り（委員候補）と習近平の中央委員会入り（同）の300年前（1697），濠太剌利で黒鳥が発見され英語のblack swan（黒い白鳥）の「有り得ない」の比喩は否定された。常識の驚異的な転覆や物事の突然な転変の表徴と為る黒白顛倒の怪鳥から，存在や発生が不可能と思われる物事の出現は想定外だけに打撃が非常に大きい**，という**突発的で大規模な自然災害や金融危機等に適用する「黒白鳥理論」**は，黎巴嫩出身の証券投資家・認識論者・著述家タレブ（1960～　）の*The Black Swan*（2007）に由って提起された。

**翌年に米国の投資銀行リーマン兄弟**（1850年創業）**の経営破綻**（9.15）**が引金で**，中国で**100年に1度の「金融海嘯（津波）」**と言う**金融恐慌が世界に激震を走らせた。先見性が証明された「黒白鳥理論」は特に金融分野で語られて来た**が，岩波書店が「国語辞典＋百科事典の最高峰」と自賛する新村出（1876～1967）編『広辞苑』の第7版（2018.1）では，10年ぶりの改訂で約1万語を追加した約25万語の中に，初版（55）以来の【黒鳥】の項と水鳥としての語釈は有るものの，「ブラック・スワン（理論）」の立項や転義の説明は無い。

同じ知名度・権威度が国内随一の中型国語辞典『現代漢語詞典』の最新版（2016.9）でも，第6版（12.6）の約6 900項に増補した400余りの新語に「黒天鵝」は選外と為った。**「習近平新時代」の精神を反映する【中国夢】等の積極的な意味の言葉が能く選ばれたが，次**

**の改版では習の支配力が猶保っているなら入選の可能性が高い**。何しろ彼は2019年1月21日に中央党学校で講話する際**「厳防黒天鵝**（ブラック・スワン）**」**という表現を以て，**政治・意識形態**（イデオロギー）**・金融・科学技術・社会・外部環境・党の建設の「重大風険**（リスク）**」を厳重に警戒・防止せよ**と唱えた。

その訓示は「省部級主要領導幹部堅持底線思維着力防範化解重大風険専題研討班」（「底線思維」［**最悪の事態に備えて最良の結果を求める思考様式**］の堅持と重大な危険性の全力防備・解決に関する（省［1級行政区］・部［中央官庁］級主要指導者の講習会（セミナー））の「開学班」（開講式）で発せられたが，**『現代漢語詞典』新版で採録された「底線思維」は当局の不安を窺わせ，2年後に言い出した「黒天鵝**（ブラック・スワン）**」は究極の最悪への懸念を際立てる**。高官勉強会の時期（旧暦12.15開始）は又，**建国以来の末尾**（び）**に9が付く年の厄介の多さ**を想起させる。

**経済の晴雨計**（バロメーター）**を為す株式市場では驚天動地の変化の直前や最中に続落や暴落が起り，激甚な打撃を与える想定外の極稀**（ごくまれ）**の突発的・破壊的な事象に譬える「黒白鳥**（ブラック・スワン）**」は，2008年金融恐慌の際に紐育**（ニューヨーク）**発の世界超株安連鎖（10.24・27）で最も頭を擡**（もた）**げた**。震源地の米国で直後の11月4日に第44代大統領（選挙人選出）選挙が行われ，阿弗利加（アフリカ）系として亜米利加（アメリカ）合衆国史上3人目と為る民選上院議員オバマ（1961～　）が勝ち，同国**初の非白人・阿弗利加**（アフリカ）**系・本土外（布哇州**（ハワイ）**）出身・イスラム教徒を親**（ケニア出身の父）**に持つ大統領**が誕生した。

布哇（ハワイ）大学（1907年創立）の露西亜（ロシア）語の授業で知り合った父シニア（1936～82）と母ダナム（1942～95）は，オバマの生年に結婚し3年後に離婚し，後に其々母国の政府所属経済学者（エコノミスト）と農村開発専門の人類学者に成った。漆（うるし）の様に真っ黒な父と絹（きぬ）の様に真っ白な母の肌色の正反対は幼い彼に違和感を覚えさせ，**混血の出自は人種等の差異を超える調和への追求の根底を為した**。彼は**“Change”**（変革）と**“Yes, we can.”**（私たちは出来る，行（や）れば出来る）**を煽り文句**（キャッチ・コピー）**に多用したが，「変」は黒・白の対が表徴する中国の陰陽哲学の鍵詞**である。

**儒教で尊ばれる四書（『礼記』中の『大学』『中庸』と『論語』『孟子』）・五経（『易経』『書経』『詩経』『礼記』『［左氏］春秋』）の中で，儒家が古代の占術を導入して陰・陽2元で天地間の万象を講釈する『易経』は第1の枢要である**。英訳題 *The Book of Changes* の通り**「変易の書」**に他ならないが，**陰・陽の相克相生の対立・統合は変数・変化と変異・異変に満ち，**その**同居・反転は華字の「変」の「亦＋又」の形の様に反復する習性を持つ。陰陽哲学の点睛と為る太極図の黒・白の相互内包は，「対の発想」と「黒白鳥**（ブラック・スワン）**」を連想させる。**

**習近平の「厳防」号令と講習主題**（テーマ）**の「防範」の「防」は，警句の「防微杜漸」（微細な兆候を防止し悪事の漸進を杜絶する）の基**（もと）である。**祖形の「杜漸防萌」（漸**（ぜん）**を杜**（ふさ）**ぎ萌**（ほう）**を防**（ふさ）**ぐ）**は，『後漢書』（志30巻は晋［266～420］の歴史家司馬彪［?～306頃］撰『続漢書』より，本紀10巻・列伝80巻は［南朝］宋［420～79］の歴史家范曄（よう）（398～445）撰，432年頃成立）の「丁鴻伝」に見え，「若勅政責躬，杜漸防萌，則凶妖銷滅，害除福湊矣。」（若し政（まつりごと）を勅（ただ）し躬（み）を責め，漸を杜ぎ萌を防げば，則（すなわ）ち凶妖銷滅し，害除かれ福湊（あつ）まらん）と言う。

「防微杜漸」の類義熟語**「防患於未然」（患いを未然に防ぐ）**は，**「千里之堤，潰於蟻穴」（千里の堤（つつみ）も，蟻穴（ぎけつ）より潰（つい）ゆ）**と通じる。『韓非子』「喩老」に「天下之大事，必作於細。」（天下之（の）大事必ず細に於て作（おこ）る）という道理の譬えとして，「千丈之堤，以螻蟻之穴潰；百尺之室，以突隙之煙焚。」（千丈之堤も，螻蟻（ろう）之穴を以て潰え，百尺之室も，突隙（げきえん）之煙を以て焚（や）かる）と有り，**僅かな不備でも崩壊を起し得ると諭す類の中国の警句は多い。中国の指導者が些かの隙も作らず又見せないのは，些事も大事に至り得る危険を警戒する為**である。

『道徳経』第63章にも「天下之大事，必作於細。」と有るが，老子は次の章の冒頭で「其安易持，其未兆易謀，其脆易破，其微易散。為之於未有，治之於未乱。合抱之木，生於毫末；九層之台，起於累土；千里之行，始於足下。」（其の安き持し易く，其の未（いま）だ兆さざるは謀り易く，其の脆きは破り易く，其の微（かす）かなるは散じ易し。之（これ）を為すは未だ有らざるに於てし，之を治むるは未だ乱れざるに於てす。合抱之（の）木も，毫末より生じ，九層之台も，累土より起り，千里之行（たびじ）も，足下（そくか）より始まる）と，**微細な処の重要性と早期の内の処置の必要性**を説く。

遠い旅路（たびじ）も足下の1歩から始まる意の「千里の行（こう）も足下（あしもと）に始まる」は，転じて遠大な事業も手近（ちか）い事から発足する意を表すが，**新千年紀（ミレニアム）の劈頭に平和・繁栄の持続・向上を求める人類は通常の1歩を踏み出した処，2001年9月11日に破天荒の「黒白鳥（ブラック・スワン）」の突撃で茫然とした。**イスラム過激派恐怖主義（テロリズム）組織「基地（アルカイダ）」（1988年成立）が航空機を乗っ取って紐育（ニューヨーク）の摩天楼や華盛頓（ワシントン）の国防総省（ペンタゴン）本庁舎に挑んだ同時多発恐怖主義（テロリズム）襲撃（中国語＝「連環自殺式恐怖攻撃」）は，**習近平が挙げた「黒天鵝（ブラック・スワン）」出没の政治・金融・社会・外部環境に及んだ。**

**第2千年紀（ミレニアム）の終盤の東京地下鉄駅構内毒物使用多数殺人事件（1995.3.20）**も，**平時の大都市で化学兵器を用いた無差別殺傷の第1号として世界を震撼させた。**新興宗教「オウム真理教」（1989.8.29創立）の教祖麻原彰晃（1955～2018）は，**狂気の国家転覆計画**に基づいて**13人死亡・約6千人負傷の大惨事**を作った。**高学歴の信者が多い犯行集団**に由る神経瓦斯（ガス）のサリンの散布は**知的な能力の悪用**で，**習近平が警戒した「黒天鵝（ブラック・スワン）」中の科学技術の分野**に関り，冷戦後の**第2次大戦終結50年に当る時機は時代の不気味な混沌に合致する。**

**伊太利軍（イタリア）**（1861.3.4創設）はエチオピア帝国（1270～1974）への侵攻（1935.10.3）後，**第2次エチオピア戦争**（～36.5.5）中に化学剤を大量に投下し，**戦時国際法に違反する空襲の嚆矢**と為った。**西班牙（スペイン）内戦**（1936.7.17～39.4.1）中の37年4月26日に，**独逸（ドイツ）国防軍**（35.3.16創設）から派遣された空軍主体の**義勇軍（ゴンドル）（傭兵（よう）／外人部隊）軍団**（36.11編成）は，元陸軍参謀総長フランコ少将（1892～1975）指揮下の反乱軍（国民戦線軍）を支援す可（べ）く，ビスカヤ県ゲルニカに対して**史上初の都市無差別爆撃・焼夷（しょうい）弾本格的使用の空襲**を行った。

抗日戦争中の臨時首都**重慶に対する日本軍**（1868年創設）**の空襲**（1938.12.18～43.8.23，218回）は，**長期持続・無差別殺傷の戦略爆撃の走り**として歴史に位置付けられる。**枢要の破壊・士気の低下を狙う作戦は逆に敵愾心（がい）を掻き立て，加害と被害の連鎖・反転**を現す様に

日本は戦争末期に米軍の絨毯空爆で竹箒返しを食った。**東京大空襲（1944.11.24〜45.8.15，106 回）の内「3.10」の 8 万人余り死亡**は，全国・全期間の約 56 万の 1/7 も占め **1 回分の世界最多級**を記録し，**66 年後の東日本大震災の「3.11」と隣り合う国難記念日**と言える。

**日本は軍部の暴走と誤算で日中戦争・太平洋戦争の底無し沼に突っ込んで了い，呑み込めぬ中国の国土と太刀打ちできぬ米国の国力を対手に消耗・苦戦を強いられた。**真珠湾奇襲後の対米優勢はミッドウェー海戦（1942.6.5〜7）の敗北から失われ，3 年後の**敗勢不可逆の中の沖縄戦**（3.26〜6.23）では，亜米利加合衆国軍（1775.6.14 創設）・英国軍（同 1707）が主体と為る連合国（同 42.1.1）軍の猛攻に屈し，**死者・行方不明者は 18.8 万人で県民の 1/4 にも上り，罹災者 100 万人の「3.10」東京大空襲と並ぶ同年の歴史的な犠牲**と為った。

日本に降伏を求める米・英・中首脳の「ポツダム宣言」（1945.7.26）が黙殺された後，8 月 6 日 8 時 15 分に米軍は広島市に**史上初の原子爆弾実戦投下**を行い，市民 35 万人（推計，以下同じ）中 9 万〜16 万強の死者を出した。**時・分と暗合する「8.15」天皇詔書（無条件降伏受諾宣言）発布を促す駄目押し**で，9 日 11 時 2 分に長崎市にも投下され 24 万人中 7.4 万人が歿した。**本土上陸の犠牲を防ぐ為の核兵器使用は 1 日基準で史上最大級の無差別殺傷で，非戦闘員の被害を顧みぬ新兵器の威力検証の動機も有ったなら増々非人道的**である。

**当代中国の文壇の大御所巴金**（1904〜2005，作家・翻訳家）は，中国筆会中心（80.4.17 成立）の初代会長として，84 年 5 月 15 日に国際筆友大会（21.10.5 創設，本部＝倫敦）第 47 回大会（14〜17，東京）で，総主題「核状況下の文学――なぜわれわれは書くのか」に即して演説した。その中で**広島・長崎の悲劇への強い同情を表明し，再演を絶対に許さない全人類の決意を代弁し**，千羽の折鶴を折っても延命の効果が無かった被爆少女（佐々木禎子，1943〜55）に思いを馳せ，可能なら自分の命を引き換えに幸せを与えたいと語った。

18 日の『朝日新聞』夕刊に載った対談「国際ペン大会に臨み　作家の責任と良心」で，巴金は**保有国の全国政協会議副主席**（1983.3〜歿）**の立場に拘らず核兵器への反対を表明した。**劇作家木下順二（1914〜2006）が讃えた彼の**「文革」回顧の壮絶な自省**に就いて，「文革」は中国の国家・民族にとっては悲劇・災難であったが，原爆が如何に恐ろしいかは広島・長崎や日本の人でなければ理解できないのと同様，「文革」がどんなに大きな悲劇だったかは外国人には中々理解して貰えないと言い，**「文革」の再来を筆で阻止する決意**を述べた。

演説の **27 年前に毛沢東は**「走向反面」（反対の方へ向かう）を書き，脱稿の翌日（6.12）「事情正在起変化」（事態は変化しつつある）の題で党内へ配った文章で**「反右」を決意し，9 年後の「5.16」に「文革」発動の中央決議が採択された。9 年の 2 倍の歳月が経った後に巴金は「文革」と日本への米軍原爆投下を同列に論じたが，胡耀邦も交戦の怨念を超えて唯一の核被爆国の受難に「難友」に近い同情を抱き**，爆心地の長崎平和公園（1950.8.1 開園）への訪問（83.11.30）後，85 年 7 月 16 日に揮毫「和平」付きの彫塑「乙女の像」を寄贈した。

広島平和記念公園（1954.4.1 開園）内の広島平和都市記念碑（通称「広島原爆死没者慰霊碑」）に，「安らかに眠ってください / 過ちは / 繰返しませぬから」という碑文が刻まれている。浜井信三市長（1905～68）の依頼に由り，被爆者である広島大学（1874 年設立）教授雑賀忠義（1894～1961，英文学者）が考案・揮毫し，除幕（52.8.6）前（7.22）に正式決定された。**人類の不再戦の誓い**を意図した文言は非が日本側に在る様な語弊を指摘されたが，**「文革」は被害者の自分にも責任の一端と再発防止の義務が有るという巴金の考えと通じ合う。**

巴金は 1978 年 12 月～86 年 8 月に香港（ホンコン）『大公報』に 150 篇の随想を連載し，『随想録』『探索集』『真話（真実の話）集』『病中集』『無題集』の 5 集に分けて，三聯書店（香港（ホンコン））より 79 年 12 月・81 年 4 月・82 年 10 月・84 年 10 月・86 年 12 月に刊行した。総題**『随想録』の巨編は「文革」の誤りを告発し自身の非力を反省する等が見処**であるが，**改革・開放始動の月に執筆が始まり胡耀邦失脚の前月に出版が終った**時期は，後に**大陸で発表する版本（テクスト）が様々な規制を受けた**事態と共に，**鄧小平時代の言論自由の不完全**を如実に物語る。

国際筆友大会（ペン・クラブ）が**世界文化名人 7 傑の 1 人**とする巴金が東京大会で講演した日，全体会議後 3 分科会の内**「作家と人権」**で**表現対検閲**の問題が熱っぽく議論された。司会の工藤幸男（1925～2008，露西亜（ロシア）・波蘭（ポーランド）文学者，多摩美術大学［53 年設置］教授）は，**現代は亡命の時代**でもありそれが**人権の喪失**にも結び付いていると議題の重要性を説いた。エストニアから米国に亡命中のラニット（経歴未詳）は冒頭の発言「ソ連の検閲に見る作家の人権」で，第 1 次大戦後の母国の筆会中心（ペン・クラブ・センター）設立以来の波乱と**今も続くソ連からの検閲**を紹介した。

最後に露文学者の木村浩（1925～92）は**検閲への克服に関する意識の向上**を唱えたが，露・波文学者の提言はソ連加盟国出身者の告発と共に**共産圏の人権・発言権規制**を実感させる。工藤幸男と血縁関係の無い同姓・同分野の学者には，工藤精一郎（1922～2008，露文学者，関西大学［22 年設置］教授）と工藤正廣（1934～　，露・波文学者，作家，北海道大学［18 年設置］名誉教授）が居る。斯界の層の厚さは日本に於ける**露西亜（ロシア）文学の影響力**と**ソ連・東欧の存在感**を窺わせるが，巴金の訳書にも露 / ソ・波文学が数多く入っている。

**巴金の訳書の最初**（1927）**・最多**（6 冊）は，**露西亜（ロシア）の社会思想家・地理学者クロポトキン公爵（しゃく）**（1842～1921）**の論著・自伝**である。相互扶助を進化の法則とし無政府主義（アナーキズム）の学説の基礎付けに励んだ彼は，1872 年に国際労働者協会（第 1 国際（インターナショナル）。64.9.28 結成）に加わり，翌々年に革命謀議の罪で逮捕され，脱獄後の英国に次ぐ亡命先でも投獄を繰り返した。2 月革命（1917.3.8～12）を受けて帰国した後は臨時政府の文部大臣就任の打診を断り，10 月革命後も**共産党の集権的な民主集中制と違う分権的・反権威主義的な革命を目指した。**

巴金の本名李堯棠と字芾甘（あざなはい）は『詩経』（中国最古の詩集，伝・孔子編）「召南・甘棠」の「蔽芾（へい）たる甘棠」に由来し，その蔽い茂（しげ）った堅梨（かたなし）の木と無関係の筆名は早期の思想に由って，「克魯泡特金（Kēlǔpāotèjīn）」（クロポトキン）と「巴枯寧（Bākūníng）」（**バクーニン**［1814～76，**露西亜（ロシア）の無政府主義者（アナーキスト）**）

の合成と誤認されている。実際は巴里滞在中の自殺した学友巴恩波（1904～28）と，翻訳中のクロポトキンから各１字を取ったのである。**全ての権力・強制を否定し個人の自由への拘束が皆無の社会に対する期待は，文学青年の巴金だけでなく一部の知識人には有った。**

李商隠は蜀の滞在中に長安の妻に贈った７絶「夜雨寄北」（夜雨，北に寄す）は，「君問帰期未有期，巴山夜雨漲秋池。何当共剪西窓燭，却話巴山夜雨時。」（君帰期を問うも未だ期有らず，巴山の夜雨秋池に漲る。何か当に共に西窓の燭を剪って，却って巴山の夜雨の時を話るべき）と，２回「巴山夜雨」を使う奇想で連綿たる夜雨と纏綿なる情趣を表す。四川通江県に在る巴山は「～蜀水」の組み合せで同省の山河を表す熟語と為るが，巴金の筆名には**四川成都の出身と仏蘭西留学**（1927～29）**の体験，西洋無政府主義の影響が重なり合う。**

無政府主義の最重要人物のバクーニンは，露西亜の波蘭弾圧への反対で 1847 年に仏蘭西から独逸に追放され，翌年に「諸国民の春」（48.2.22～49）の蜂起に参加した為に本国へ強制送還され，入獄９年後の西伯利亜流刑中 61 年に脱走し日・米経由で倫敦に逃げた。1863 年に波蘭の１月蜂起（22 日に勃発）へ赴き（未到着），第１国際への加入（68）後も，巴里革命自治体（71.3.18～5.28）の先駆けと為る里昂暴動（70.9.4 革命自治体結成）に身を投じたが，**無産階級独裁に反対する彼は革命の為の亡命に於て政敵マルクスと通じ合う。**

マルクスも 1948 年革命の初期に亡命先の白耳義で逮捕・永久追放され，翌年に普魯西から偽装旅券で渡仏し，潜伏生活が露見した後瑞西にも入国を拒否され，無国籍者として同年から倫敦に余生を送った。レーニンも西伯利亜流刑（1897～）終了の 1900 年に瑞西に亡命し，17 年蜂起（7.16～20）の失敗後芬蘭に逃げ，スターリンも 03～17 年の間に流刑３回・国内逃亡２回を経験した。孫文・郭沫若の日本亡命（1894～1916 の間 12 回，13～16 / 28～37）も含めて，**前近代～冷戦前の世界に於ける生存や使命の為の逃亡や亡命は多かった。**

**1984 年に文学者親睦団体の世界大会の「作家と人権」分科会で言われた「亡命の時代」は，核軍備競争が止まぬ状況下の冷戦末期にも罷り通っている前近代的な抑圧や悪政**を示す。開催年とソ連の検閲に関する報告は英国の作家**オーウェルの『1984 年』**を連想させるが，彼の**逝去（50.1.21）の恰度 26 年前に歿したレーニンが創った赤い帝国の「鉄の障壁」は，全体主義**（中国語＝**「極権主義 / 全能政体 / 総体統治」**等）**を諷刺する長篇小説に投影が見え，出版（49.6.8）の 114 日後に成立した中共政権の「竹の障壁」で継承され今日に至る。**

従来の大会で積極的に語られなかった検閲の問題を強調した木村浩は，ソ連の作家ソルジェニーツィン（1918～2008）の実録文学『収容所群島 1918～1956 文学的考察』（73～75）を翻訳した（新潮社，74～77）。**強制収容所「グラグ」で「反革命分子」が受けた拷問・苦役・処刑の惨劇に対する暴露**は，発禁規制を逃して仏蘭西で刊行された後に**旧体制の人権侵害への国際社会の糾弾**を招来した。彼は **1970 年ノーベル文学賞の受賞**（露西亜人として４人目）**に関らず，74 年に「国家反逆罪」で逮捕・市民権剥奪・西独逸への追放に遭った。**

彼は1945年2月に東普魯西（プロイセン）前線から**友人への手紙で暗に領袖を貶したとして，反ソ宣伝・敵対的組織の設立の嫌疑に由り収容所で査問を受け**，7月に**欠席裁判で懲役8年**に処された。スターリン死去の1953年3月に**刑期終了後の釈放に代って永久流刑**と為り，ソ共「20大」後の「雪融け」の御蔭で56年7月に解放された。**強制労働の体験に基づいた**中篇小説『イワン・デニーソビチの1日』は，**党首が最高幹部会議でスターリン主義の悪の根絶を訴えた結果1962年に発表できたが，フルシチョフ失脚後の停滞期には運命が暗転した。**

彼の作品は**保守派新体制**の下ソ連作家同盟（1934.8.17発足）の不許可でお蔵入（くらい）りと為り，短篇「胴巻（どうまき）のザハール」（66.1）を最後に**国内で新作公開の道は断たれた**。1967年5月に作家同盟第4回大会に出した**検閲廃止要請の公開状も黙殺され**，翌年に長篇『癌病棟』と『煉獄の中で』を**西独・仏／米で発表した事も禁忌に触れ**，69年10月に反ソ的意識形態（イデオロギー）活動として同盟から除名された。**作家の意志対当局の統制の攻防では猶挫（くじ）けず**，国家保安委員会（KGB）（1954.3.13設立）の原稿押収の裏を掻（か）いて，『収容所群島』を**堤防の穴から外に届けた**。

**市民権剥奪・国外追放の重罰は開国元勲トロツキー**（1879～1940）**以来45年ぶり**の事で，**10月革命の38年前**（11.7）**に生れた彼（か）の赤軍創設**（1918.1.28）**者**・政治局委員は，98～17年の間に**投獄・流刑・脱走・亡命の中でマルクス主義に魅（ひ）かれ自分の思想を固め**，本名ブロンシュテインからの改名も革命参加の初期の収監時の看守から借用した物である。彼は**政争に敗れて1927年に党から除名され終いに墨西哥（メキシコ）でソ連の刺客に暗殺された**ので，**独裁統治・恐怖弾圧の国家的犯罪を暴くソルジェニーツィンに対する危険視は異様に高い。**

彼は1973年8月『世界（ル・モンド）』（仏蘭西（フランス）の夕刊紙）・AP通信（米国の大手通信社）との会見で，自分が急死したならKGBの仕業だと言って**身の危険を伝え当局を牽制した**。上記の巴金講演・「作家と人権」分科会討論の5ヵ月後，当時1党専制の期間がソ連に次ぐ世界2位の台湾国民党政権が絡む江南暗殺が為された。**大独裁者の死後に非スターリン化が長らく続いたソ連は流石に然様な暴挙には出ず**，逆に**「再建（ペレストロイカ）」の新潮**の中で1989年7月に『収容所群島』は解禁され，著者は翌年8月の市民権回復を経て94年5月に米国から帰国した。

米国に亡命中のエストニアの文学者がソ連の検閲から見た作家の人権と関るが，『収容所群島』（1958～67年執筆）はエストニアの友人が保存・流出したのである。解禁直後の**8月23日（把瑠都（バルト）3国のソ連併合を認める「独・ソ不可侵条約秘密協定書」調印［莫斯科（モスクワ）］50周年），エストニア・ラトビア・リトアニア3ソビエト共和国（1940.7.21改称，8.3ソ連加盟）の200万人が手を繋ぎ，3ヵ国を結ぶ600㌔超の「人間の鎖」を作り，独・ソに由る瓜（か）分の前の独立国に回復するよう訴求し**，同年の**東欧社会主義陣営の瓦解に勢いを加えた。**

ソ共党首は初代のレーニンと次のスターリン書記長，マレンコフ／フルシチョフ第1書記に続いて，書記長に改称し**ブレジネフ**が就任した（1964.10.14～82.11.10）。スターリン生誕27周年の翌日（12.19）に生れた彼は，**職名変更と共にスターリンの集権志向・強硬路**

**線へ逆戻りした。大祖国戦争**（1941.6.22～45.5.9）**勝利30周年の前々日の元帥授与**（史上33人目）の様に彼は**「先軍」色**が濃厚で，**「布拉格(プラハ)の春」鎮圧（1968.8.20）・対中国国境戦闘（69.3.2・15）・亜富汗斯坦(アフガニスタン)侵攻（79.12.24）で，隔世遺伝の鷹派の対外拡張を断行した。**

10月革命65周年の軍人・労働者進行(パレード)を赤の広場のレーニン廟上の雛壇から観閲した3日後，ブレジネフは酷寒が祟って8ヵ月ぶりの心臓発作で11月10日に急逝した。17年前の同日は毛沢東が「文革」の前哨戦を仕掛け中国の運命の転換点と為ったが，今回のソ連では**2日の空白**を経て第2書記**アンドロポフ**が後を継いだ。**国家(K)保(G)安委(B)第4代議長**（1967.5.18～82.5.26）**・大将・詩人**の彼は党首就任の前後に，ソルジェニーツィンを追放する等と**反体制分子の粛清に大鉈(おおなた)を振るい，汚職摘発の推進でブレジネフの親族の逮捕も辞さなかった。**

王座に登り詰めたアンドロポフは**糖尿病に由る腎機能低下の障害が実力発揮のアキレス腱(けん)で，最高会議幹部会**（立法府の常設機関）**第8代議長（国家元首）に選出された時（1983.6.16），演壇まで歩けず自席で受諾演説を行う羽目(はめ)に陥った。39歳年下の習近平と同じ誕生日の彼は前日に69歳と為ったが，60代の終盤に有り勝ちな不調は胡錦涛時代以来の中共要人67歳定年の慣例の健全性を思わせる。**同年**9月1日の政治局会議の司会を最後に公の場から姿が消え，最晩年の周恩来と同様に半年近く病床で執務した後に死去した。**

**第2次世界大戦勃発44周年に当る「9.1」に，防空軍**（1948.7編成）**が領空侵犯の大韓航空機を撃墜した。乗客・乗員269人が全滅した惨劇は相手国の抗議と国際社会の追及を浴びたのに，ソ連は元首不登場**（「不登校」を捩った諧謔語）**の儘**であった。毛沢東も「9.13事変」の際に放心状態に陥り，2年後の「10大」開会式の終了後に座席から立ち上がれず，党大会・中央全会への出席が途絶えた。**毛は最後の政治局会議司会**（1975.5.3）**の1年4ヵ月余り後に逝ったが，より病弱なアンドロポフは5ヵ月余り後の84年2月9日に没した。**

4日後に第2書記から昇進した**チェルネンコは前任者より年長の72歳**（1911.9.24生）で，**若返り化に逆行し先々代に対する隔世継承**（造語）**の観も有る。**彼はモルダビア社会主義共和国（1940.6自治共和国［34～］より昇格）の党中央第1書記ブレジネフの知遇を得て，48年にモルダビア共産党中央宣伝煽動部長，56年にソ共中央宣伝部大衆煽動活動課長，60年に最高会議幹部会議長（ブレジネフ）首席補佐官，64年に中央総務部部長，71・76・77・78年に中央委員→書記局書記→政治局委員→同委員と為り，**順調な出世**を遂げ続けた。

**ブレジネフは自分と同じ技師出身者が政治局の8割強を占める技術官僚(テクノクラート)支配体制を敷く**一方，**側近群を重用し大番頭の再来期**（「再来年」に擬えた造語）**党首就任への布石も打った。**チェルネンコの得意分野の**宣伝・煽動と党務は中共でも高度に重視されており，異名「書記長官房」の中央総務部長は中央辦公庁主任と類似する。**重要会議の議題設定や中央指示・決議案の作成，**党幹部への盗聴・監視**を司る総務部長は，**運営の権限と情報の掌握に由って指導部の枢要を為す**が，**党首に成れない中辦主任と違って**彼は**権力の頂点を極めた。**

チェルネンコは前任者の葬儀（2.14）で国歌演奏・遺体埋葬の際，居並んで敬礼する政治局員の内に独りだけ途中で**無気力**の手を下ろして了（しま）った。両者は「肝腎」「肝心」の和製語義を体現する様に其々**腎と心肺の弱さが命取りに為り**，彼は翌年3月10日に肺気腫（しゅ）の悪化に由る心肺機能不全で心拍動が停止した。**病室を執務室の様に見せ掛けて健在ぶりを宣伝した**事は，**毛沢東・蒋介石と通じる「病人治国」の悲喜劇**である。オガルコフ元帥（1917～94）に対する**電撃的な参謀総長解任**（9.6）からも，**短命政権を維持する執念**が見て取れる。

**20歳年少のゴルバチョフは54歳と為った9日後に新党首に就任したが，「3.11」は30年前の史上最多**（6人）**の元帥授与を以て由緒有る吉日**と言える。**解放軍の階級制度発足と元帥・将軍初授与も1955年**（2.8，9.27・28）であるが，**ソ連元帥の制度創設・初授与は20年早く中国工農紅軍長征勝利の前月・翌月**に当る。1935年9月22日の創設後11月20日に5人（歴代2位）が名誉の高位を得たが，当日に20歳の誕生日を迎えた胡耀邦の名の様に**連邦を輝かした功臣の内に，3人は赤軍大粛清中の37・38・39年に次々と処刑された。**

**ゴルバチョフの歩みと関る様に出生の12年前に共産国際（コミンテルン）設立大会が莫斯科（モスクワ）で開幕し，7歳と為った日に大粛清の第3次莫斯科（モスクワ）裁判が始まった。1969年「3.2」に中ソ国境紛争**（珍宝島/ダマンスキー島［中/ソの名称］の領有権を巡る軍事衝突）**が勃発し，両党・両国の長年の敵対は冷戦終結の半年前の訪中で漸く和解に至った。61歳の誕生日**にはアルメニア・アゼルバイジャン・キルギスタン・摩爾多瓦（モルドバ）・汰爾奇斯坦（タジキスタン）・土耳古斯坦（トルクメニスタン）・月即別斯坦（ウズベキスタン）が国連に加盟したが，**旧ソ連加盟国の大量移籍は彼が前年末に連邦を解体した結果**に他ならない。

**20世紀の3月11日の重要な出来事**として，**1912年**の袁世凱（前日就任の臨時大統領）に由る**中華民国臨時約法の公布・実施，66年のスカルノの政治権限委譲命令書の署名とスハルト陸将のインドネシア大統領代行の就任**が挙げられるが，**85年のゴルバチョフ書記長誕生は内政・外交の両面で最も世界史を変え，**その**新思考や政策転換が影響した東欧共産圏消滅と冷戦終結**を経て，**5年後の同日にリトアニアは加盟国の中で率先してソ連からの脱退・独立を宣言し，把瑠都（バルト）「同志国」**（造語）**は翌年8月20～21日に揃って再独立した。**

**エストニアがラトビアより1日早く達成した「8.20」**は，**51年前に刺客が凶刃でトロツキーを斬った日**（翌日致死），**23年前にワルシャワ**（友好協力相互援助）**条約機構**（1955.5.14結成の**ソ連・東欧衛星国軍事同盟**）**加盟の5ヵ国聯軍が自由化運動を鎮圧する為にチェコ＝スロバキアを侵攻した日**である。**歴史の連環の上で熱戦・冷戦時代と反転した展開**は，**新連邦条約調印（8.20予定）前の「8月政変（クーデター）」（19～22）の政治的な空白に乗じた**節も有ろうが，**事変と55年前の大粛清の第1回莫斯科（モスクワ）裁判（1936.8.19～24）の「時縁」**も目を引く。

ゴルバチョフ夫妻がクリミア半島フォロスの別荘「曙（あけぼの）」に休暇中の**18日，守旧派政変集団「国家非常事態委員会」**の使者として，ポルジン大統領府長官兼中央総務部長（1935～2006）等が訪れ，**大統領辞任とヤナーエフ副大統領**（1937～2010）**への全権委譲，非常**

**事態宣言の受諾を迫った**。党首・元首は**最側近の「総書記・大統領官房」から叛逆行為を通告されて驚愕し**，要求を全て拒否した為**軟禁された**。**クリュチコフ国家保安委員会（KGB）第7代議長**（1924～2007，上級大将）**が立案した「曙作戦」は，翌朝に全国向けに敢行された**。

非常委は6時半タス通信（国家通信社）を通じて，大統領の体調不良に由る執務不能と副大統領の職務代行を宣告し，首都中心部への戦車出動や莫斯科（モスクワ）放送（国家放送局）の占拠で**大権と輿論の要を掌握した**。**急進改革派のエリツィン露西亜（ロシア）連邦初代大統領**（1931～2007，91.7.10～99.12.31在任）は，11時の記者会見で**政変の違憲と非常委の非合法**を糾弾し，後に**戦車の上で総同盟罷業（ゼネラル・ストライキ）を呼び掛け**同夜に戦車10台を帰順させた。市民が籠城した露西亜（ロシア）最高会議庁舎（ビル）に対する**保守派の奪還命令も，KGB特殊部隊の不服従で実行し得なかった**。

**20日**に民衆10万人が露西亜（ロシア）政府庁舎（ビル）前で「エリツィン！露西亜（ロシア）！」の標語集団唱和（シュプレヒコール）を繰り返し，**全国で労働者罷業（スト）・市民示威（デモ）が多発し流血事件も起きた**。**翌日**0時頃に戦車隊が政府庁舎（ビル）へ突進し火炎瓶で抵抗する者を3人死なせ，4時頃に露西亜（ロシア）側の発砲で2台が破壊され10数名の民間人が命を落した。5時頃の非常委決定に由る戦車撤収の後，11時頃に露西亜（ロシア）最高会議は最終通告で22時までの権力放棄を求めた。**内外の孤立で非常委は絶望に陥り**，一部の成員は辞任し**副大統領は大統領を代行するどころか泥酔で執務不能と為った**。

21日午後1時53分にエリツィンは**政変の不発**を宣言し，4時台に非常委のフヤゾ国防相（1924～　，元帥）は首都から部隊撤退を指示した。**非常委8人衆の内にプーゴ内相**（1937年生）**は拳銃で自殺し**，他の面々も逃亡を始めたが続々と逮捕された。ゴルバチョフはクリュチコフを弾除けとして連れて首都に帰ったが，**叛逆の要人に自分の側近が多い故に彼と党の威信が失墜した**。**23日**に**救国英雄のエリツィン**は**露西亜（ロシア）共産党の活動停止を命じる**大統領令に署名し，**24日**に**ゴルバチョフはソ共書記長を辞任し中央委員会の解散を要請した**。

**超短命**の国家非常事態委員会の8人組は上記の4首謀者の他，パブロフ首相（1937～2003），バクラーノフ国防会議第1副議長（1932～　），スタロドゥプツェフソ連農民同盟議長（1931～2011），チジャコフソ連国営企業・工業・建設・運輸・通信施設共同協会会長（1926～2019）も居た。自殺者を除いて**全て投獄され**ヤナーエフ以外の人は1992年に**恩赦で釈放された**が，同様の扱いを受けた黒幕のルキヤノフソ連最高会議議長（1930～2019，89.3.15～91.8.22在任），ゴルバチョフ夫妻も含めて**暗黒で血腥い30年代生れの人が多い**。

**ソ連のその10年中の「8.19」事件は大粛清「公演」開幕の第1回莫斯科（モスクワ）裁判の開始**で，**キーロフ**（政治局委員・レニングラード地域/市党委第1書記）**暗殺**（1934.12.1，歿年48）後，**スターリンはトロツキーと結託する「合同本部陰謀」の疑獄を作り上げ**，レーニンの晩年に政治局で**自分と3人組（トロイカ）を組んでトロツキーを排除したジノビエフ**（1883年生，共産国際（コミンテルン）議長等歴任，前年より禁錮10年服役中）**・カーメネフ**（同，全露西亜（ロシア）中央執行委員会議長等歴任，同年より禁錮10年服役中）**等16人を死刑に処し，判決（8.24）の翌日に銃殺した**。

**似非（えせ）「公開裁判」の茶番劇**で23日に判事は**第2回裁判（1937.1.23～30）の予告**として，**トムスキー**（政治局委員・全露労働組合中央評議会議長等歴任）等の「反ソ陰謀」捜査中に言及し，トムスキーは逮捕・処刑が避けられないと悟って前日に**拳銃で自決した**（歿年55）。**55年後の同じ「8.22」のプーゴ内相自殺**に続いて，**24日に**政変協力者の**大統領顧問アフロメーエフ元帥が首吊りで命を絶った**。マルクス生誕105周年の日（1923.5.5）に生れた彼は，チェルネンコに由る参謀総長解任の後任で**中共軍並みの当該職位の危険性**を思わせる。

**ソ連元帥は大粛清に由る3人減を補うよう1940年5月7日に同数の増加が行われ**，83年3月25日に2回目の3人（38～40人目）同時授与が行われた。アンドロポフ時代に昇進したアフロメーエフは中央委員で国防相第1次官も兼ねた。退役（1989.2）後の元首・党首在任中も**変革（ペレストロイカ）路線に消極的**で，**国家分裂を阻み社会主義を守る為に軍の出動も有り得る**と90年11月14日に語った。元帥制度廃止（1991.7.1）前の最後（41人目，90.4.28授与）のヤゾフも政変に加わったが，**中国の「6.4」惨劇と違って軍隊は武力行使を嫌がった**。

**リトアニアの独立回復宣言は就任5年のソ共党首の支援を得ず**，逆に**経済封鎖とKGB特殊部隊の侵攻**（1991.1.13）**を受け**，首都ビリニュスの電視塔（テレビ）を守る「人間の盾」の市民13人が戦車部隊に殺害された。ソ軍兵士1名も戦友の発砲で死んだ**「血の日曜日」の衝撃**は，**「8月政変」中の同部隊や陸軍主力・空軍の不参加に影響を与えたかも知れない**。増々強まった**リトアニアの独立志向は初の非共産党員の最高会議議長ランズベルギス**（1932～　）**に負う処が大きい**が，音楽学者の彼と通じて**エリツィンも脱共で最高権力と民心を得た**。

**ソ共総書記の就任資格として政治局委員兼書記局書記でなければ成らず**，チェルネンコの後任候補は**ゴルバチョフとロマノフ**（1923～2008）**しか居なかった**。前レニングラード州委第1書記で重工業担当書記の後者は不利を自覚した故，同じ**保守派党官僚**の政治局委員・莫斯科（モスクワ）市委第1書記**グリシン**（1914～92）を担ぎ出したが，**両局成員でない彼は仕来（しきた）り通り順当に落選し古稀の党首誕生は避けられた**。古参組の外相・閣僚会議副議長**グロムイコ**（1909～89）**の強い推挙**で，**必須条件と若返り化の時流に適うゴルバチョフ**は当選した。

グロムイコはフルシチョフ治下から外相を28年余り務め（1957.2.14～85.7.2），後（ポスト）チェルネンコ時代も含む**「5朝元老」の若手起用論は説得力が有る**。この若い人は**笑顔が素敵だが鉄の歯を持っている**という政治局に於ける推薦演説の言葉は，英語の**cool**（クール）と中国の音訳兼意訳「**酷**（kù）」の「**恰好が良い**」「**冷厳**」**の両面**を言い得て妙である。**「柔中寓剛，綿里藏針」（柔の中に剛を寓し，綿の内に針を包（くる）める）**という，**鄧小平再起の際に毛沢東が贈った熟語**を思い起すが，1973年12月14日に一部の政治局成員に語った8字は**外柔内剛の勧め**である。

毛沢東は**人に怖がられる性格を改めるよう**相手を諭し，**「外面和気一点，内部是鋼鉄公司」（上面（うわべ）では少し和（なご）やかで，内面は製鉄所［強硬姿勢・手段の譬え］だ）**と言ったが，**鉄鋼会社の比喩はスターリンの名前の由来と為る筆名の「鋼鉄の人」の意と通じる**。政治局は「党政

軍民学，東西南北中」の全てを管理するのだ，という命題も鄧小平の政治局委員復帰を告げる同じ席上で打ち出された。44 年後にその「最高指示」を甦らせた**習近平は鄧を超えて，素敵な笑顔で人気を博した後に鉄の歯を剥ぎ，「製鉄所」経営の「鉄人」の素顔を顕にした。**

**黒鳥の発見後 300 年来の世界史上最大の「黒白鳥（ブラック・スワン）」はソ連の崩壊**と言え，**超絶の激動・破壊を呈した 20 世紀の 2 回の世界大戦が明確な必然性を持つ**のに対して，**東側の超大国の自暴自棄・自爆自滅の消失は奇天烈（きてれつ）で摩訶不思議**である。**ゴルバチョフの党首就任から自縄自縛・自負自害**（造語）**の伏線が敷かれたが，33 年後の同じ「3.11」の中国には憲法改正に由る国家主席任期の撤廃で 2010 年代最大級の「黒白鳥（ブラック・スワン）」が現れた。毛沢東の 3 選続投禁止を破った集権の驀進は，中米貿易戦の激化や香港（ホンコン）民衆抗争の「黒天鵝（ブラック・スワン）」を招来した。**

**附記**

本稿連載の第 2 回の文献一覧は時間・紙幅の都合に由り，又重複を避ける為に，3 回目以降に纏めて掲載する。

（夏　剛，立命館大学国際関係学部教授）

# 习近平的原点和“红色基因”
# ——对毛泽东、邓小平的继承及超越（2）

本论著的连载第 2 回首先根据中共建政后政治气候变动、循环及左右两极间摇摆的规律，指出习近平时代出现向毛泽东时代回归的迹象，并分析其必然性和走向。

继而追溯“文革”前奏曲——“四清”及伏笔—— 8 届 10 中全会，注目党主席、国家主席的夫人越权参政引起摩擦而致影响政局的“负作用”。

对照日本自民党内争权夺利的事例和机制，指出中共内部斗争同样不乏嫉妒、憎恶等复杂情感，及加剧冲突的负能量和危险性。

由中朝近期急剧接近回顾两个“先军党国”的“血盟”关系，在喜好盛典、崇拜领袖等倾向中发现同根性及相互同化的演变。

通过党内外、国内外诸多风云人物的命运浮沉，审视 20 世纪以来充满屠杀、迫害、自灭的受难悲剧。

在党史和政坛中种种地缘、亲缘、“史缘”关系内，发现政治风险及形成人脉的可能性，进而联系促成“太子党”崛起、各类派系兴盛的纽带。

最后寻求 20 世纪最大的“黑天鹅”——红色超级帝国苏联解体的启示。

（夏　刚，立命馆大学国际关系学院教授）